資料３

下野市男女共同参画プラン市民意識調査

報告書

平成 24 年 2 月

下野市　総合政策部　総合政策課　政策推進グループ

目　次

１　調査の目的 **1**
２　調査の概要 **1**
（１）調査対象者数と実施概要 1
（２）回収結果 1
３　集計方法 **2**
（１）報告書の見方 2
４　アンケート集計結果 **3**
（１）回答者属性 3
（２）仕事について 5
（３）生活全般について 31
（４）男女の人権について 56
（５）男女共同参画に対する意識について 72
（６）市(行政)に要望する方策について 84
（７）自由回答 100
（８）その他の回答集 110
資　料 **119**
アンケート調査票 **119**

１　調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画に対する意見を伺い、「下野市男女共同参画プラン」の進捗状況を把握するために実施しました。

２　調査の概要

（１）調査対象者数と実施概要

本調査は、下野市にお住まいの 18 歳以上の方を対象とし、合計 2,000 人（男性 1,000 人、女性 1,000 人）について無作為抽出調査を行った。

本調査の調査対象者数及び実施概要は下表に示すとおりである。

調査対象者数

区　　分	調査対象者数	調査対象
18 歳以上の男女	2,000 人	無作為抽出

実施概要

項　目	詳　細
調査対象地域	下野市全域
調査形式	アンケート調査
配布・回収方法	郵送配布・回収
調査時期	平成 23 年 9 月

（２）回収結果

本調査の回収結果については、下表のとおりである。

回収結果

区　　分	調査票配布数	有効回収数	有効回収率
18 歳以上の男女	2,000	710	35.5%

３　集計方法

（１）報告書の見方

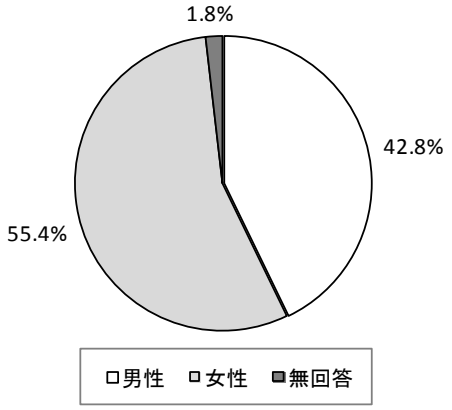
・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱う。
・本報告書では、回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は「非該当」として扱う。
・設問の構成比は、回答者数（該当設問での該当者数）を基数として百分率（%）で示している。したがって、非該当者数は、構成比に含まれない。
・比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入し算出しているため合計が 100%にならない場合がある。
・複数回答については、回答者数を基数として百分率（%）で示している。したがって、合計値は 100%にならない場合もある。
・グラフ中の値の表記について、3%未満のものは、細かく見づらくなるため、省略している箇所がある。

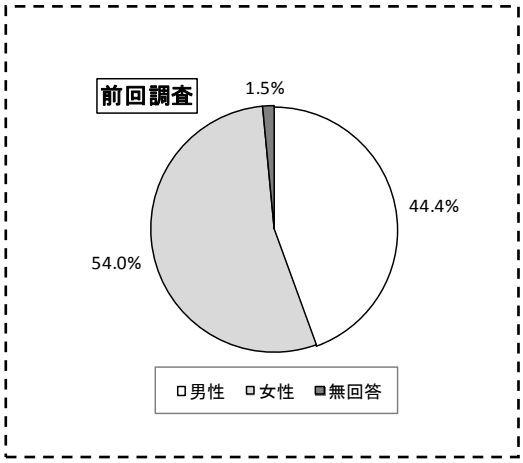
４　アンケート集計結果

（１）回答者属性

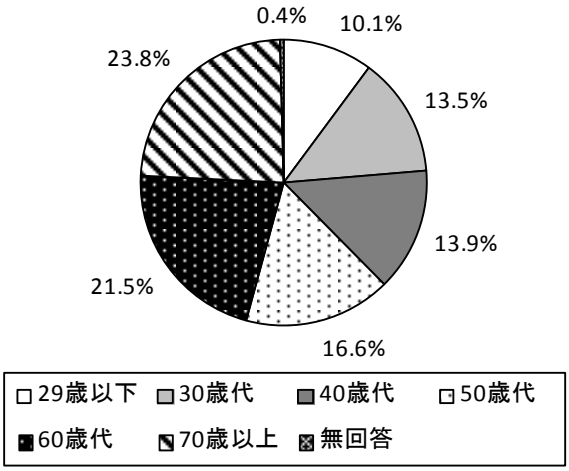
（前回調査　n=779）

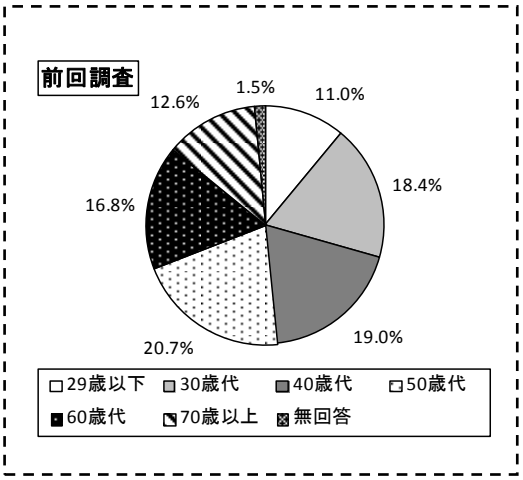
問１　性別（n=710）



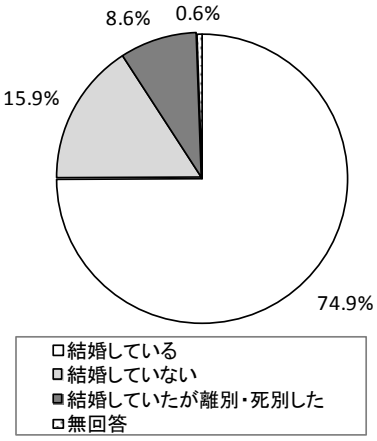


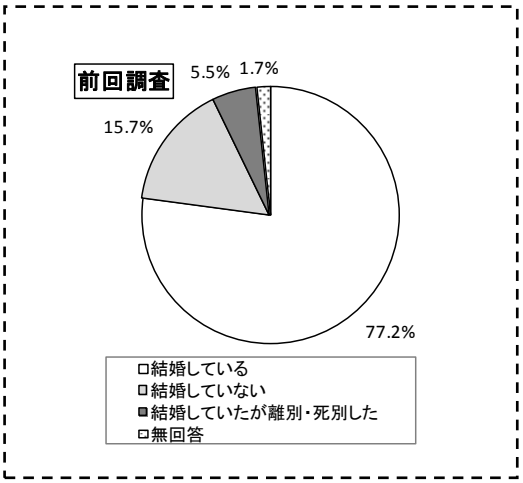
問２　年齢（n=710）



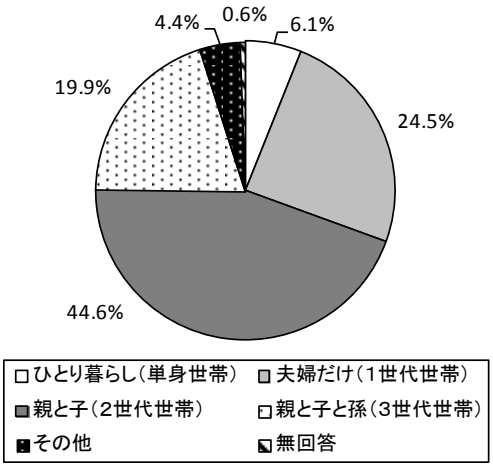


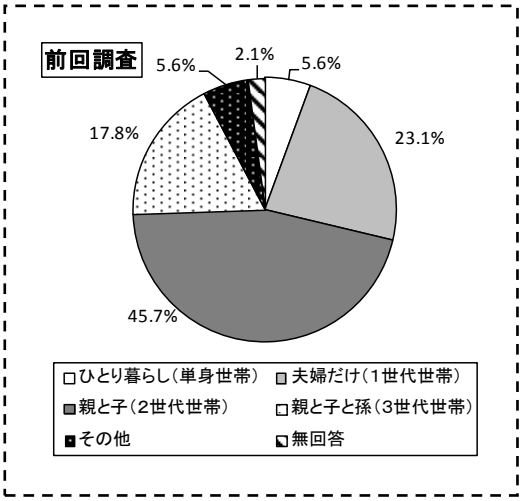
問３　結婚の有無（n=710）



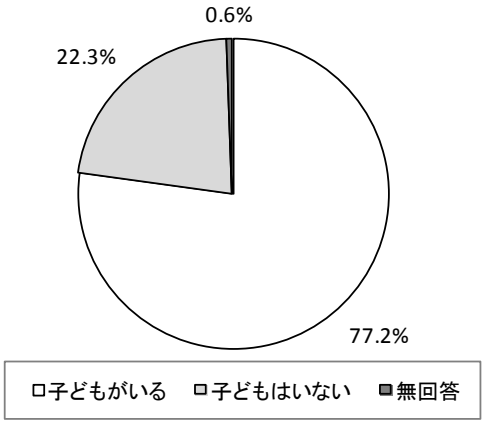


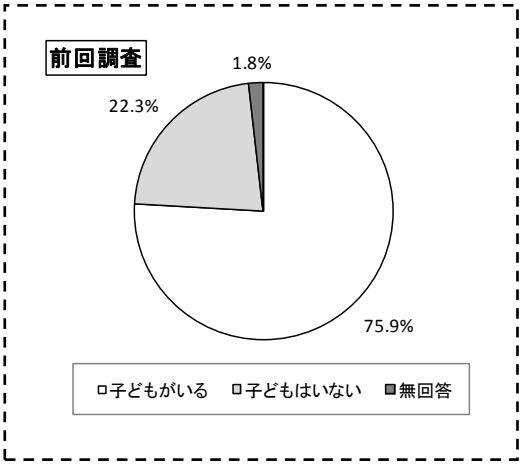
問４　家族構成（n=710）



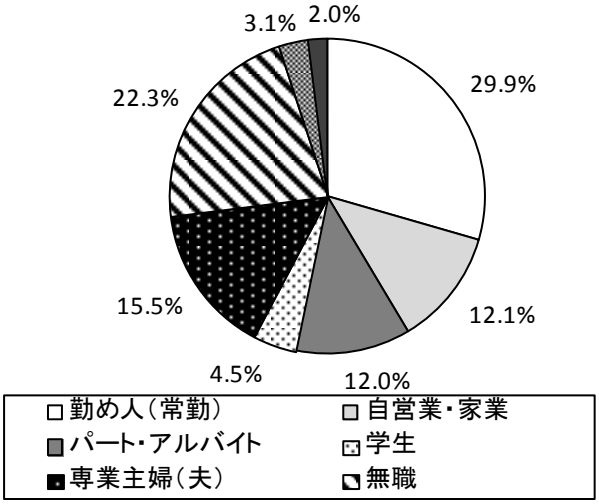


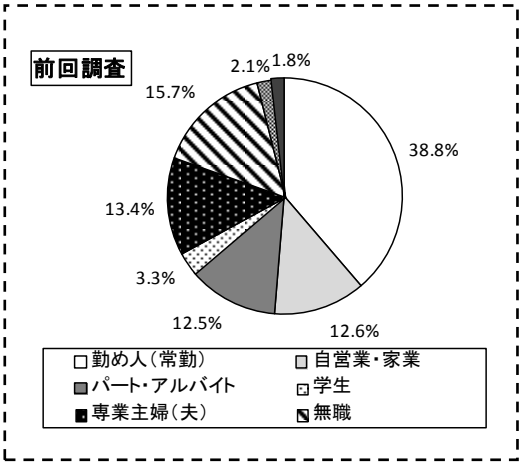
問５　子どもの有無（n=710）





問６　職業（n=710）





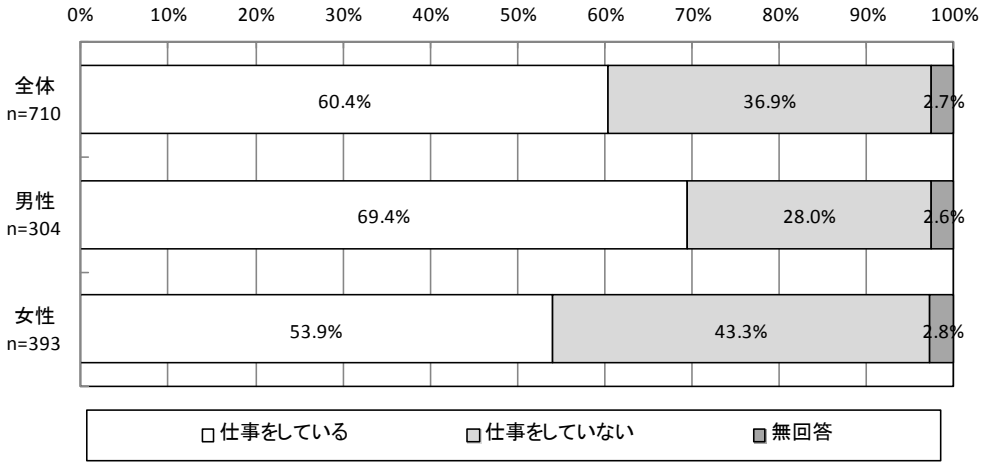
（２）仕事について

問７　あなたは現在、何らかの仕事をしていますか。

※病気や出産、育児などで現在一時休業している場合も、仕事をしているものとしてお答えください。

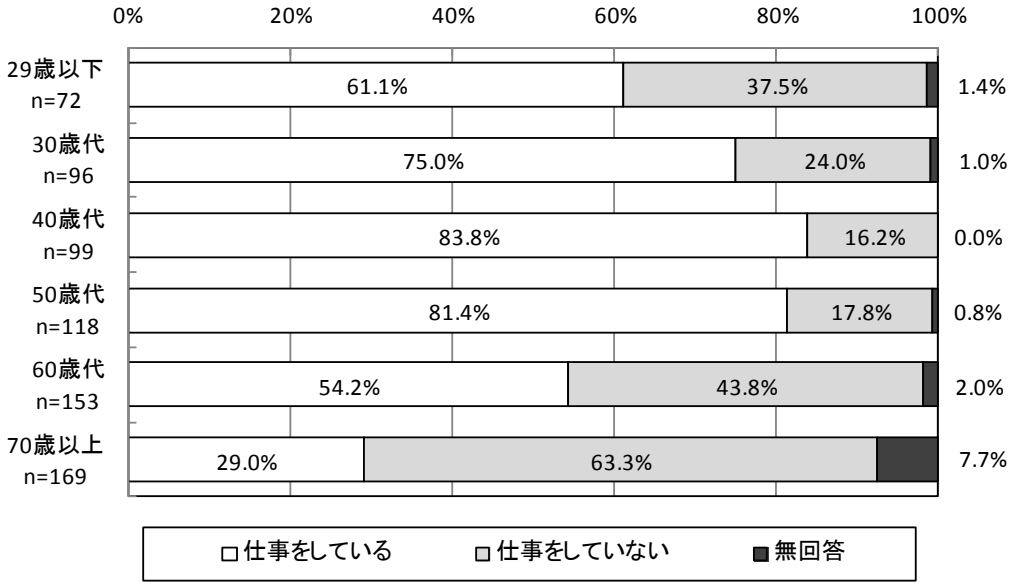
現在、何らかの仕事をしているかということについて、「仕事をしている」割合が60.4%、「仕事をしていない」割合が36.9%となっています。男女別にみると、男性は7割程度、女性では5割強の方が「仕事をしている」と回答しています。男女では就労に関して差があることが読み取れます。

図７　仕事への従事



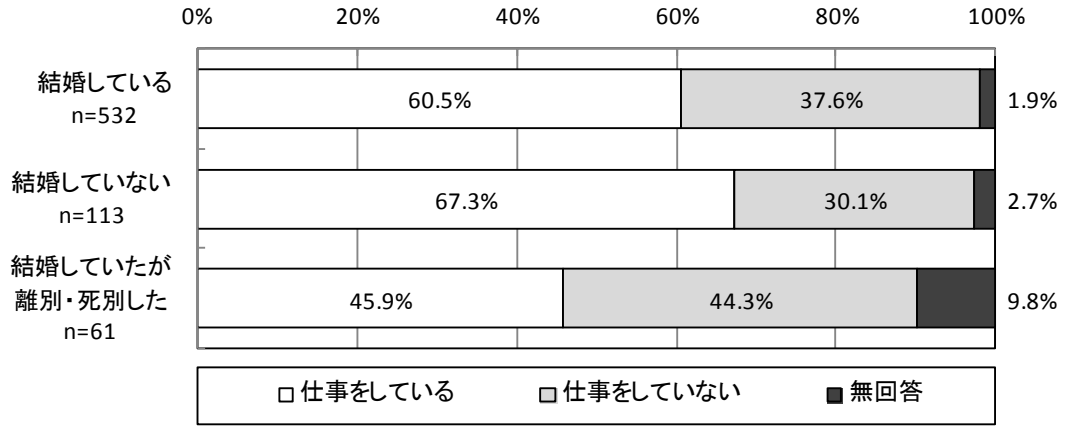
年齢別にみると、40歳代までは、年齢が高くなるにつれ、仕事をしている割合も高くなり、40歳代、50歳代で8割程度となっています。

図７(1)　仕事への従事（年齢別）



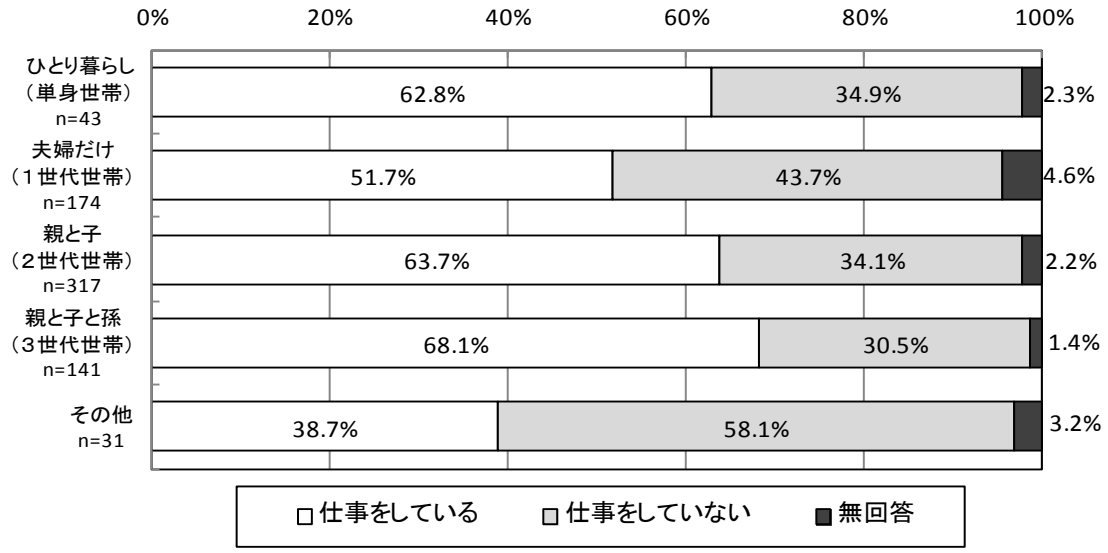
結婚の有無別にみると、結婚していない回答者は「仕事をしている」割合が67.3％となっており、結婚している回答者の60.5％に比べ、6.8ポイント高くなっています。

図 7(2)　仕事への従事（結婚の有無別）



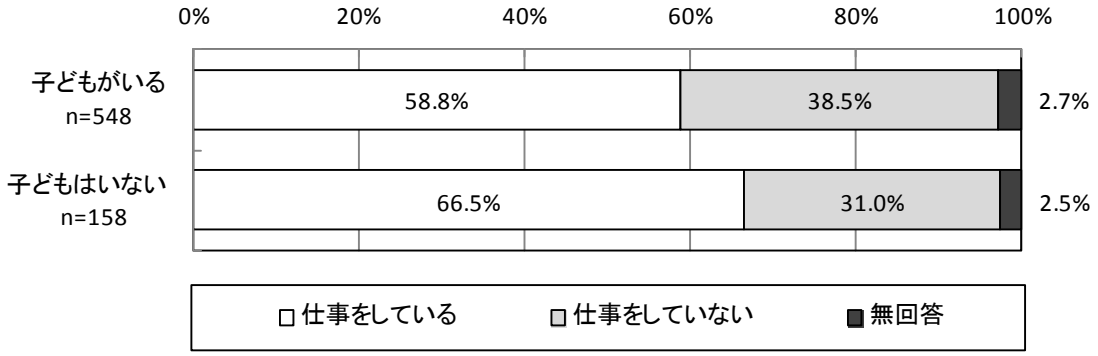
家族構成別にみると、その他を除き、1世代世帯の「仕事をしていない」が43.7％と最も高くなっています。

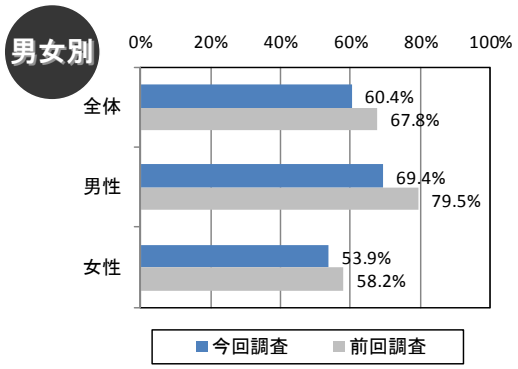
図 7(3)　仕事への従事（家族構成別）

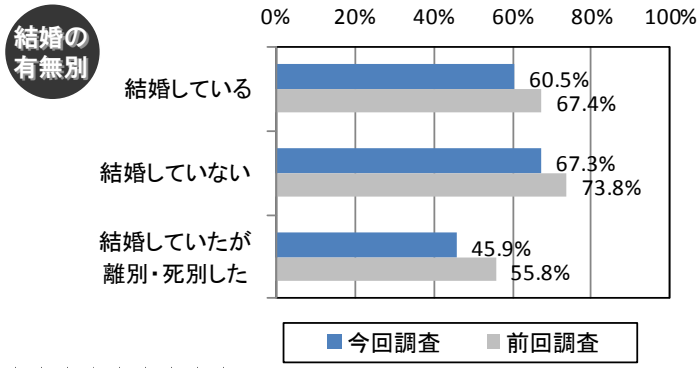


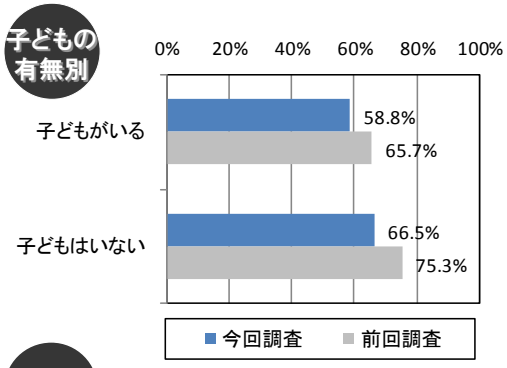
子どもの有無別にみると、「仕事をしている」割合は、子どもがいる回答者が58.8%、子どもがいない回答者が66.5%となっています。

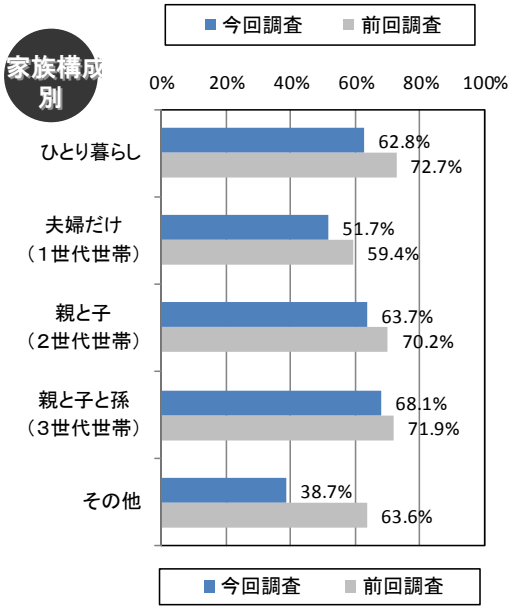
図 7(4)　仕事への従事(子どもの有無別)









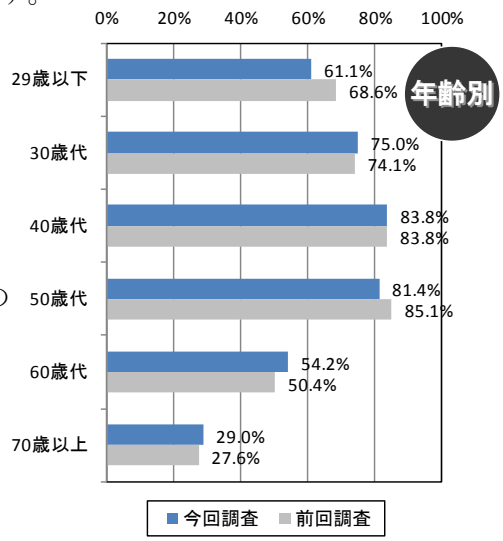


前回調査と

前回調査と比較すると、全体、男女別、結婚の有無別、家族構成別、子どもの有無別のいずれも、今回調査の方が仕事をしていると回答した割合が若干低くなっています。

今回調査では、60歳以上の回答者の割合が高いことに起因すると考えられます。

年齢別にみると、40～50歳代までは、年齢が高くなるにつれ仕事をしている割合も高くなるというように、前回調査とほぼ同様の結果となっています。



問７で「1. 仕事をしている」とお答えの方のみの回答

問 7-1a　あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

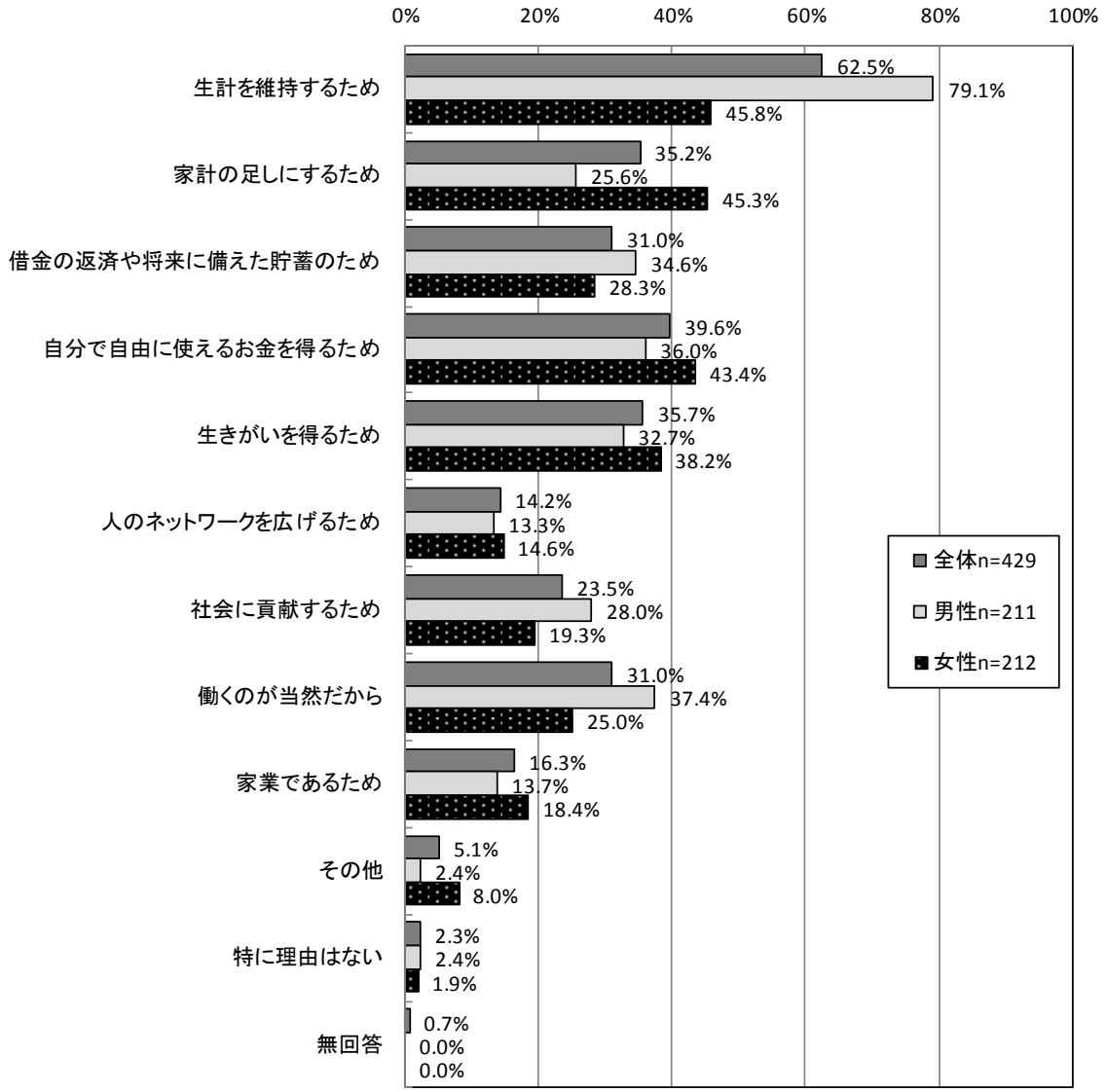
現在働いている理由は、全体では「生計を維持するため」が62.5％と最も高くなっています。続いて「自分で自由に使えるお金を得るため」が39.6％、「生きがいを得るため」が35.7％、「家計の足しにするため」が35.2％となっています。

男女別にみると、男性は「生計を維持するため」が79.1％と圧倒的に高く、「働くのが当然だから」が37.4％、「自分で自由に使えるお金を得るため」が36.0％と続きます。

一方、女性は「生計を維持するため」が45.8％、「家計の足しにするため」が45.3％、「自分で自由に使えるお金を得るため」が43.4％と、ほぼ同程度で高くなっています。

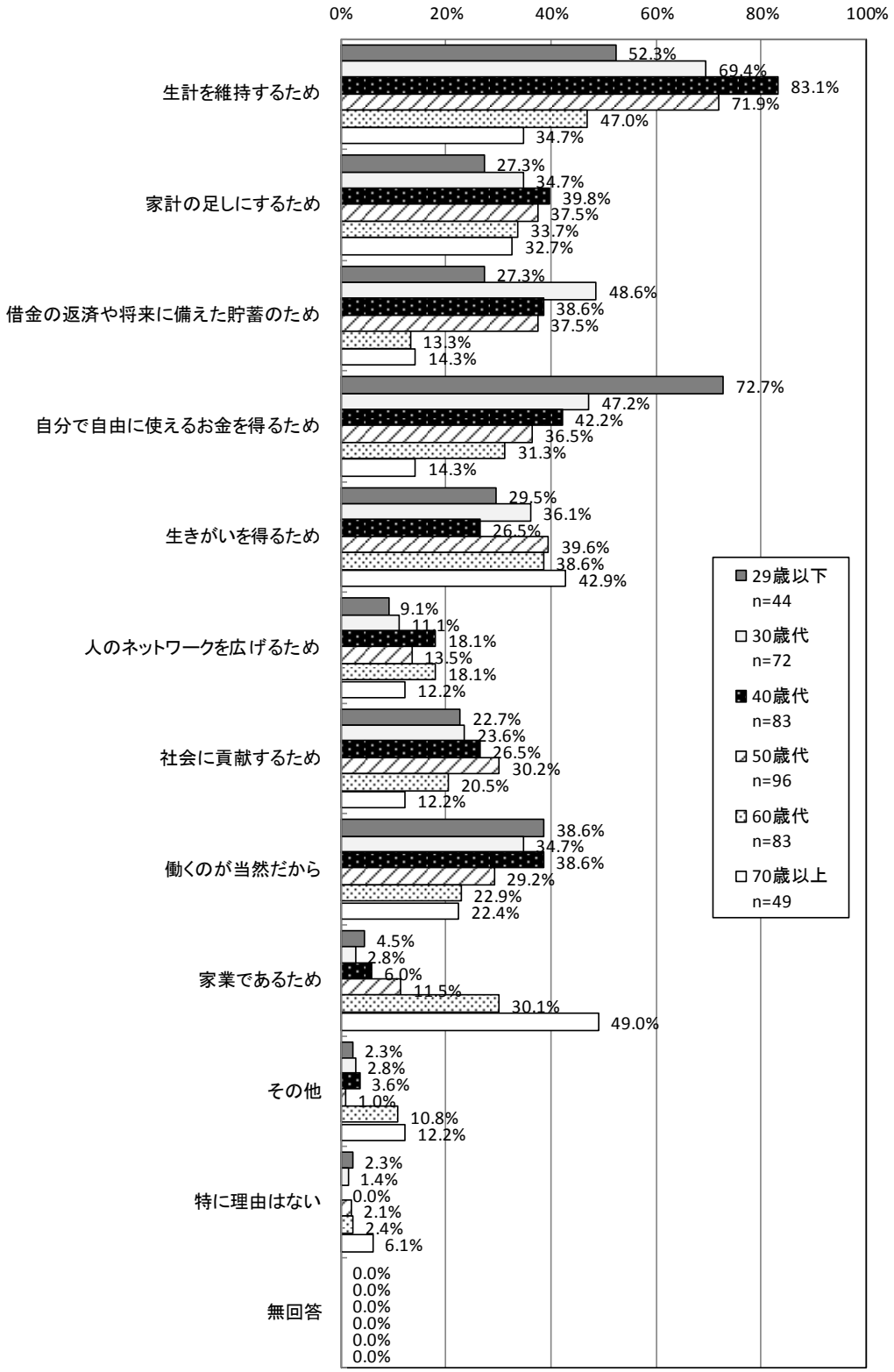
男女ともに「生計を維持するため」が最も高くなっています。

図 7-1a　働く理由



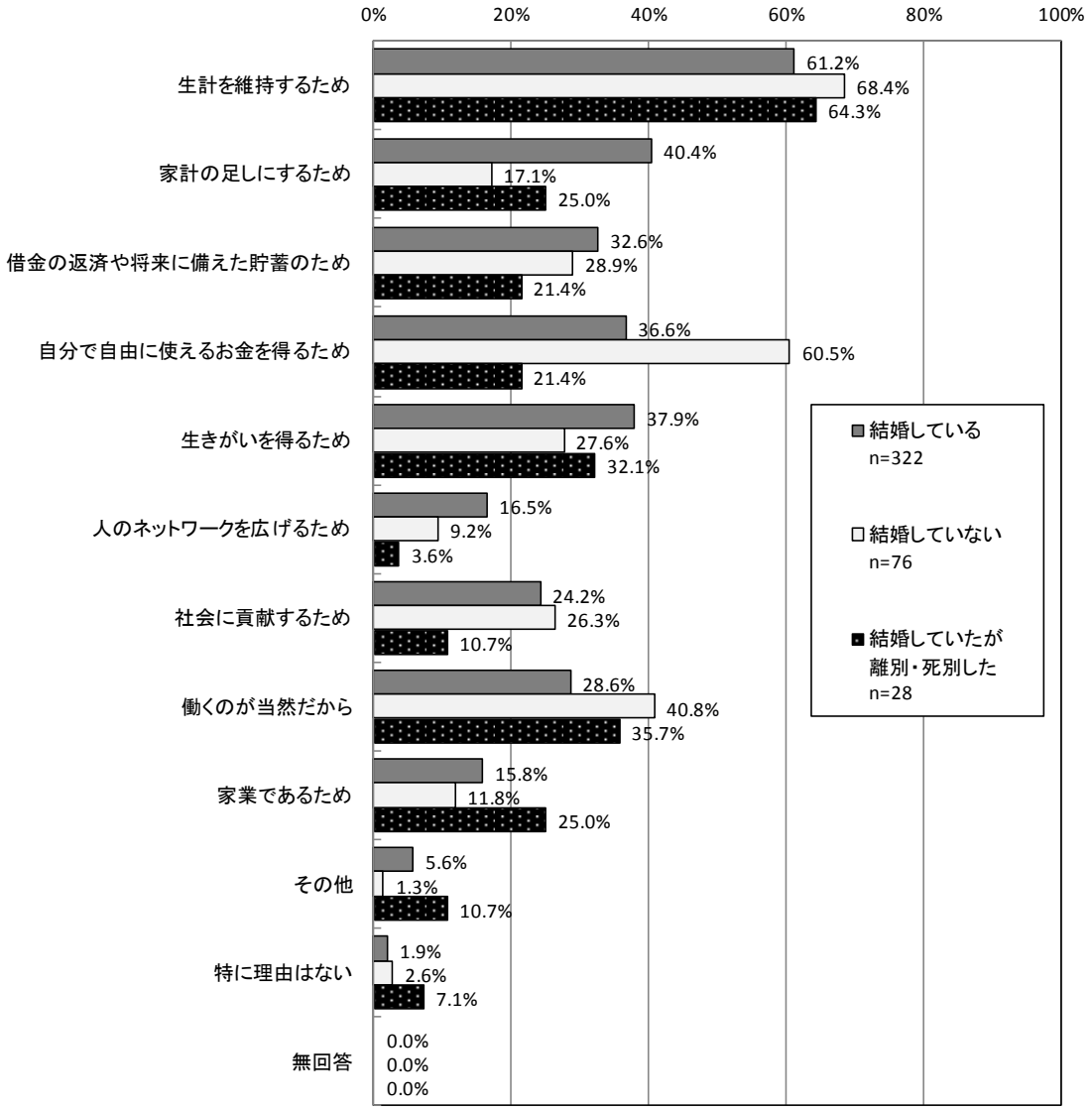
年齢別にみると、29歳以下では「自分で自由に使えるお金を得るため」が72.7％、「生計を維持するため」が52.3％と高くなっており、生計を維持しながらも趣味や嗜好に費やす割合も高い世代といえます。30歳代、40歳代、50歳代では「生計を維持するため」が、それぞれ69.4％、83.1％、71.9％と最も高くなっており、家計の担い手世代といえます。

図 7-1a(1)　働く理由(年齢別)



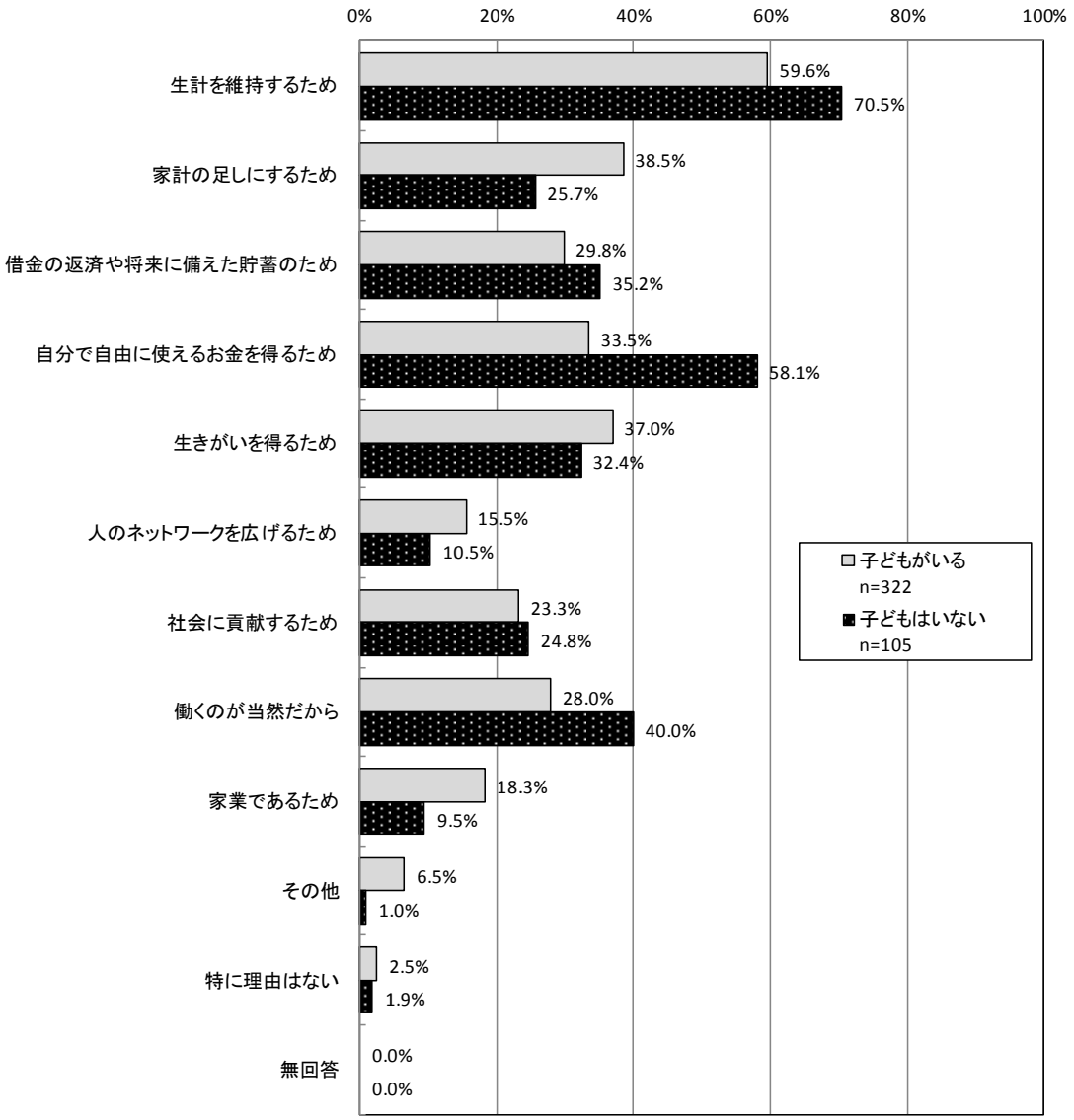
結婚の有無別にみると、結婚していない回答者では「生計を維持するため」が68.4%と最も高く、続いて「自分で自由に使えるお金を得るため」が60.5%となっています。

図 7-1a(2)　働く理由(結婚の有無別)



子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者、子どもがいない回答者ともに「生計を維持するため」が、それぞれ59.6％、70.5％と最も高くなっています。子どもがいない回答者では「自分で自由に使えるお金を得るため」も58.1％と、高い割合になっています。

図 7-1a(3)　働く理由（子どもの有無別）



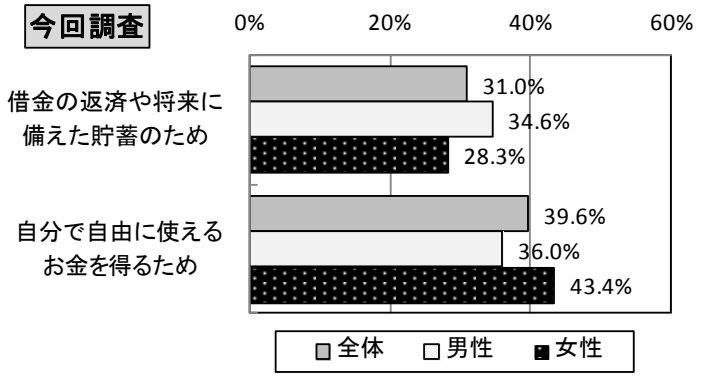
前回調査と

男女別

働く理由として、男女ともに「生計を維持するため」が最も高くなっており、他の項目に関しても前回調査とほぼ同様の割合となっています。

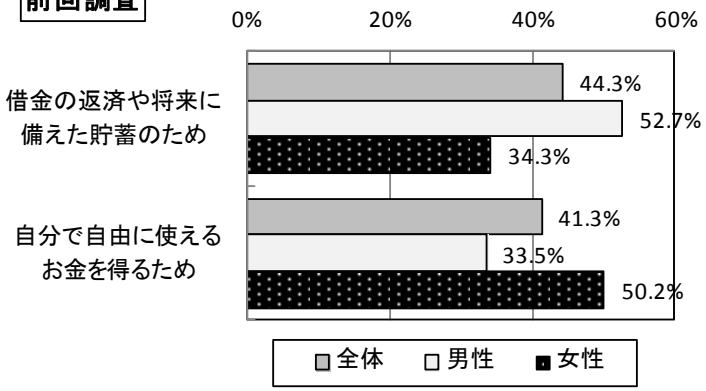
異なる点としては、前回調査の全体と男性で、「借金の返済や将来に備えた貯蓄のため」が続いて高くなっていましたが、今回調査では、「自分で自由に使えるお金を得るため」の方が高くなっています。

今回調査



年齢別にみると、生計を維持しながらも趣味・嗜好にも費やすと考えられる 29歳以下で「自分で自由に使えるお金を得るため」が最も高くなっており、家計の担い手世代の30歳代、40歳代、50歳代は「生計を維持するため」が最も高くなっていることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

前回調査



結婚の有無別にみると、今回調査では、結婚していない回答者は「生計を維持するため」が最も高く、続いて「自分で自由に使えるお金を得るため」となっていますが、前回調査では順位が逆となっていました。

結婚している回答者では、前回調査、今回調査とも「生計を維持するため」が最も高く、前回調査では5位だった「家計の足しにするため」が、今回調査では2位となっています。

子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者、子どもがいない回答者ともに「生計を維持するため」が最も高く、子どもがいない回答者では「自分で自由に使えるお金を得るため」が続いて高くなっていることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

問７で「2. 仕事をしていない」とお答えの方のみの回答

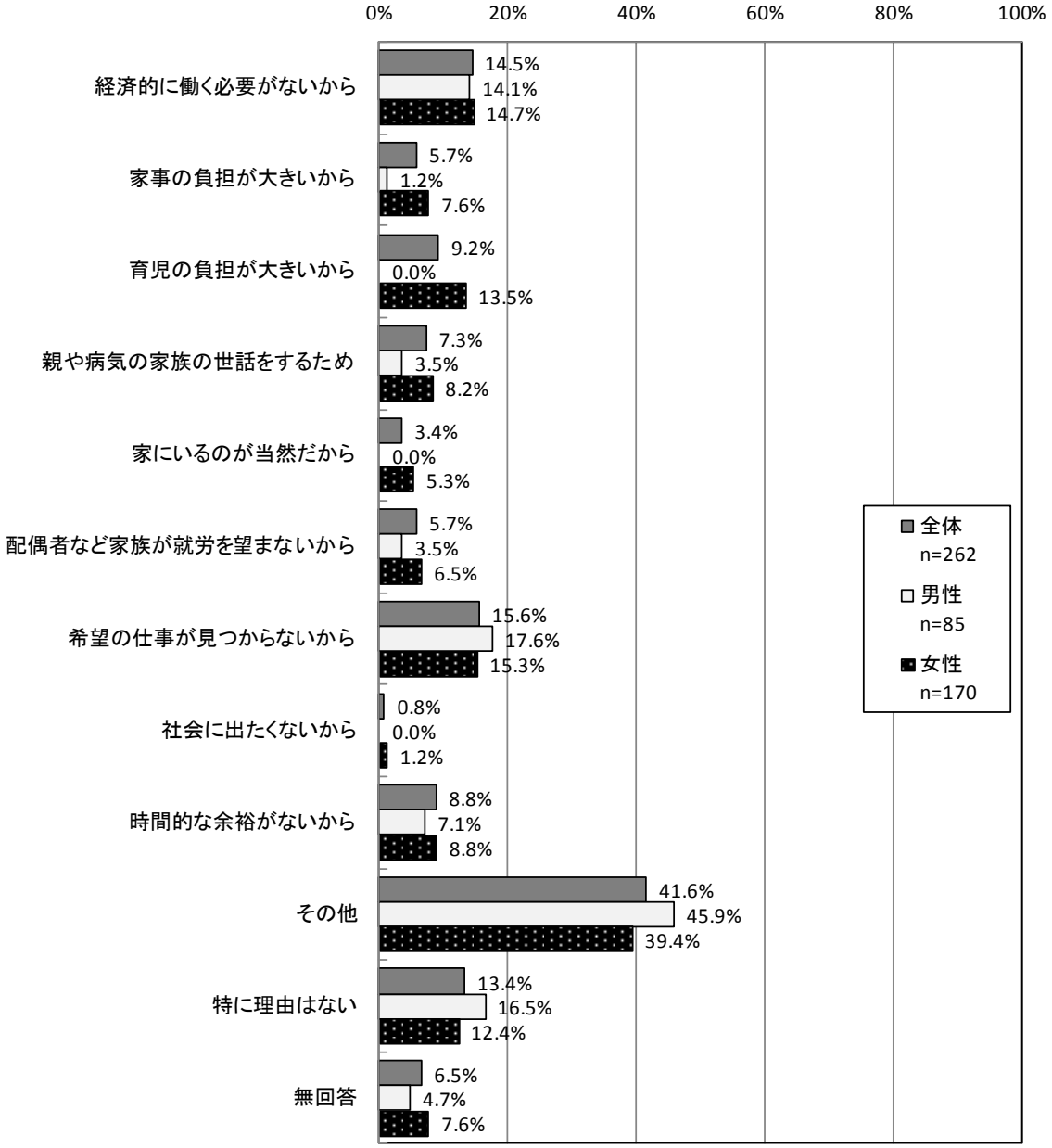
問 7-2　あなたが現在働いていないのは、どのような理由からですか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

現在働いていない理由は、全体では「希望の仕事が見つからないから」が15.6%、「経済的に働く必要がないから」が14.5%となっています。

男女別にみると、男女ともに「その他」を除くと「希望の仕事が見つからないから」が、それぞれ17.6%、15.3%と最も高く、「経済的に働く必要がないから」が、それぞれ14.1%、14.7%と続いています。「育児の負担が大きいから」と答えたのは、女性だけとなっています。

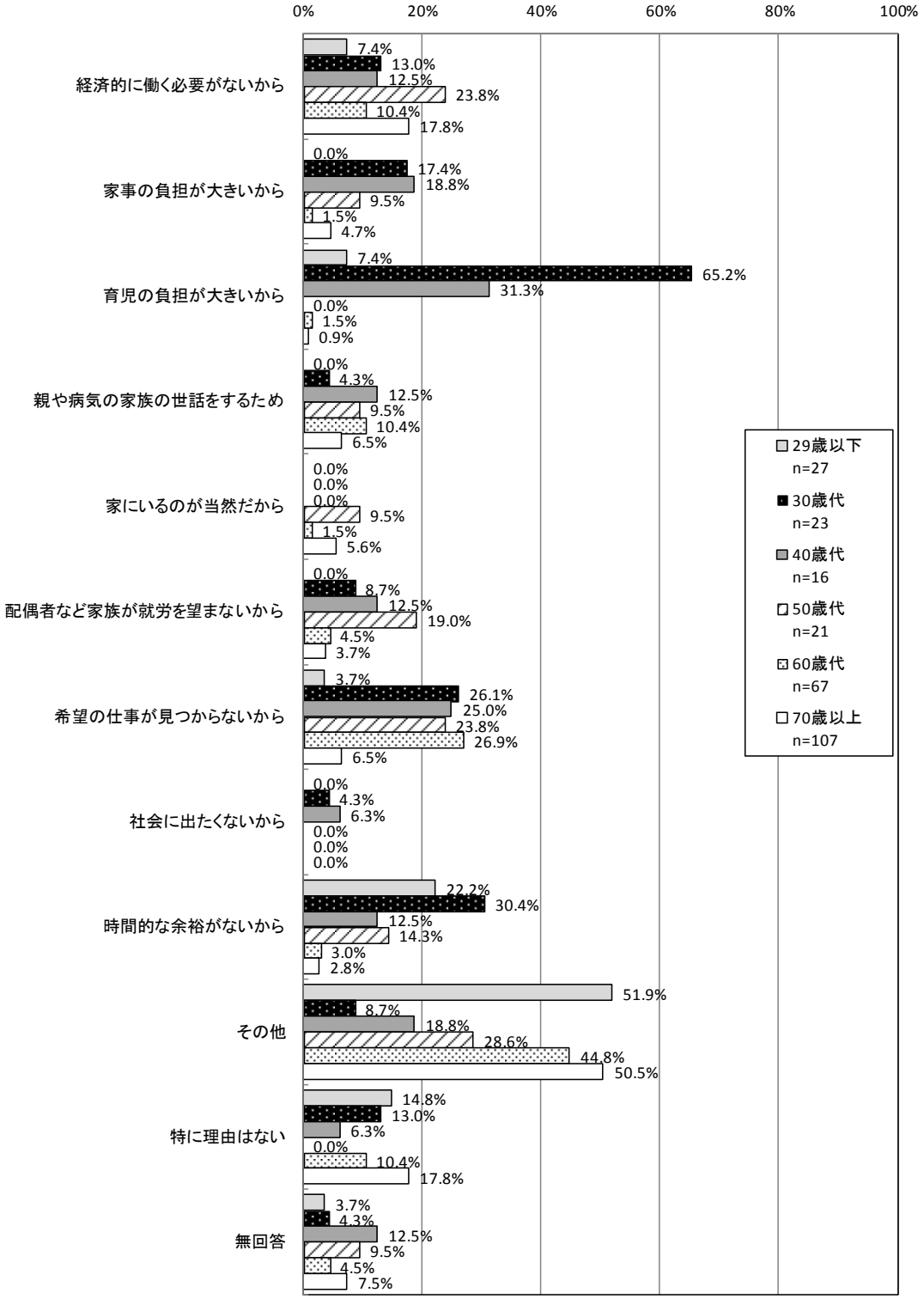
「その他」の割合が高く、その多くは「高齢のため」と答えています。

図 7-2　働いていない理由



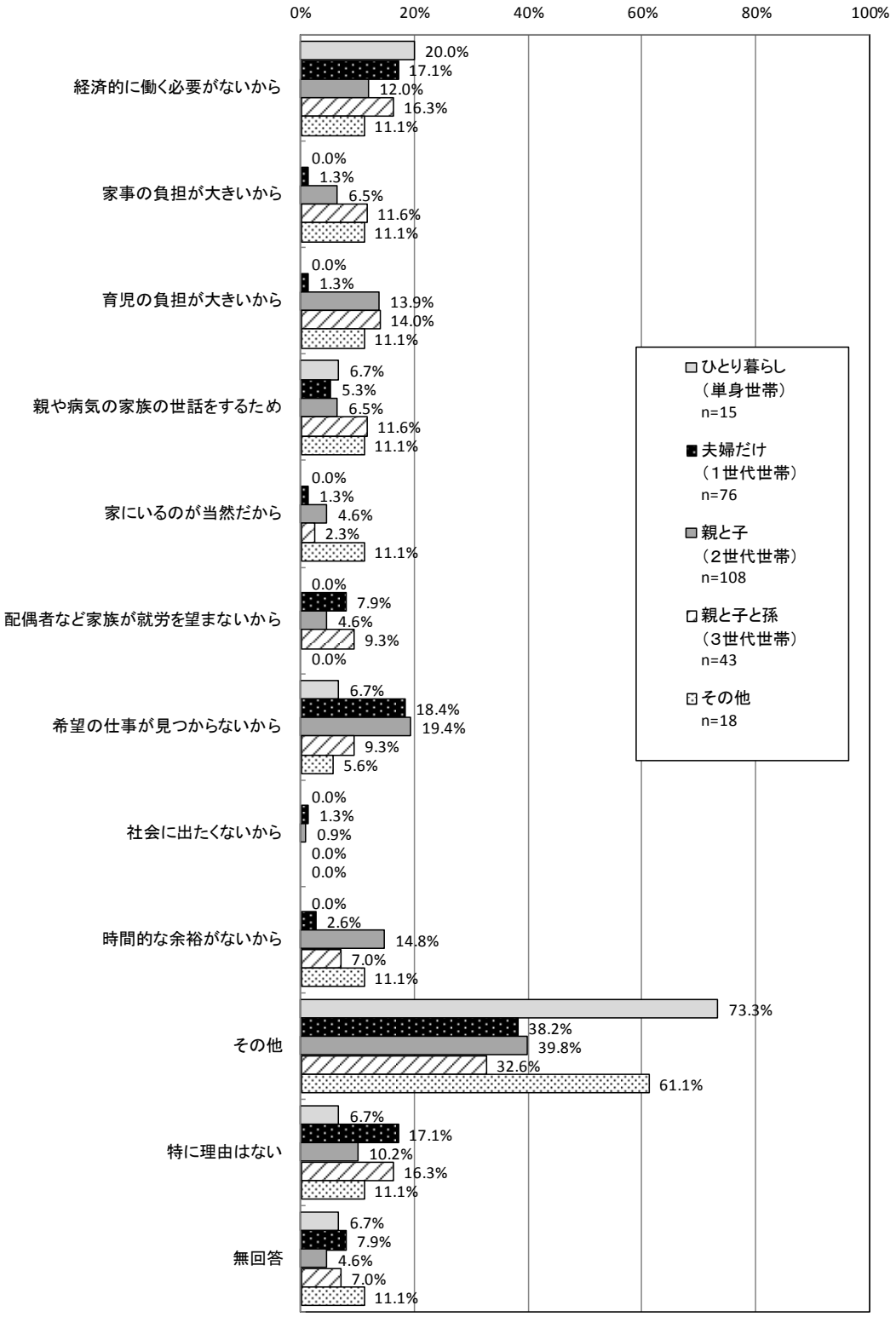
年齢別にみると、「育児の負担が大きいから」が、30歳代で65.2％、40歳代で31.3％と高くなっています。「希望の仕事が見つからないから」も30歳代～60歳代で20％台と高くなっています。

図 7-2(1)　働いていない理由(年齢別)



家族構成別にみると、1世代世帯、2世代世帯で、「その他」を除くと「希望の仕事が見つからないから」が、それぞれ18.4％、19.4％と最も高く、また単身世帯、3世代世帯では、「その他」を除くと「経済的に働く必要がないから」が、それぞれ20.0％、16.3％と最も高くなっています。

図 7-2(2)　働いていない理由（家族構成別）

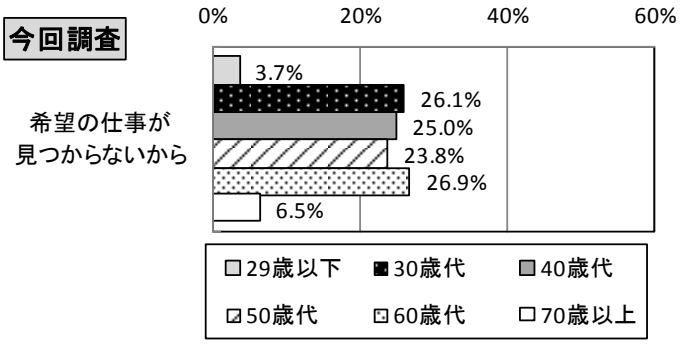


前回調査と

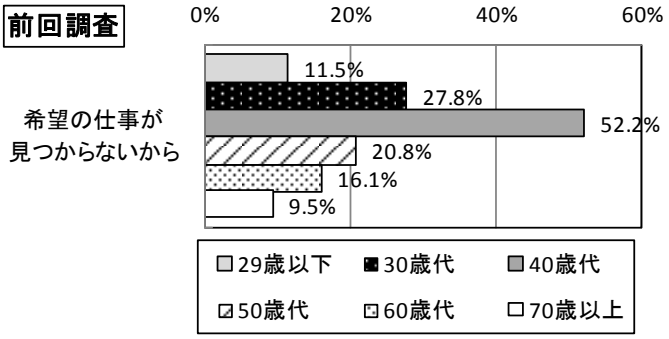
現在働いていない理由は、全体、男女別ともに「希望の仕事が見つからないから」、「経済的に働く必要がないから」が高くなっていること、「育児の負担が大きいから」と答えたのは女性だけとなっていることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

年齢別

今回調査



前回調査

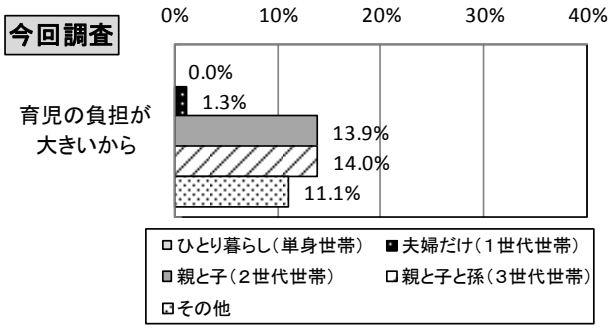


年齢別にみると、「育児の負担が大きいから」が30歳代で圧倒的に高くなっていることなど、前回調査とほぼ同様ですが、「希望の仕事が見つからないから」は、前回調査では40歳代が飛び抜けて高かったのに比べ、今回調査では30歳代から60歳代にかけてほぼ同様の割合となっています。

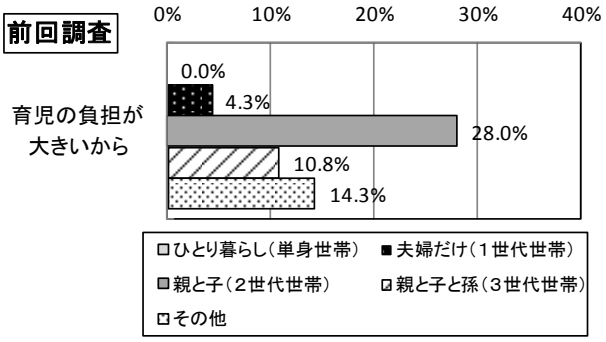
家族構成別にみると、前回調査では「育児の負担が大きいから」が、2世代世帯で28.0％と飛び抜けて高かったのに対し、今回調査では2世代世帯、3世代世帯とも同程度の割合となっています。

家族構成別

今回調査



前回調査



問 7-1b　あなたの職場では、男女の扱いが平等になっていると思いますか。
次の（ア）～（サ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

職場での男女の平等感について、全体では、「平等になっている」が5割を超えるものに、「福利厚生」、「有給休暇の取得」、「退職・解雇」、「教育訓練・研修」があります。

男女別にみると、男性では、全体の上位4位の他、「募集や採用」、「賃金」、「上司との関係」、「人事考課・評価」も5割を超えていますが、女性では全体の上位4位以外は5割以下となっています。

年齢別にみると、29歳以下では、「幹部職員への採用」を除き、「平等になっている」が全ての項目で5割を超えています。30歳代では、「職務内容」、「昇進・昇格」、「幹部職員への採用」以外の項目で5割を超え高くなっています。年代層が高くなるにつれ無回答の割合も高くなりますが、男女平等という意見は低くなっていきます。

図 7-1b 職場での男女平等

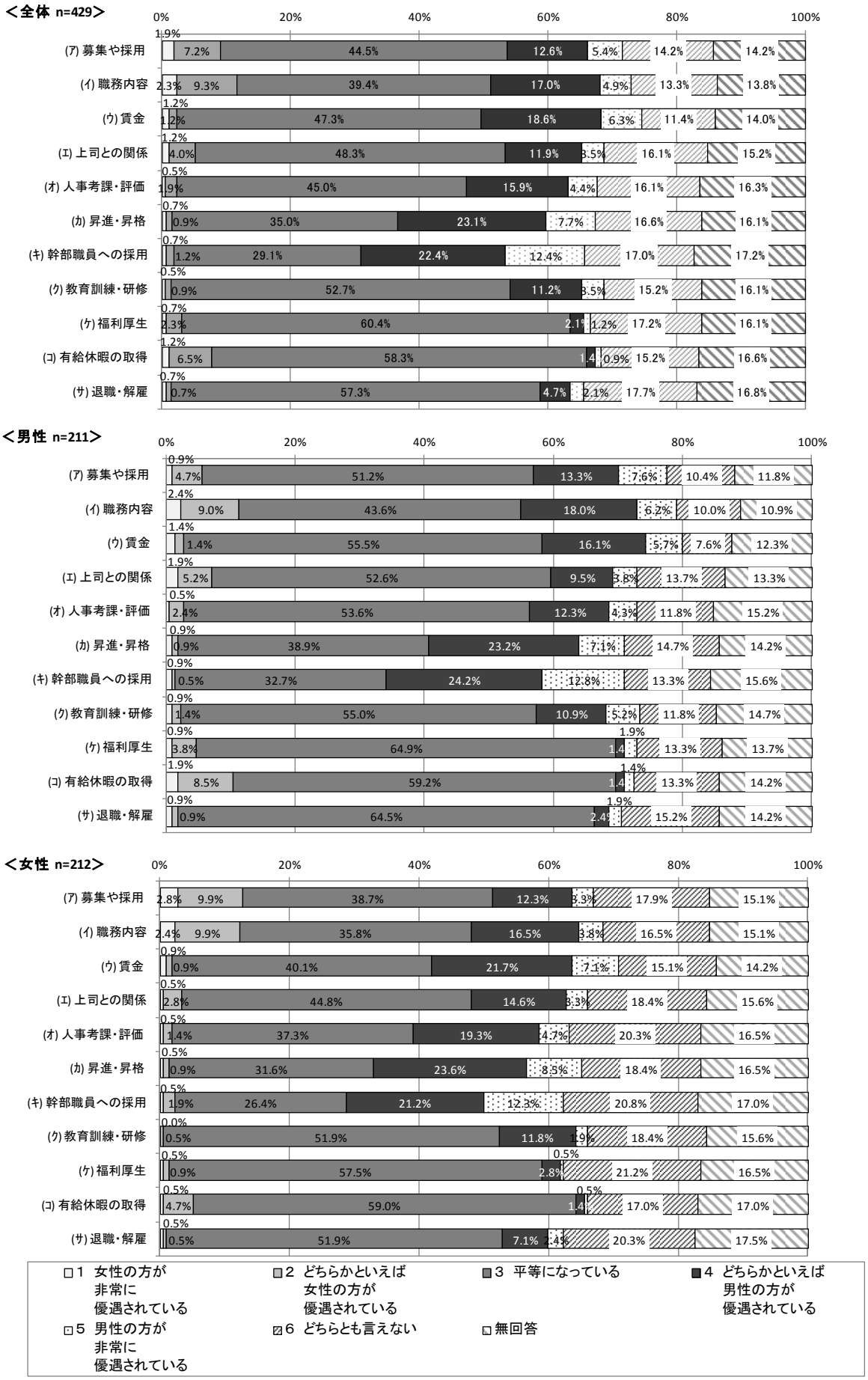
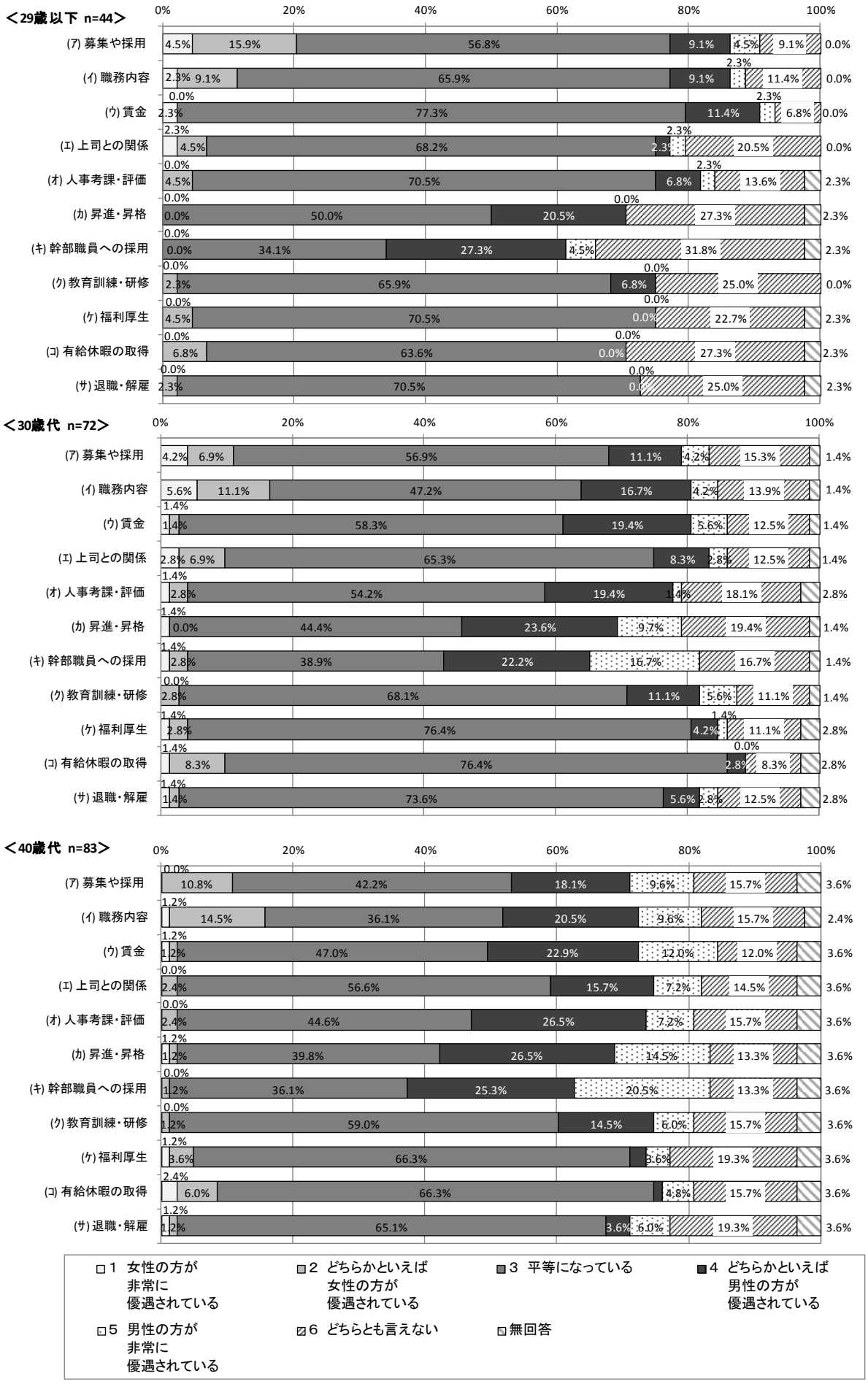
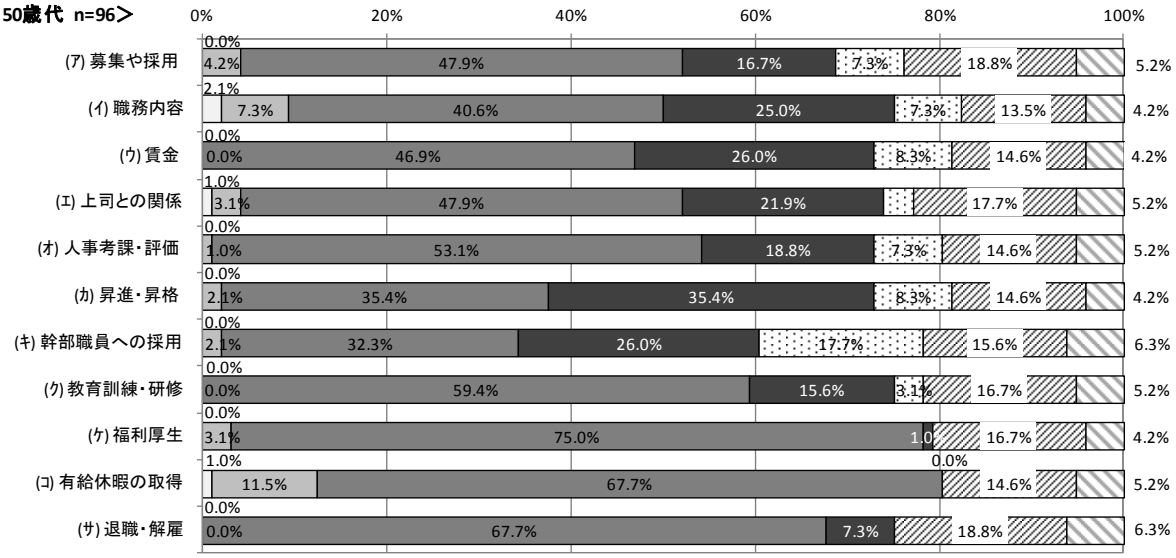


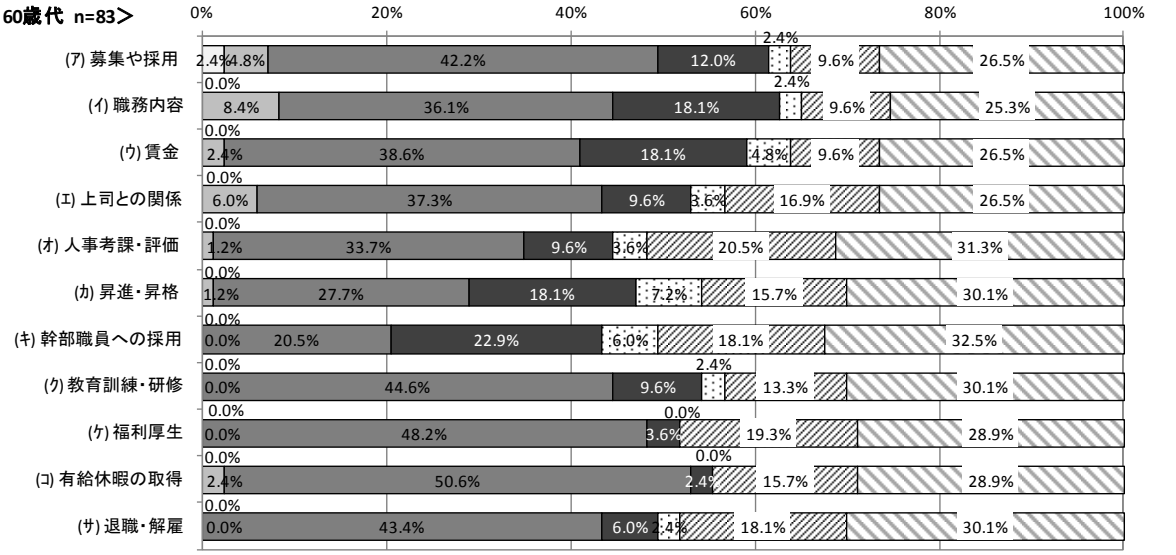
図 7-1b(1)　職場での男女平等(年齢別)



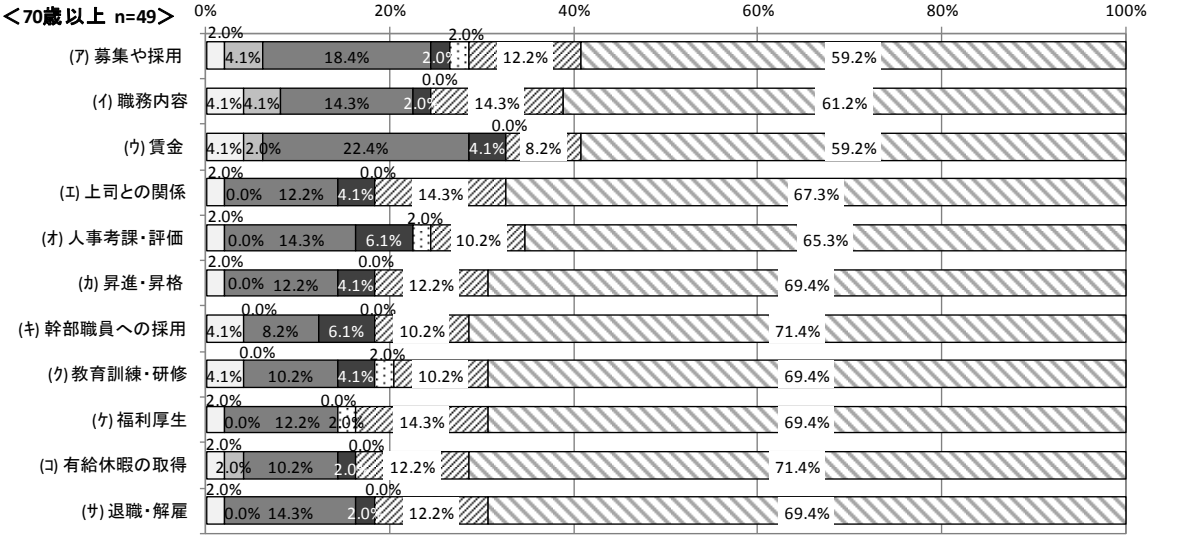
＜50歳代 n=96＞



＜60歳代 n=83＞



＜70歳以上 n=49＞

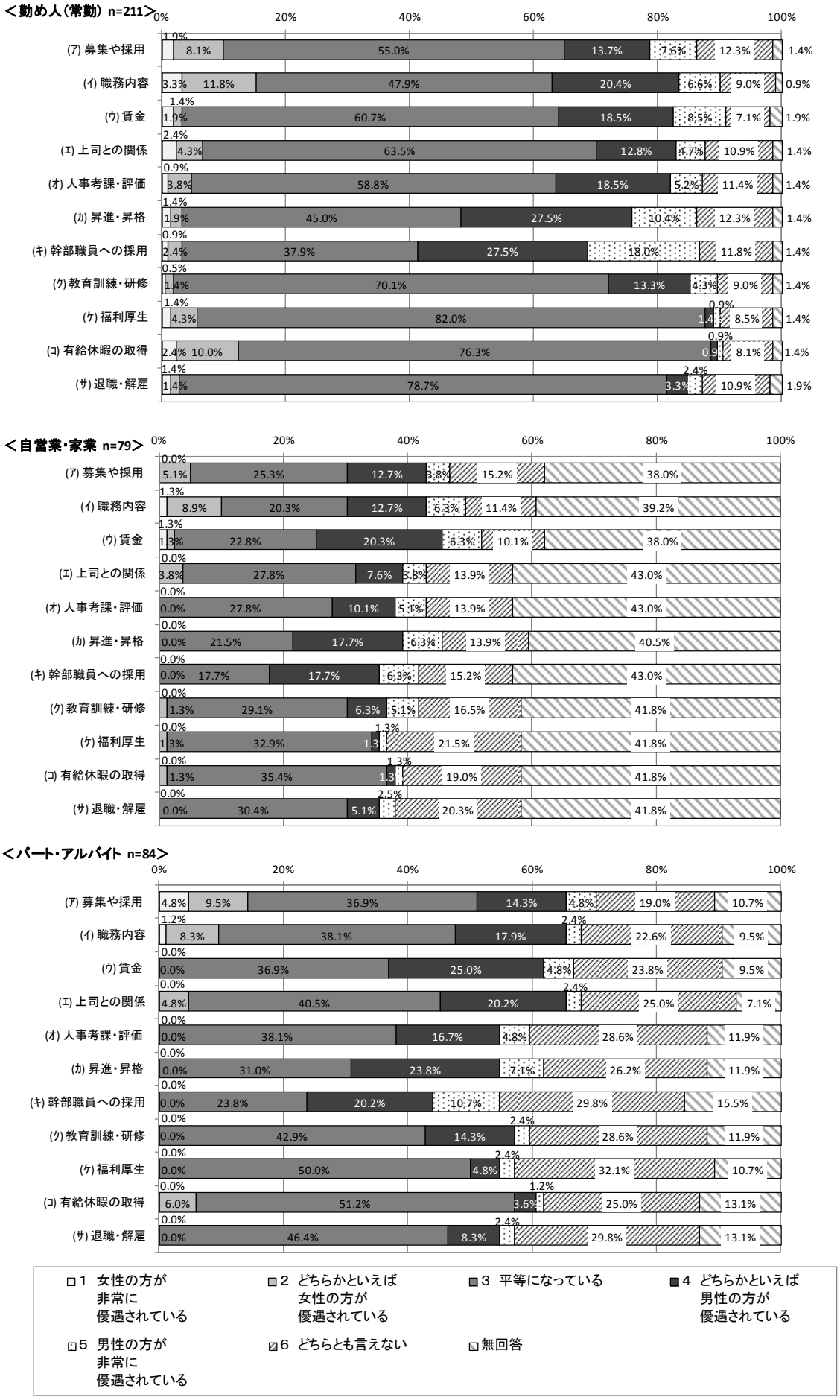


□1 女性の方が非常に優遇されている
□2 どちらかといえば女性の方が優遇されている
□3 平等になっている
□4 どちらかといえば男性の方が優遇されている
□5 男性の方が非常に優遇されている
□6 どちらとも言えない
□無回答

職業別にみると、男性優遇と女性優遇を比較して男性優遇の傾向が強いと感じている項目は、勤め人、自営業・家業、パート・アルバイトともに「幹部職員への採用」、「昇進・昇格」、「賃金」が上位3位となっています。

また、男性優遇と女性優遇を比較したとき、女性優遇の傾向が強いと感じている項目は、勤め人では「職務内容」、「有給休暇の取得」、自営業・家業では「職務内容」、「募集や採用」、パート・アルバイトでは「募集や採用」、「職務内容」となっています。

図 7-1b(2)　職場での男女平等(職業別)



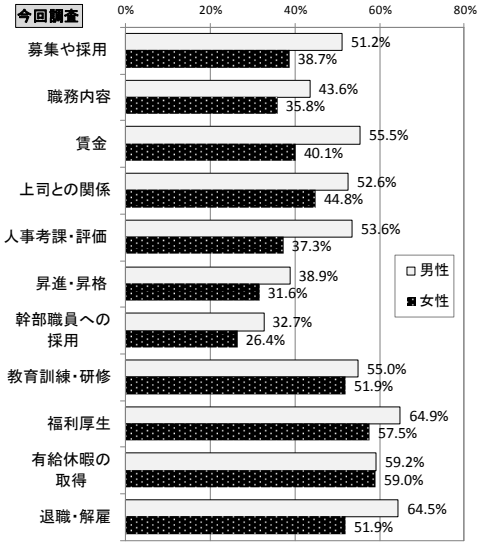
※なお、学生と専業主婦(夫)、無職、その他は標本数が少ないため、掲載していません。

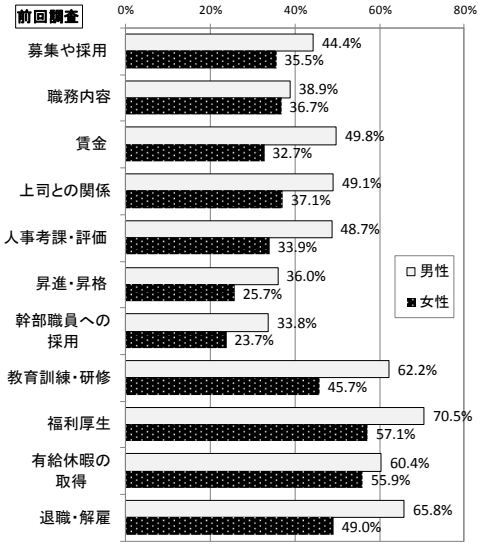
前回調査と

職場での男女の平等感について、全体としては、多くの項目で平等になっていると回答していること、「女性の方が優遇されている（「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた回答）」が高いものに、「職務の内容」、「募集や採用」、「有給休暇の取得」があり、一方、「男性の方が優遇されている（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答）」が高いものに、「幹部職員への採用」、「昇進・昇格」、「賃金」があることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

男女別　平等になっ

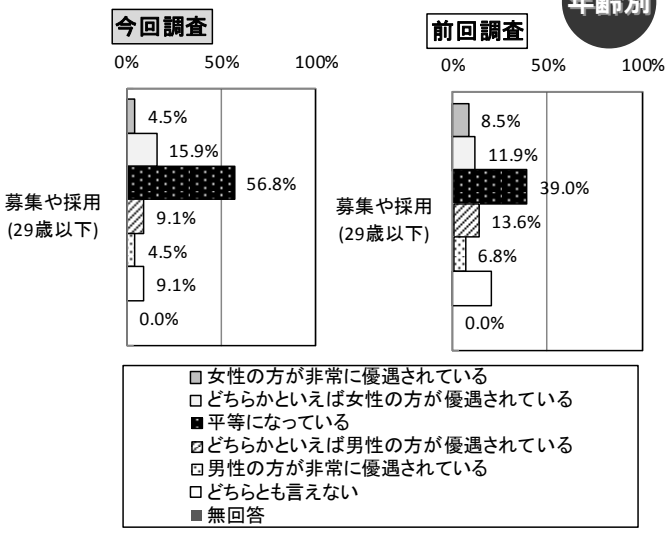
男女別にみると、すべての項目で、今回調査、前回調査とも男性の方が、女性よりも、「平等になっている」の割合が高くなっています。





年齢別にみると、「募集や採用」について、前回調査では、29歳以下で「平等になっている」が39.0％と低かったものが、今回調査では56.8％と高くなっており、採用に直面することの多い年代が、平等を感じるようになったと読み取れます。さらに前回調査では男性優遇、女性優遇の割合がどちらも20.4％と拮抗していたものが、今回調査では女性優遇20.4％に対し、男性優遇は13.6％と女性優遇の割合が上回っています。

年齢別



職業別にみると、男性優遇と女性優遇を比較して男性優遇の傾向が強いと感じている項目は、今回調査、前回調査ともに、勤め人、パート・アルバイトで「幹部職員への採用」、「昇進・昇格」、「賃金」が上位3位となっています。自営業・家業で、前回調査3位の「募集や採用」は、今回調査で5位、勤め人、パート・アルバイトでも、それぞれ6位、7位となっており、「募集や採用」に関して男女平等と感じている割合が高くなっています。

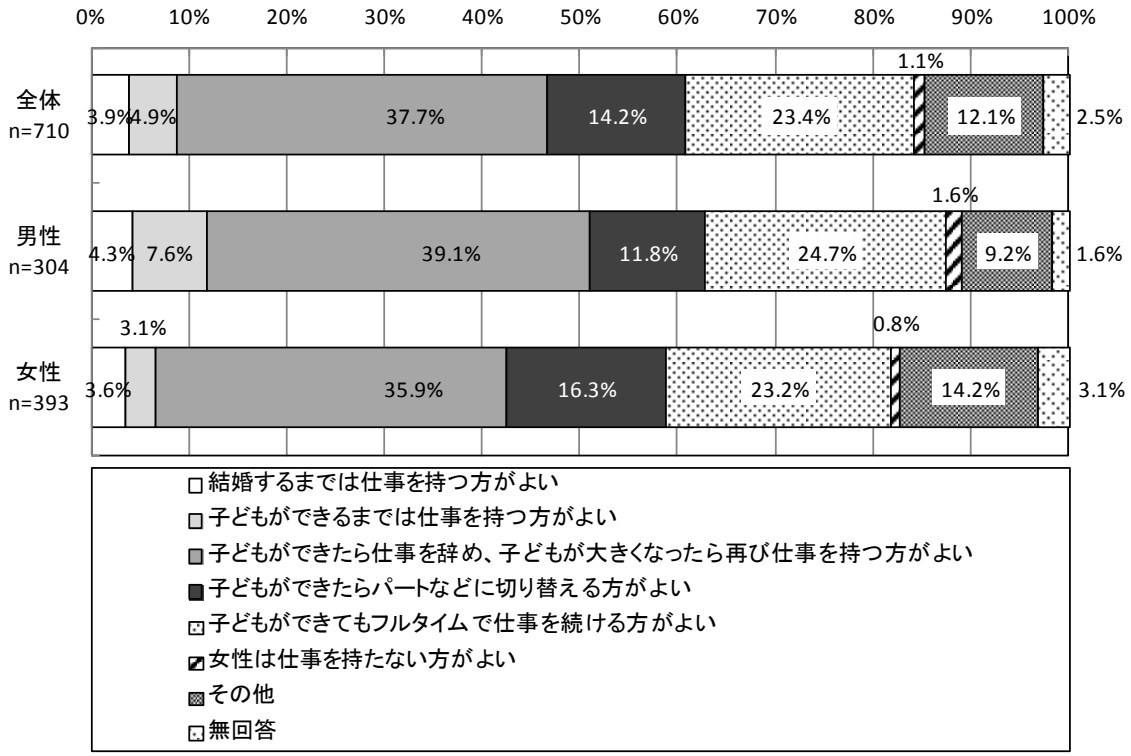
ここからは、全員の回答

問８　一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどうお考えですか。
１つ選び、○を付けてください。

仕事を持つことについて、全体では「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が37.7％で最も高くなっています。続いて「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」が23.4％、「子どもができたらパートなどに切り替える方がよい」が14.2％となっています。

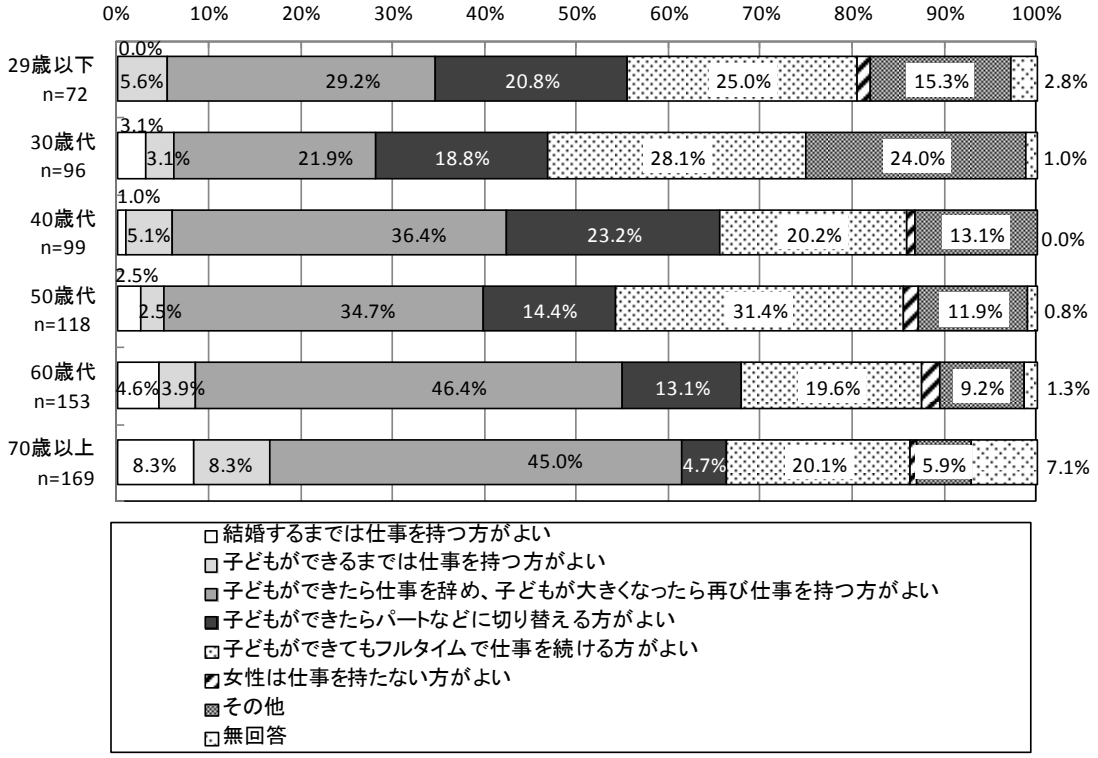
男女別にみると、ほぼ同様ではあるものの、「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は男性で39.1％、女性で35.9％と男性の方が高くなっており、「子どもができたらパートなどに切り替える方がよい」は、男性で11.8％、女性で16.3％と女性の方が高くなっています。

図８　女性が仕事を持つことに対する考え



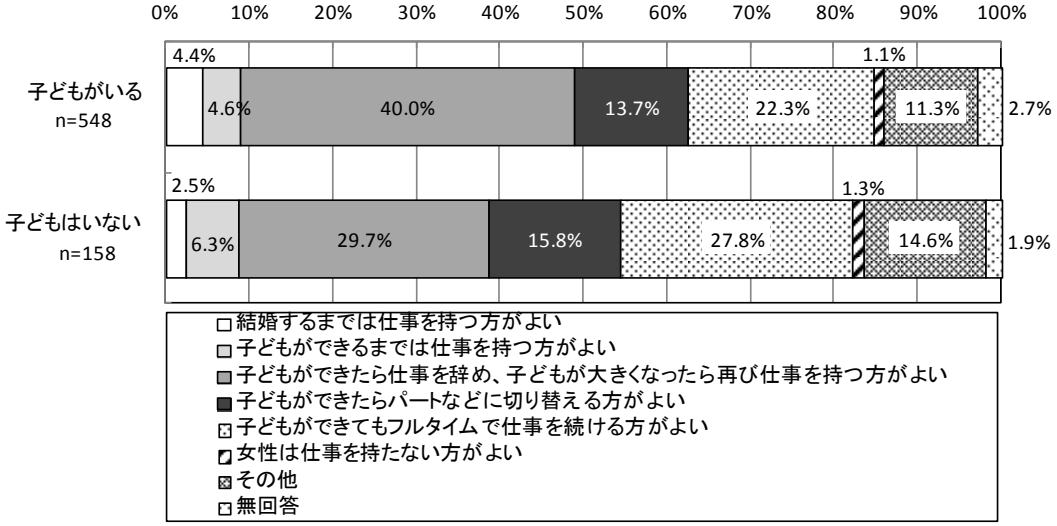
年齢別にみると、「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」が、50歳代で31.4%と高くなっています。「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は、年齢が高くなるにつれ割合も高くなる傾向にあり、「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」については、50歳代以降で年齢が高くなるほど割合も高くなっています。

図 8(1)　女性が仕事を持つことに対する考え(年齢別)



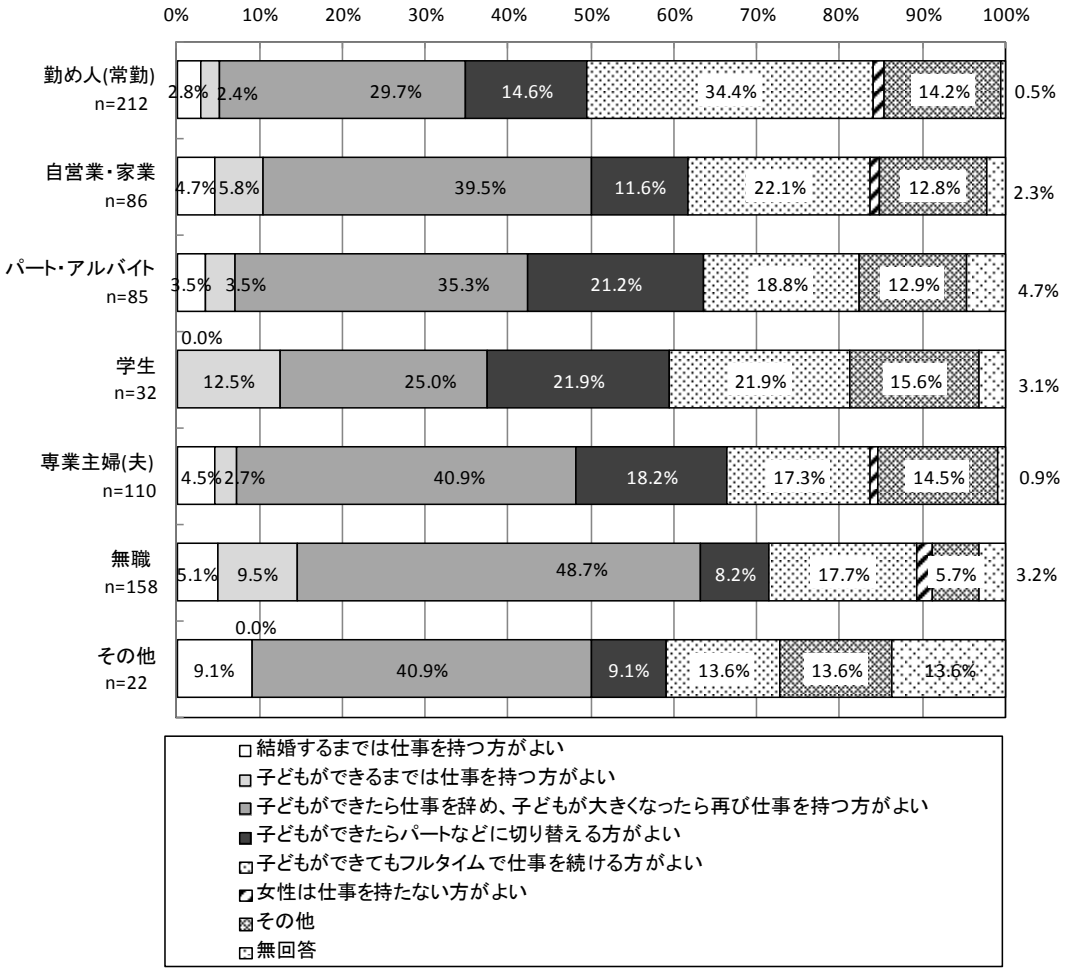
子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者は「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が40.0%と、子どもがいない回答者より高く、一方、子どもがいない回答者は「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」が27.8%と、子どもがいる回答者より高くなっています。

図 8(2)　女性が仕事を持つことに対する考え(子どもの有無別)



職業別にみると、「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」は、勤め人で34.4%、自営業・家業、学生で2割以上となっています。「子どもができたらパートに切り替える方がよい」は、パート・アルバイトと学生で、2割以上となっています。

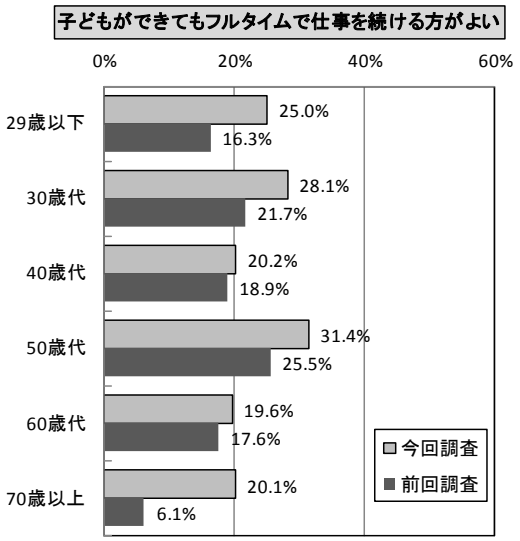
図 8(3)　女性が仕事を持つことに対する考え(職業別)



前回調査と

女性が仕事を持つことについて、全体では「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は、前回調査で44.0％でしたが、今回調査では37.7％と低くなっています。また、「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」は、前回調査で18.5％でしたが、今回調査では23.4％と高くなっています。

男女別にみると、全体とほぼ同様ですが、男女とも「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」が前回調査よりも高くなっているのに対し、「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は、前回調査で男性45.4％、女性43.0％だったものが、今回調査では男性39.1％、女性35.9％と低くなっています。



年齢別にみると、「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」は、いずれの年代でも、前回調査を上回っており、特に70歳以上では、前回調査で6.1％だったものが、今回調査では20.1％と急激に高くなっています。前回調査で、中断なし就業を支持する意見は高齢層で低くなっておりましたが、今回調査では、どの年代層においても高くなっています。

子どもの有無別にみると、「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」は、前回調査で、子どもがいる回答者が19.0％、子どもがいない回答者が17.8％だったのに対し、今回調査では、子どもがいる回答者が22.3％、子どもがいない回答者が27.8％と、子どもがいない回答者の割合が高くなっています。

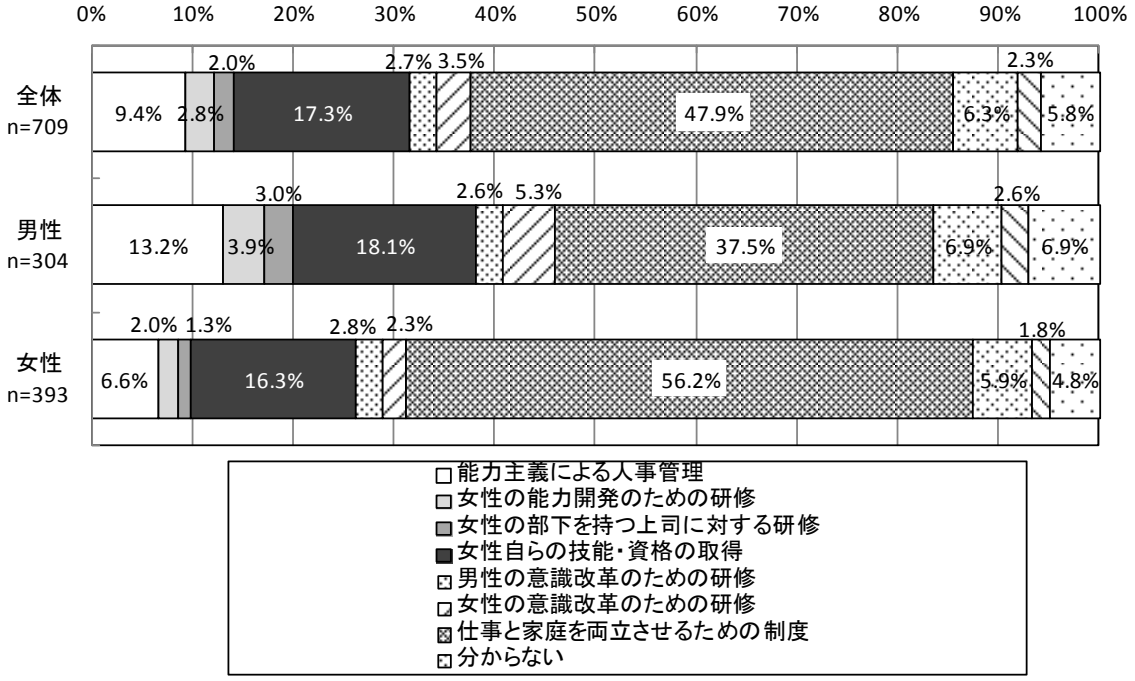
職業別にみると、ほとんどの職業で「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」は、前回調査より高くなっており、「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は、前回調査より低くなっています。特に、勤め人では「子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい」（前回調査25.2％から今回調査34.4％）が、「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」（前回調査40.4％から今回調査29.7％）を上回っています。

問９　女性が職場で能力を発揮するためにどのようなことが最も重要だと思いますか。
<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

職場で能力を発揮するために重要なことは、全体では「仕事と家庭を両立させるための制度」が47.9％と最も高く、約半数の方が回答しています。続いて「女性自らの技能・資格の取得」が17.3％、「能力主義による人事管理」が9.4％となっています。

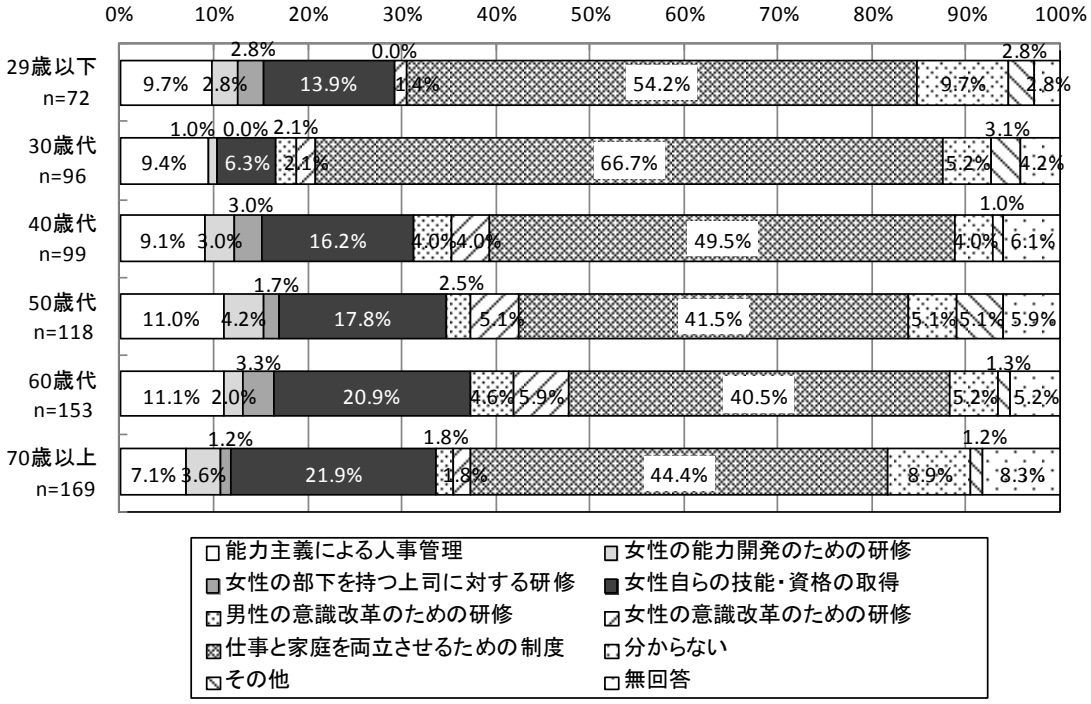
男女別にみると、男性は「仕事と家庭を両立させるための制度」が37.5%で最も高く、続いて「女性自らの技能・資格の取得」が18.1%、「能力主義による人事管理」が13.2%となっています。女性は「仕事と家庭を両立させるための制度」が56.2%と過半数であり、続いて「女性自らの技能・資格の取得」が16.3%、「能力主義による人事管理」が6.6%で、男女ともに全体の順位と同様となっています。

図９　女性の能力発揮のための環境づくり



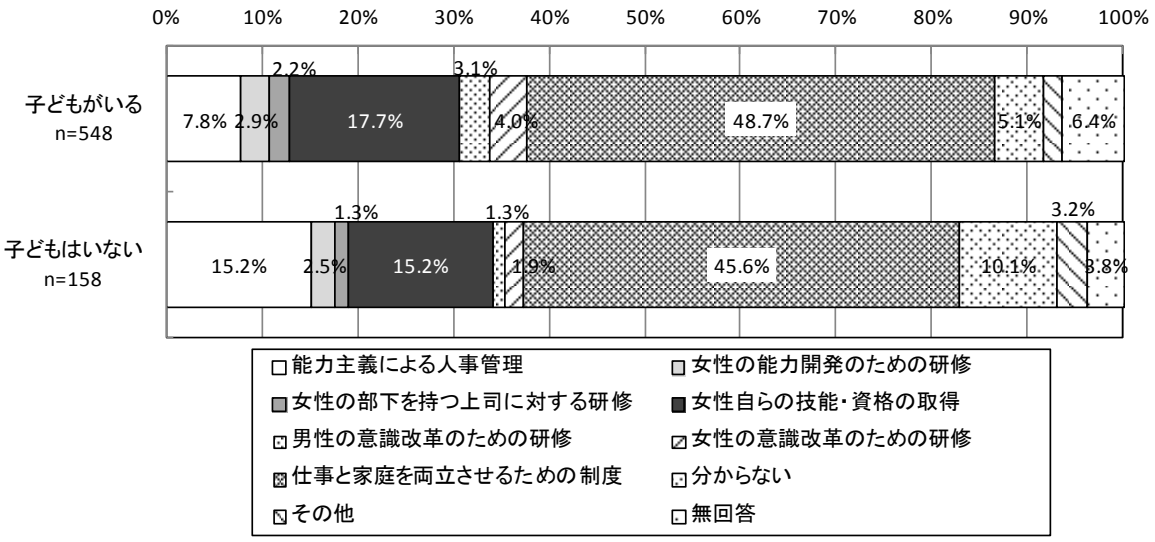
年齢別にみると、30歳代では、「仕事と家庭を両立させるための制度」が66.7%と他世代に比べて高くなっている一方、「女性自らの技能・資格の取得」は6.3%と他世代に比べて低くなっています。

図 9(1)　女性の能力発揮のための環境づくり(年齢別)



子どもの有無別にみると、「能力主義による人事管理」は、子どもがいない回答者が15.2%で、子どもがいる回答者に比べて7.4ポイント高くなっています。

図 9(2)　女性の能力発揮のための環境づくり(子どもの有無別)



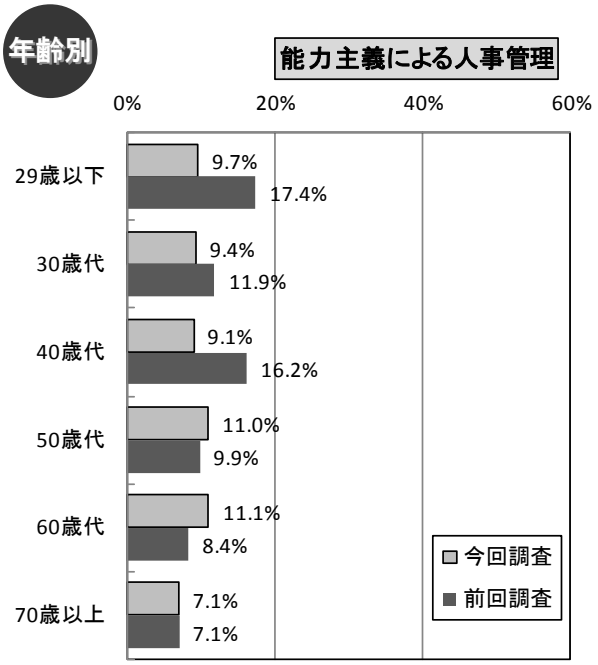
前回調査と

職場で能力を発揮するために重要なことは、全体では前回調査、今回調査ともに「仕事と家庭を両立させるための制度」が最も高く、約半数の方が回答しています。「女性自らの技能・資格の取得」、「能力主義による人事管理」が続いているのも前回調査と同様の結果となっています。

男女別にみると、前回調査、今回調査ともに、全体と同様「仕事と家庭を両立させるための制度」の割合が最も高くなっています。今回調査では、男女とも上位3位は全体と同様の結果となっています。

年齢別にみると、前回調査と同様に29歳以下、30歳代で「仕事と家庭を両立させるための制度」が半数以上と、他世代に比べて割合が高くなっています。

また、「能力主義による人事管理」は前回調査では、29歳以下～40歳代で11.9％～17.4％となっていましたが、今回調査では、いずれも9.1％～9.7％と低くなっています。



子どもの有無別にみると、前回調査とほぼ同様の割合となっています。

（３）生活全般について

問 10-1　あなたのご家庭では、以下にあげる日常生活は主にどなたの役割ですか。
次の（ア）～（セ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

日常生活の役割分担について、全体で「主に自分の役割」の高いものは、「食事の準備」、「洗濯」、「掃除」、「食事の後かたづけ」、「日常の買い物」、「預貯金の管理」、「ゴミ出し」、「家計の管理」となっています。また、「主に配偶者の役割」の高いものは、「家計の管理」、「洗濯」、「預貯金の管理」、「食事の準備」などとなっています。「自分と配偶者で分担」の割合の高いものは、「高額な商品の購入」、「子どもの教育方針（進学・習い事など）」、「地域活動への参加」となっています。「家族全員で分担」の高いものは、「家族の世話・介護」、「掃除」、「食事の後かたづけ」などとなっています。

年齢別にみると、29歳以下では「主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割」が他の年代に比べて高く、「食事の準備」から「日常の買い物」までの日常の家事では、20％台半ばから30％台後半となっています。また、「家族の世話・介護」を家族で分担している割合が高く、他の世代では10％未満なのに対し15％を超えています。「地域活動への参加」では、30歳代～60歳代は夫婦で分担している割合が最も高くなっています。

図 10-1 家庭における家事の役割分担

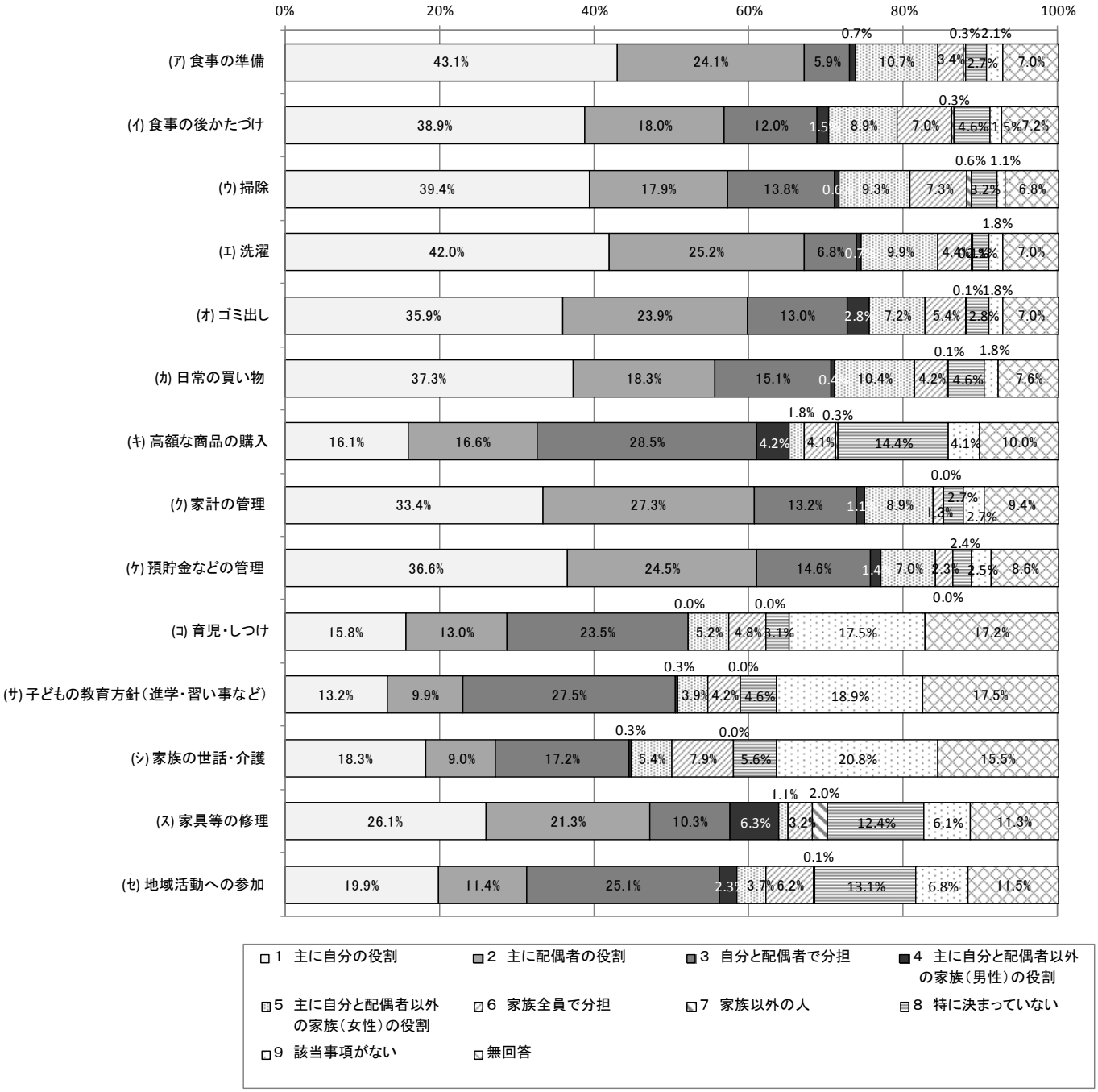
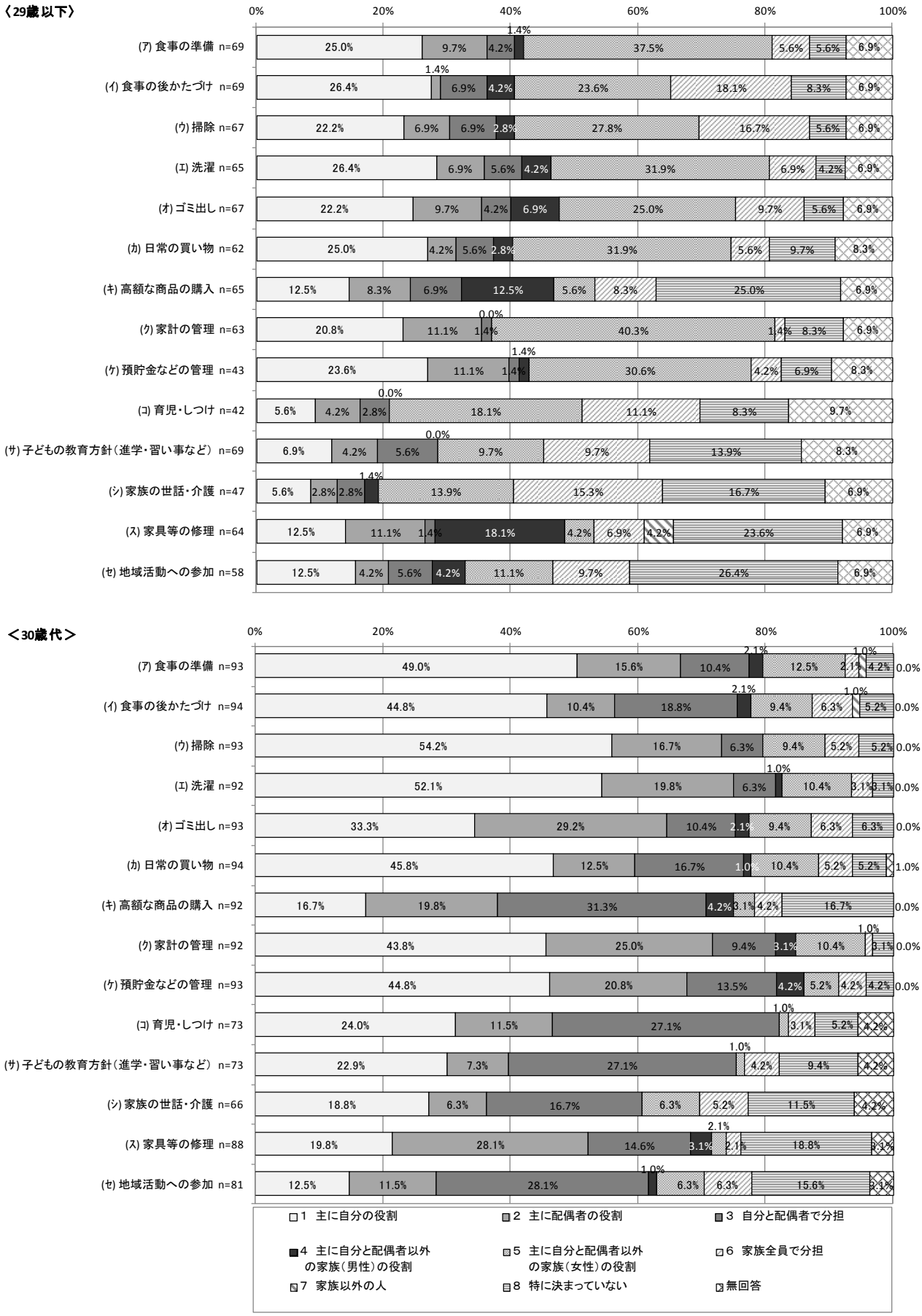
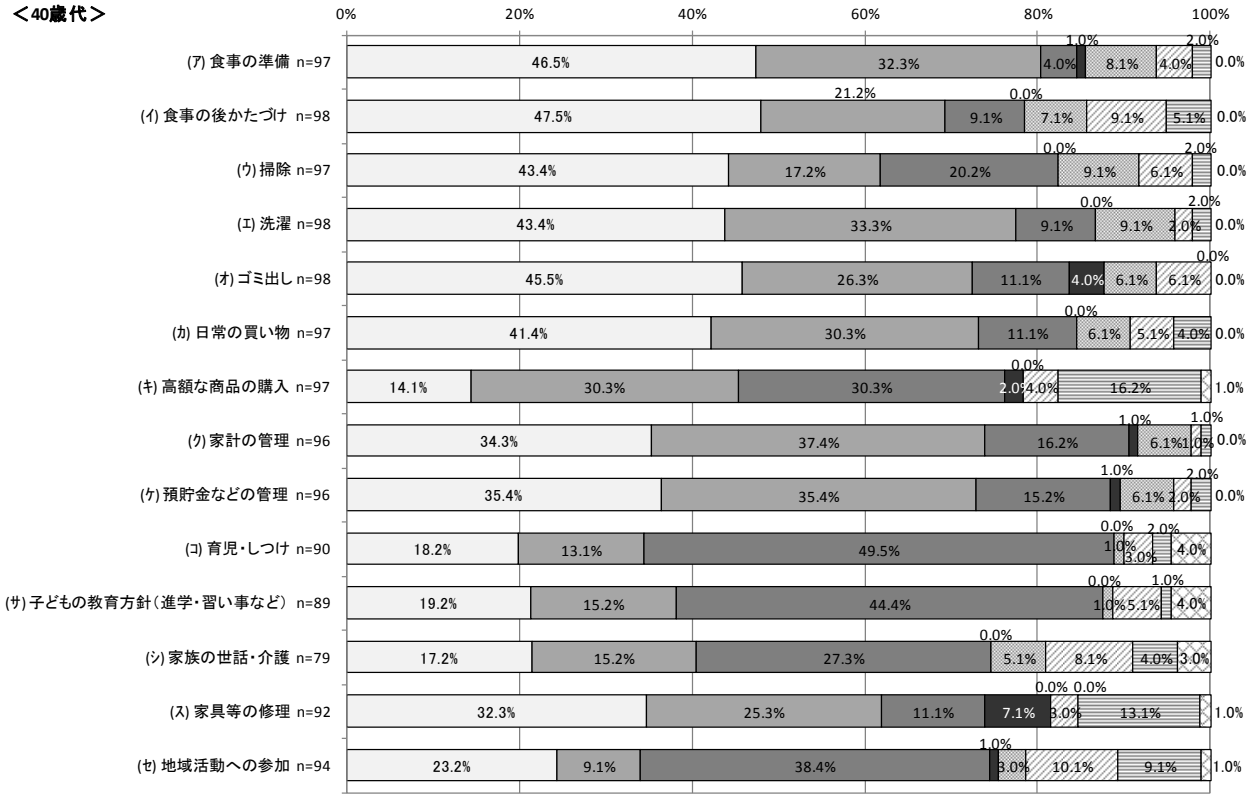


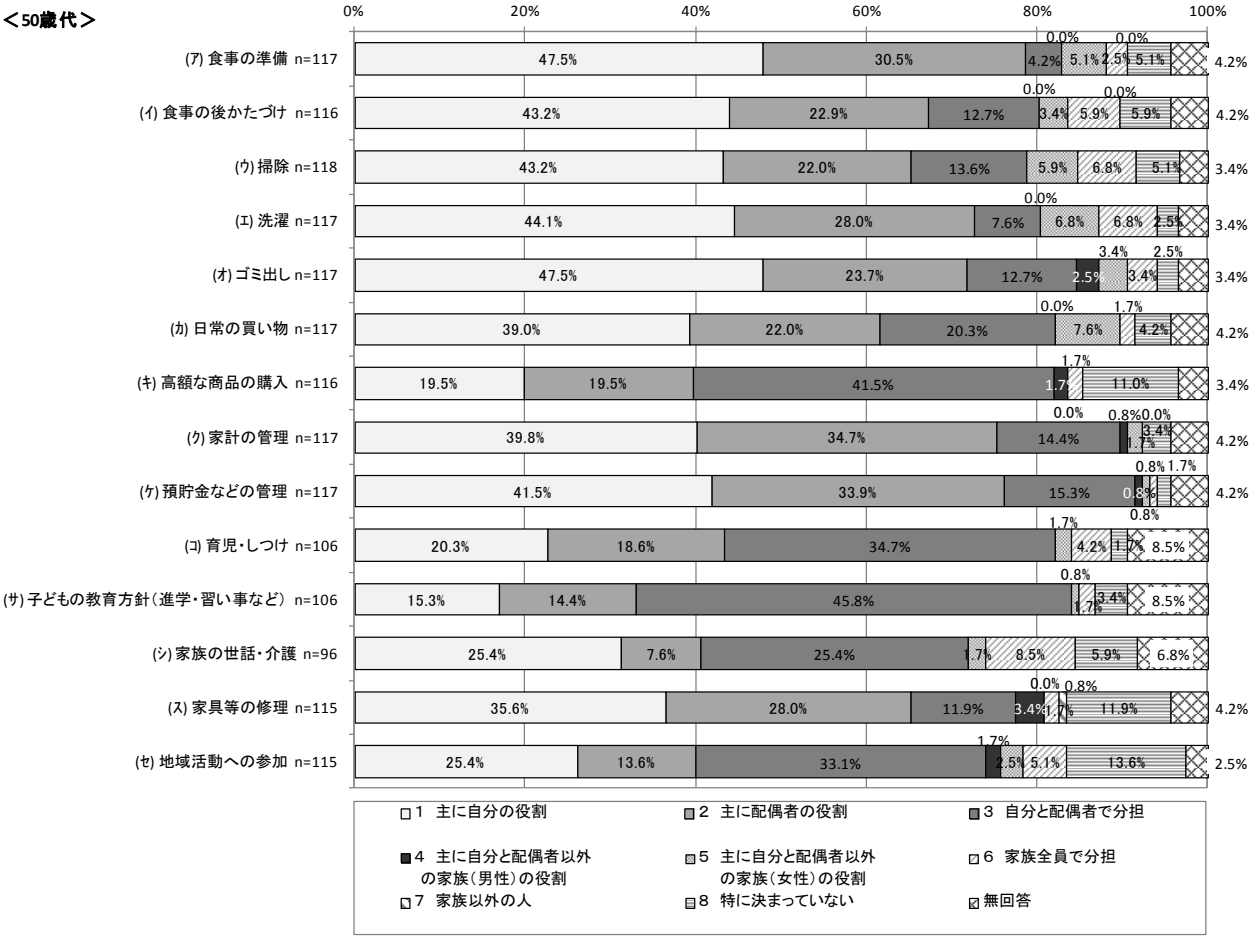
図 10-1(1)　家庭における家事の役割分担（年齢別）



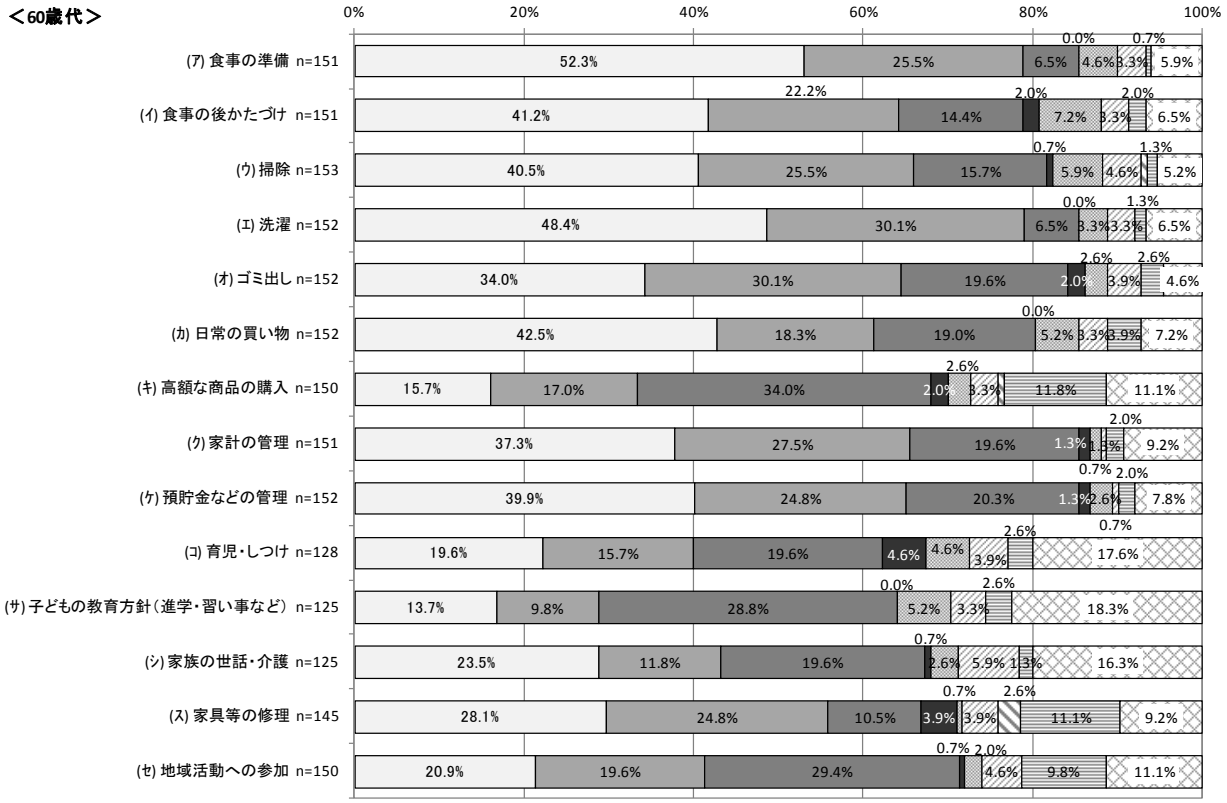
＜40歳代＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
(ｱ) 食事の準備 n=97
46.5%
32.3%
4.0%
1.0%
8.1%
4.0%
2.0%
0.0%
(ｲ) 食事の後かたづけ n=98
47.5%
21.2%
9.1%
0.0%
7.1%
9.1%
5.1%
0.0%
(ｳ) 掃除 n=97
43.4%
17.2%
20.2%
0.0%
9.1%
6.1%
2.0%
0.0%
(ｴ) 洗濯 n=98
43.4%
33.3%
9.1%
0.0%
9.1%
2.0%
2.0%
0.0%
(ｵ) ゴミ出し n=98
45.5%
26.3%
11.1%
4.0%
6.1%
6.1%
0.0%
0.0%
(ｶ) 日常の買い物 n=97
41.4%
30.3%
11.1%
0.0%
6.1%
5.1%
4.0%
0.0%
(ｷ) 高額な商品の購入 n=97
14.1%
30.3%
30.3%
0.0%
2.0%
4.0%
16.2%
1.0%
(ｸ) 家計の管理 n=96
34.3%
37.4%
16.2%
1.0%
6.1%
1.0%
1.0%
0.0%
(ｹ) 預貯金などの管理 n=96
35.4%
35.4%
15.2%
1.0%
6.1%
2.0%
2.0%
0.0%
(ｺ) 育児・しつけ n=90
18.2%
13.1%
49.5%
0.0%
1.0%
3.0%
2.0%
4.0%
(ｻ) 子どもの教育方針（進学・習い事など） n=89
19.2%
15.2%
44.4%
0.0%
1.0%
5.1%
1.0%
4.0%
(ｼ) 家族の世話・介護 n=79
17.2%
15.2%
27.3%
0.0%
5.1%
8.1%
4.0%
3.0%
(ｽ) 家具等の修理 n=92
32.3%
25.3%
11.1%
7.1%
0.0%
3.0%
0.0%
13.1%
1.0%
(ｾ) 地域活動への参加 n=94
23.2%
9.1%
38.4%
1.0%
3.0%
10.1%
9.1%
1.0%

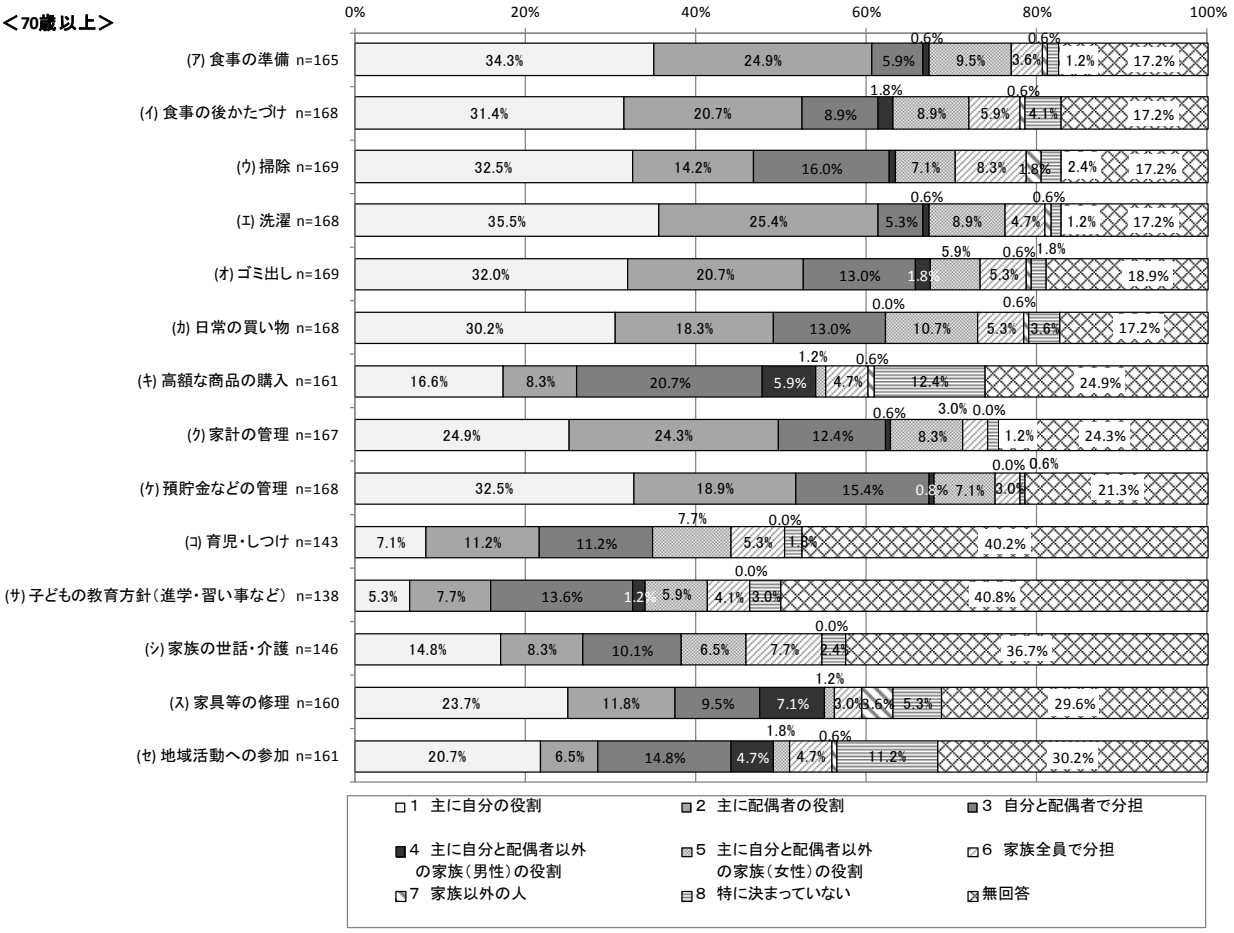
＜50歳代＞

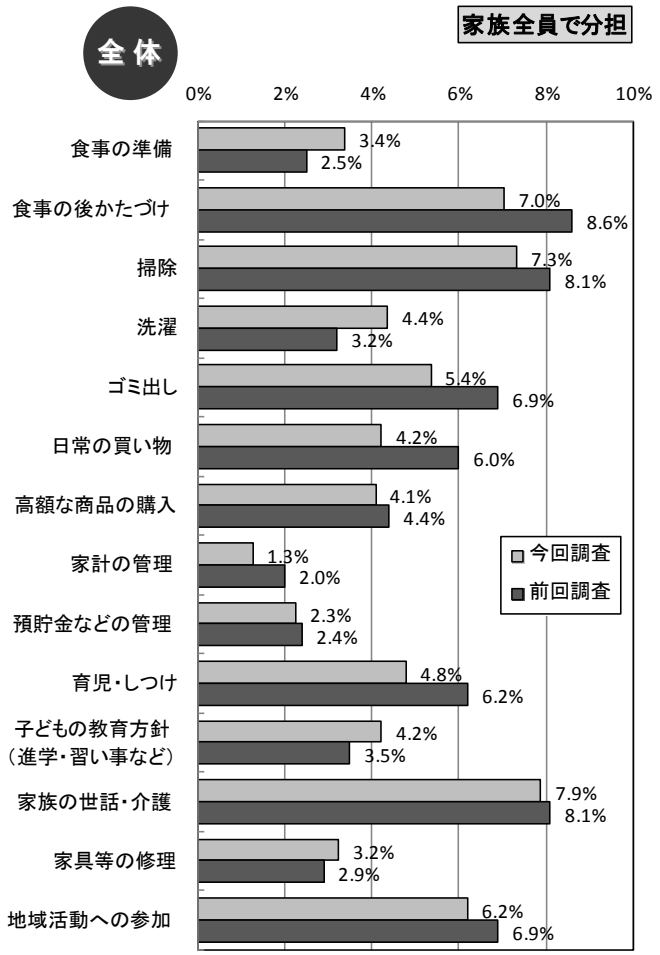

0%
20%
40%
60%
80%
100%
(ｱ) 食事の準備 n=117
47.5%
30.5%
4.2%
0.0%
5.1%
2.5%
0.0%
5.1%
4.2%
(ｲ) 食事の後かたづけ n=116
43.2%
22.9%
12.7%
0.0%
3.4%
5.9%
0.0%
5.9%
4.2%
(ｳ) 掃除 n=118
43.2%
22.0%
13.6%
5.9%
6.8%
5.1%
3.4%
(ｴ) 洗濯 n=117
44.1%
28.0%
7.6%
0.0%
6.8%
6.8%
2.5%
3.4%
(ｵ) ゴミ出し n=117
47.5%
23.7%
12.7%
3.4%
2.5%
3.4%
2.5%
3.4%
(ｶ) 日常の買い物 n=117
39.0%
22.0%
20.3%
0.0%
7.6%
1.7%
4.2%
4.2%
(ｷ) 高額な商品の購入 n=116
19.5%
19.5%
41.5%
1.7%
1.7%
11.0%
3.4%
(ｸ) 家計の管理 n=117
39.8%
34.7%
14.4%
0.0%
0.8%
1.7%
0.0%
3.4%
4.2%
(ｹ) 預貯金などの管理 n=117
41.5%
33.9%
15.3%
0.8%
0.8%
0.8%
1.7%
4.2%
(ｺ) 育児・しつけ n=106
20.3%
18.6%
34.7%
1.7%
4.2%
1.7%
0.8%
8.5%
(ｻ) 子どもの教育方針（進学・習い事など） n=106
15.3%
14.4%
45.8%
0.8%
1.7%
3.4%
8.5%
(ｼ) 家族の世話・介護 n=96
25.4%
7.6%
25.4%
1.7%
8.5%
5.9%
6.8%
(ｽ) 家具等の修理 n=115
35.6%
28.0%
11.9%
0.0%
3.4%
0.8%
1.7%
11.9%
4.2%
(ｾ) 地域活動への参加 n=115
25.4%
13.6%
33.1%
1.7%
2.5%
5.1%
13.6%
2.5%
1 主に自分の役割
2 主に配偶者の役割
3 自分と配偶者で分担
4 主に自分と配偶者以外の家族（男性）の役割
5 主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割
6 家族全員で分担
7 家族以外の人
8 特に決まっていない
無回答

＜60歳代＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
(ｱ) 食事の準備 n=151
52.3% 25.5% 6.5% 0.0% 4.6% 3.3% 0.7% 5.9%
(ｲ) 食事の後かたづけ n=151
41.2% 22.2% 14.4% 2.0% 7.2% 3.3% 2.0% 6.5%
(ｳ) 掃除 n=153
40.5% 25.5% 15.7% 0.7% 5.9% 4.6% 1.3% 5.2%
(ｴ) 洗濯 n=152
48.4% 30.1% 6.5% 0.0% 3.3% 3.3% 1.3% 6.5%
(ｵ) ゴミ出し n=152
34.0% 30.1% 19.6% 2.0% 2.6% 3.9% 2.6% 4.6%
(ｶ) 日常の買い物 n=152
42.5% 18.3% 19.0% 0.0% 5.2% 3.3% 3.9% 7.2%
(ｷ) 高額な商品の購入 n=150
15.7% 17.0% 34.0% 2.0% 2.6% 3.3% 11.8% 11.1%
(ｸ) 家計の管理 n=151
37.3% 27.5% 19.6% 1.3% 1.3% 2.0% 9.2%
(ｹ) 預貯金などの管理 n=152
39.9% 24.8% 20.3% 1.3% 0.7% 2.6% 2.0% 7.8%
(ｺ) 育児・しつけ n=128
19.6% 15.7% 19.6% 4.6% 4.6% 3.9% 2.6% 0.7% 17.6%
(ｻ) 子どもの教育方針（進学・習い事など） n=125
13.7% 9.8% 28.8% 0.0% 5.2% 3.3% 2.6% 18.3%
(ｼ) 家族の世話・介護 n=125
23.5% 11.8% 19.6% 0.7% 2.6% 5.9% 1.3% 16.3%
(ｽ) 家具等の修理 n=145
28.1% 24.8% 10.5% 3.9% 0.7% 3.9% 2.6% 11.1% 9.2%
(ｾ) 地域活動への参加 n=150
20.9% 19.6% 29.4% 0.7% 2.0% 4.6% 9.8% 11.1%

＜70歳以上＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
(ｱ) 食事の準備 n=165
34.3% 24.9% 5.9% 0.6% 9.5% 3.6% 0.6% 1.2% 17.2%
(ｲ) 食事の後かたづけ n=168
31.4% 20.7% 8.9% 1.8% 8.9% 5.9% 0.6% 4.1% 17.2%
(ｳ) 掃除 n=169
32.5% 14.2% 16.0% 7.1% 8.3% 1.8% 2.4% 17.2%
(ｴ) 洗濯 n=168
35.5% 25.4% 5.3% 0.6% 8.9% 4.7% 0.6% 1.2% 17.2%
(ｵ) ゴミ出し n=169
32.0% 20.7% 13.0% 1.8% 5.9% 5.3% 0.6% 1.8% 18.9%
(ｶ) 日常の買い物 n=168
30.2% 18.3% 13.0% 10.7% 5.3% 0.0% 3.6% 0.6% 17.2%
(ｷ) 高額な商品の購入 n=161
16.6% 8.3% 20.7% 5.9% 1.2% 4.7% 0.6% 12.4% 24.9%
(ｸ) 家計の管理 n=167
24.9% 24.3% 12.4% 0.6% 8.3% 3.0% 1.2% 0.0% 24.3%
(ｹ) 預貯金などの管理 n=168
32.5% 18.9% 15.4% 0.6% 7.1% 3.0% 0.0% 0.6% 21.3%
(ｺ) 育児・しつけ n=143
7.1% 11.2% 11.2% 7.7% 5.3% 1.8% 0.0% 40.2%
(ｻ) 子どもの教育方針（進学・習い事など） n=138
5.3% 7.7% 13.6% 1.2% 5.9% 4.1% 3.0% 0.0% 40.8%
(ｼ) 家族の世話・介護 n=146
14.8% 8.3% 10.1% 6.5% 7.7% 2.4% 0.0% 36.7%
(ｽ) 家具等の修理 n=160
23.7% 11.8% 9.5% 7.1% 1.2% 3.0% 8.6% 5.3% 29.6%
(ｾ) 地域活動への参加 n=161
20.7% 6.5% 14.8% 4.7% 1.8% 4.7% 0.6% 11.2% 30.2%
1 主に自分の役割
2 主に配偶者の役割
3 自分と配偶者で分担
4 主に自分と配偶者以外の家族（男性）の役割
5 主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割
6 家族全員で分担
7 家族以外の人
8 特に決まっていない
無回答



前回調査と

日常生活の役割分担について、全体で「自分と配偶者で分担」の割合の高いものは、「高額な商品の購入」、「子どもの教育方針（進学・習い事など）」など、順位に多少の変動はあるものの、前回調査とほぼ同様の結果となっています。「家族全員で分担」の割合の最も高いものは、「家族の世話・介護」となっており、前回調査と比べて、家事の中で「介護」の占める割合が高くなっているといえます。

年齢別にみると、29歳以下は「主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割」が他の年代に比べて高く、そのなかでも「食事の準備」から「日常の買い物」までの日常の家事で特に高くなっていること、「家族の世話・介護」を家族で分担している割合が高いことなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

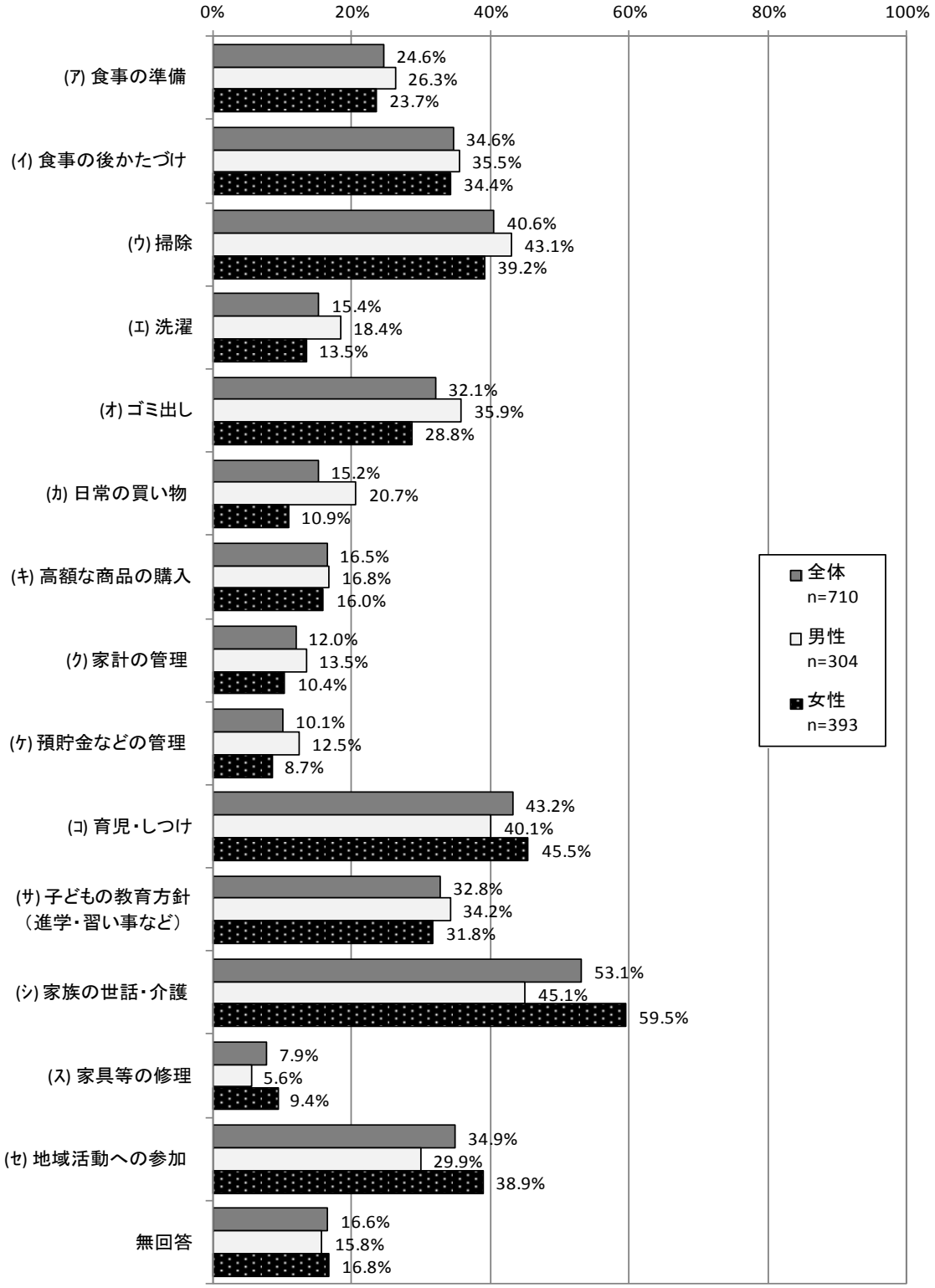
「地域活動への参加」をみると、夫婦で分担している割合は、前回調査では、30歳代と50歳代で最も高くなっていましたが、今回調査では、30歳代～60歳代で最も高くなっており、幅広い年代層において夫婦で分担を必要としていると読み取れます。

問 10-2　問 10-1 の（ア）～（セ）の項目のうち、「自分と配偶者で分担」または「家族全員で分担」が望ましいと思うものはどれですか。
最大５つまで選んで（　）の中の記号を記入してください。

分担が望ましいものについて、全体では「家族の世話・介護」が53.1％、「育児・しつけ」が43.2％、「掃除」が40.6％と高くなっています。

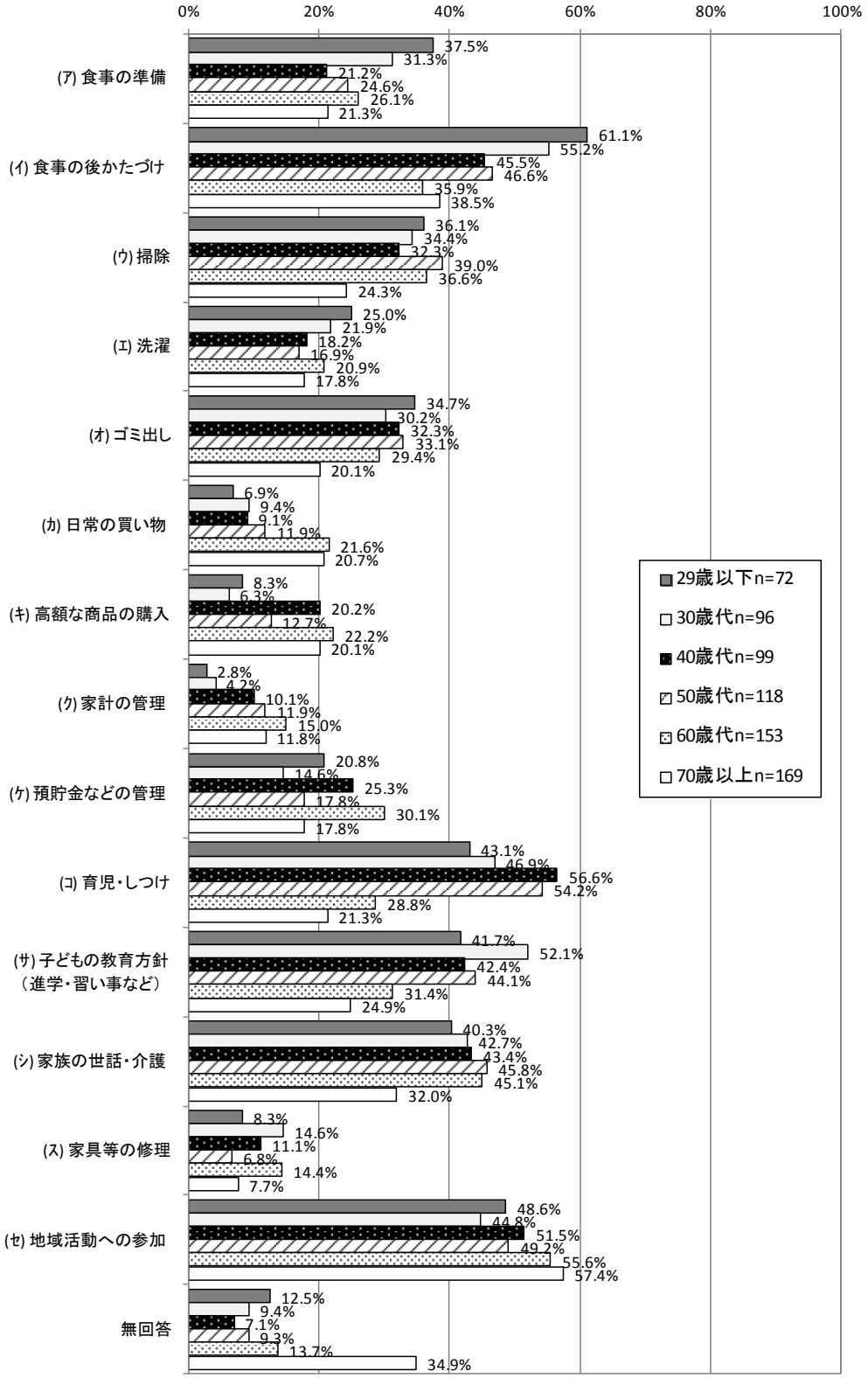
男女別にみると、男性が女性より「分担が望ましい」と回答する割合が高いものは、「食事の準備」、「食事の後かたづけ」、「掃除」、「洗濯」、「ゴミ出し」、「日常の買い物」、「家計の管理」となっています。一方、女性が男性より「分担が望ましい」と回答する割合が高いものは、「育児・しつけ」、「家族の世話・介護」、「家具等の修理」、「地域活動への参加」となっています。

図 10-2 分担が望ましい家事



年齢別にみると、40歳代、50歳代では「育児・しつけ」、29歳以下、30歳代では「食事の後かたづけ」、60歳代、70歳代では「地域活動への参加」が最も高くなっています。

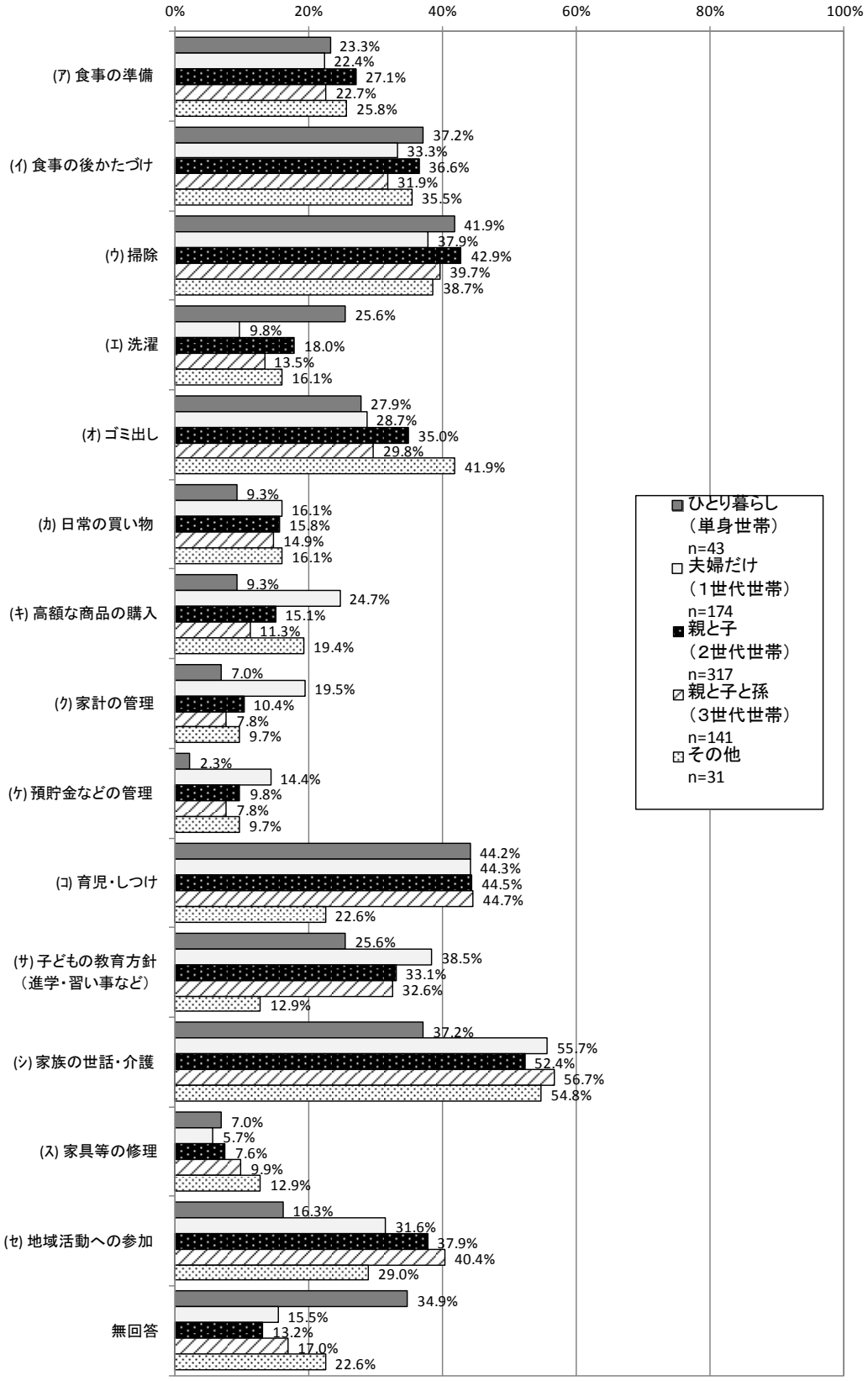
図 10-2(1)　分担が望ましい家事(年齢別)



家族構成別にみると、単身世帯を除くすべての世帯で「家族の世話・介護」が最も高く、続いて「育児・しつけ」となっています。

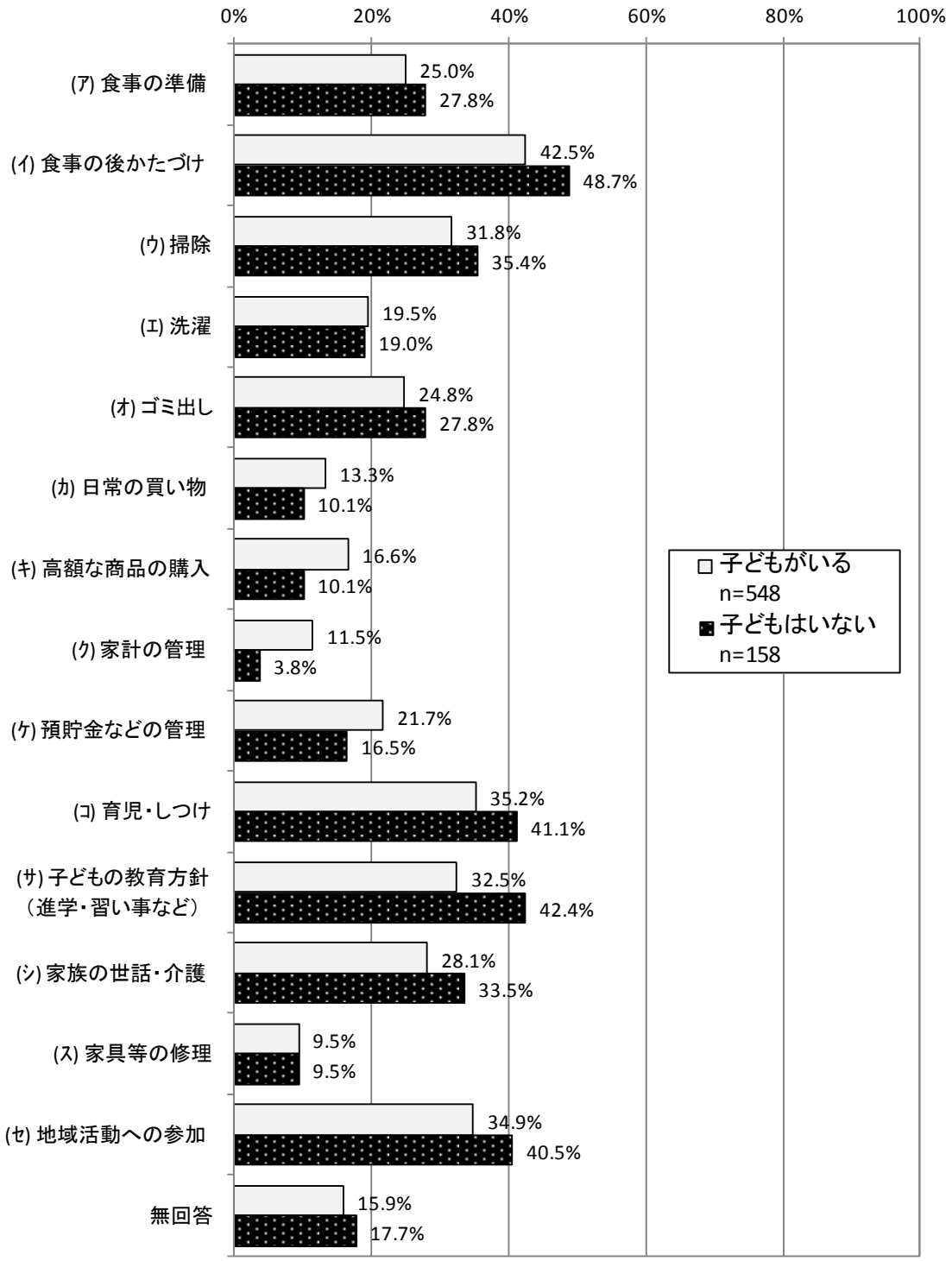
3番目に高いのは、1世代世帯では「子どもの教育方針」、3世代世帯では「地域活動への参加」であり、それぞれ特徴的といえます。

図 10-2(2)　分担が望ましい家事(家族構成別)



子どもの有無別にみると、最も高くなっているのは、いずれも「食事の後かたづけ」となっています。子どものいない回答者では、「子どもの教育方針」、「育児・しつけ」、「地域活動への参加」も4割以上と高くなっています。

図 10-2(3)　分担が望ましい家事(子どもの有無別)

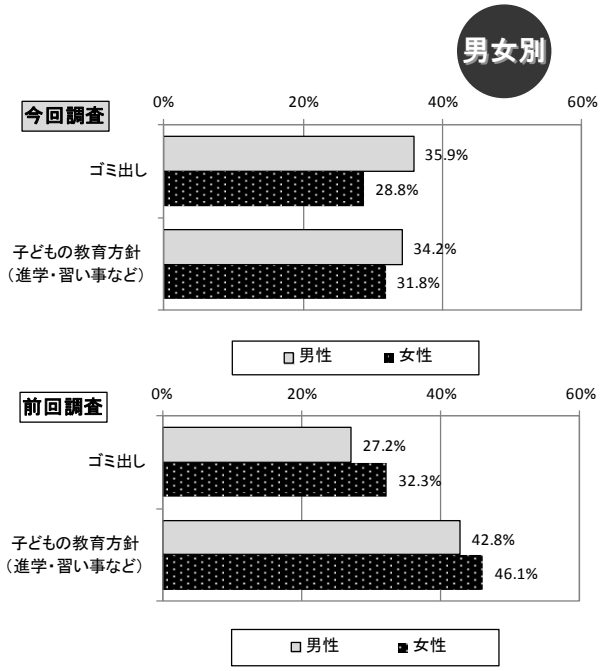


前回調査と

分担が望ましいものについて、全体では「家族の世話・介護」、「育児・しつけ」、「掃除」などが高くなっていることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

男性が女性より「分担が望ましい」と回答する割合が高いもの、女性が男性より「分担が望ましい」と回答する割合が高いものも、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

そのなかで、前回調査で男性の割合が高かった「ゴミ出し」は、今回調査で逆転しています。一方、「子どもの教育方針」においては、前回調査で男性42.8％、女性46.1％と高かったものが、今回調査では男性34.2％、女性31.8％と、女性が低くなっています。

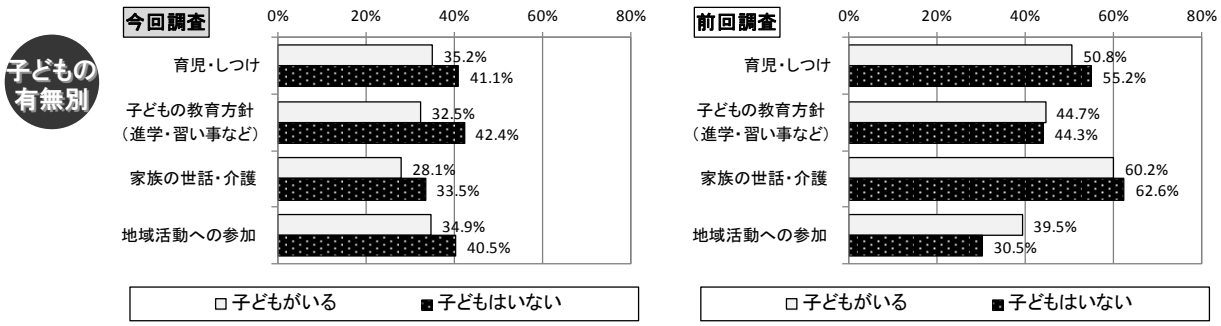


年齢別にみると、前回調査では、29歳以下、30歳代で「育児・しつけ」の割合が最も高くなっていましたが、今回調査では、40歳代、50歳代で最も高くなっており、晩婚化による影響や、増加している共働き夫婦の親の世代の回答などと考えられます。

「家族の世話・介護」では、70歳以上を除くすべての年代で、前回調査より低くなっており、一方、「地域活動への参加」ではすべての年代で前回調査より高くなっています。

家族構成別にみると、単身世帯を除くすべての世帯で「家族の世話・介護」が最も高いものの、前回調査では3世代世帯で74.8％と飛び抜けて高かったものが56.7％と低くなり、単身世帯の37.2％を除いて、ほぼ5割程度となっています。

子どもの有無別にみると、子どものいない回答者で「地域活動への参加」が40.5％と高くなっており、前回調査で、子どものいる回答者の割合の方が高かったものが逆転しています。また、「育児・しつけ」、「子どもの教育方針」、「家族の世話・介護」は、いずれも前回調査より低くなっています。



問 11　あなたは、子どもの育て方についてどのように思いますか。
あなたのお考えに最も近いものを１つ選び、○を付けてください。

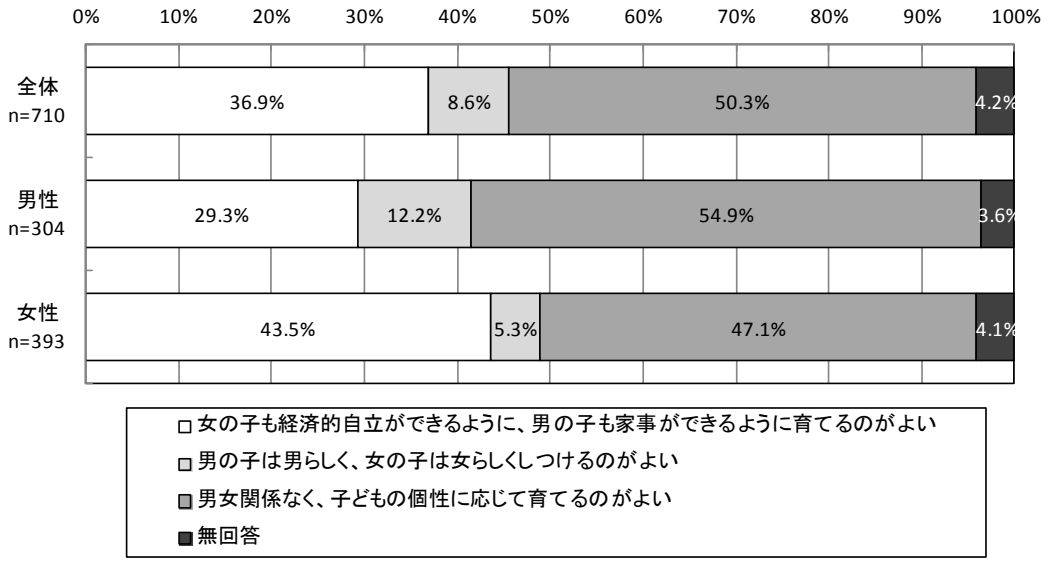
※子どもがいらっしゃらない方、またすでに養育が終わられた方も、「子どもを育てるとしたら」としてお答えください。

子どもの育て方について、全体では「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」が50.3％と最も高くなっています。続いて「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」が36.9％となっています。

男女別でみると、男性は「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」が54.9%と過半数であり、続いて「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」が29.3%、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」が12.2%となっています。

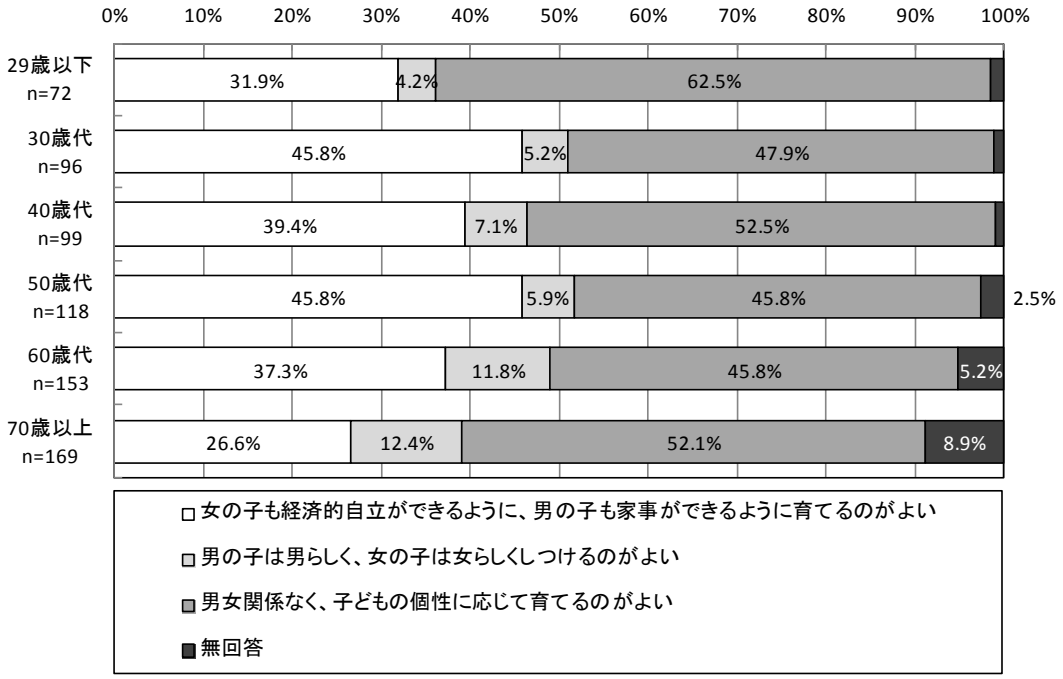
一方、女性は「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」が47.1％と最も高く、続いて「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」が43.5%、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」が5.3%となっており、家庭における教育では、男性の方が男女平等教育の推進に対する意識が高いといえます。

図 11　子どもの育て方についての考え



年齢別にみると、どの年代でも「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」が最も高く、特に29歳以下で62.5%となっています。50歳代では45.8％で、「女の子も経済的自立が、男の子も家事ができるように育てるのがよい」と同じ割合となっています。「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」との回答は29歳以下がもっとも低く、30歳代～50歳代が5～7％台の同程度で、50歳代以降、年齢が高くなるにつれ割合も高くなっています。

図 11(1)　子どもの育て方についての考え(年齢別)

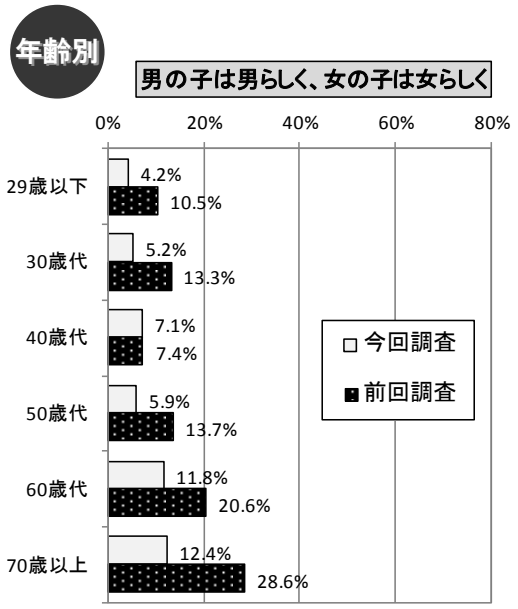


前回調査と

子どもの育て方について、全体では前回調査、今回調査とも「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」が最も高く、約半数の方が回答しています。続いて「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」となっています。

男女別でみると、男性は「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」が過半数であり、「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」が続き、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

女性では「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」が5割弱と最も高く、続いて「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」と続き、やはり前回調査と同様の結果となっています。



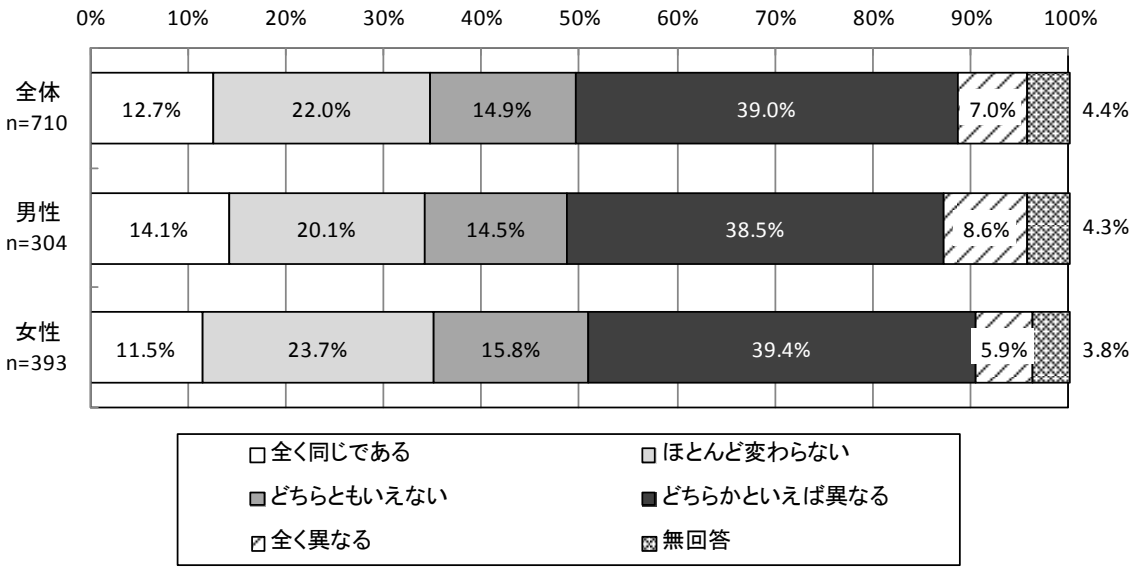
年齢別にみると、「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」は、30歳代と60歳代以外は前回調査より高くなっており、「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」は、29歳以下と40歳代以外で前回調査より高くなっています。「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」は、ほとんどの世代で、前回調査の半分程度の割合と低くなっており、高い年代層でも固定的な観念にとらわれず、個人として能力を発揮できる男女共同参画の意識が高まってきたと読み取れます。

問 12　あなたは、子育てにおける父親と母親の役割の違いについてどうお考えですか。
<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

父親と母親の役割について、全体では「どちらかといえば異なる」が39.0％で最も高く、続いて「ほとんど変わらない」が22.0％となっています。また、「全く異なる」は7.0％で、「どちらかといえば異なる」と合わせると、全体の中では、父親と母親の役割は違うと考えているという回答が多くなっています。

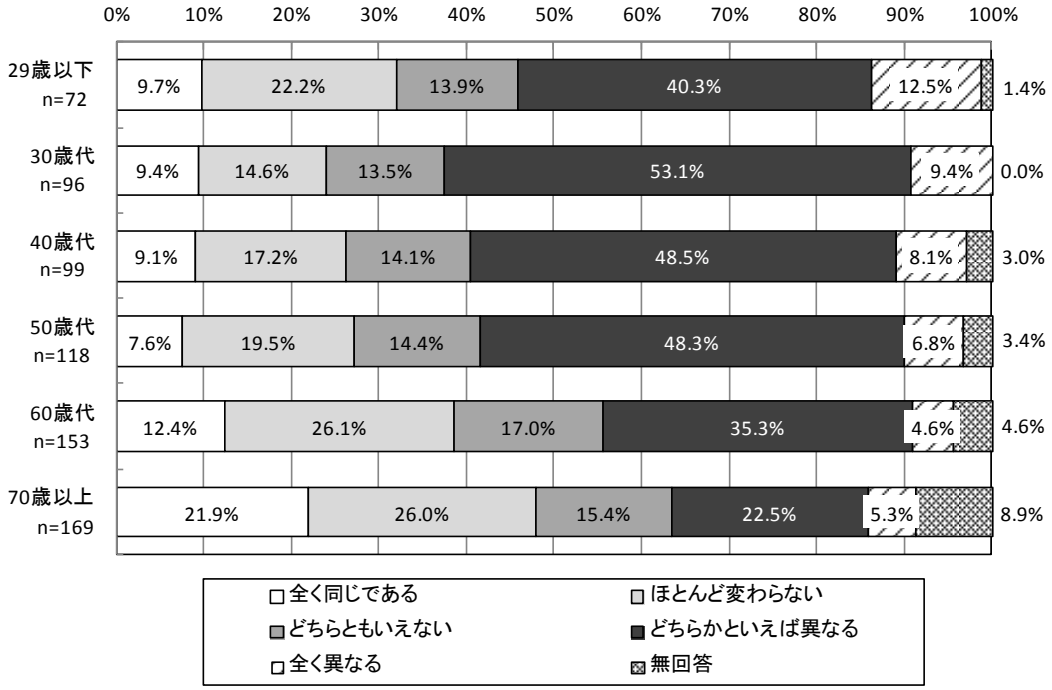
男女別にみると、男性は「どちらかといえば異なる」が38.5%、続いて「ほとんど変わらない」が20.1%、「全く同じである」が14.1%、「どちらともいえない」が14.5%となっており、「異なる」との意見が強くなっています。女性は「どちらかといえば異なる」が39.4%、「ほとんど変わらない」が23.7%、「どちらともいえない」が15.8%、「全く同じである」が11.5%の順となっており、女性も「異なる」との意見が強くなっています。

図 12　子育てにおける父親と母親の違い



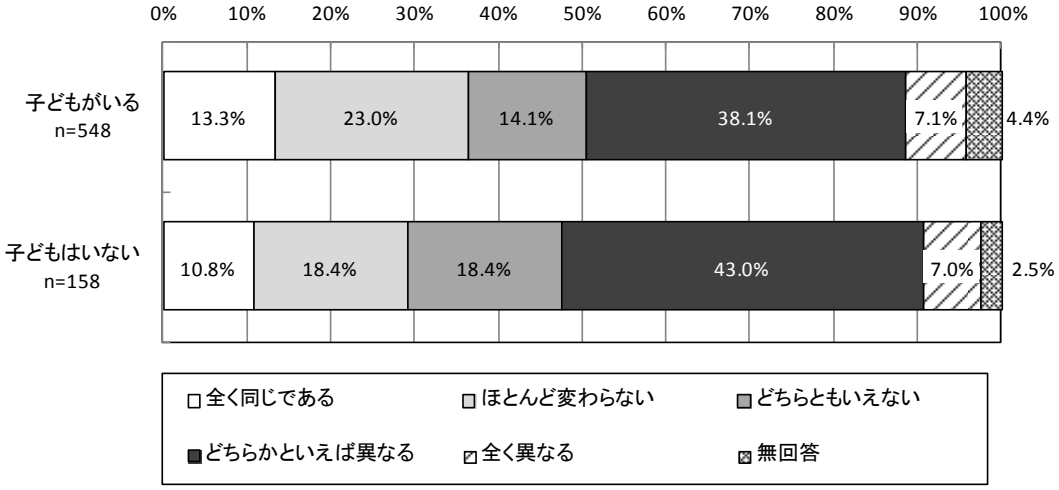
年齢別にみると、「全く同じである」と「ほとんど変わらない」を合わせた「変わらない」との意見は、30歳代以降、年齢が高くなるにつれ高くなる傾向にあり、一方、「どちらかといえば異なる」と「全く異なる」を合わせた「異なる」との意見は、30歳代以降、年齢が高くなるにつれ低くなっています。

図 12(1)　子育てにおける父親と母親の違い(年齢別)



子どもの有無別では、子どもがいる回答者は「全く同じである」と「ほとんど変わらない」を合わせた「変わらない」との意見が36.3%、「どちらかといえば異なる」と「全く異なる」を合わせた「異なる」との意見が45.2%と、「異なる」との意見の方が高くなっています。一方、子どもがいない回答者は「変わらない」との意見が29.2%、「異なる」との意見が50.0%と、子どもがいる回答者と比べ「異なる」との意見がより高くなっています。

図 12(2)　子育てにおける父親と母親の違い(子どもの有無別)



前回調査と

父親と母親の役割について、前回調査と比較すると、「全く同じである」と「ほとんど変わらない」を合わせた「変わらない」との意見が女性で高くなっており、全体、男女とも「どちらかといえば異なる」と「全く異なる」を合わせた、「異なる」との意見は低くなっています。

年齢別にみると、前回調査とほぼ同様の結果となっていますが、ほとんどの世代で「どちらかといえば異なる」と「全く異なる」を合わせた「異なる」との意見は、前回調査より高くなっています。

子どもの有無別では、前回調査とほぼ同様の結果となっていますが、前回調査と比べて「変わらない」という意見は、子どもがいる回答者で低くなり、子どもがいない回答者で高くなっています。一方、「異なる」という意見は、子どもがいる回答者でほぼ同程度、子どもがいない回答者で低くなっています。

年齢別以外では、「変わらない」という意見が高くなっており、固定的な男女の役割分担や子育てに関わる固定観念などの意識改革の表れともいえます。

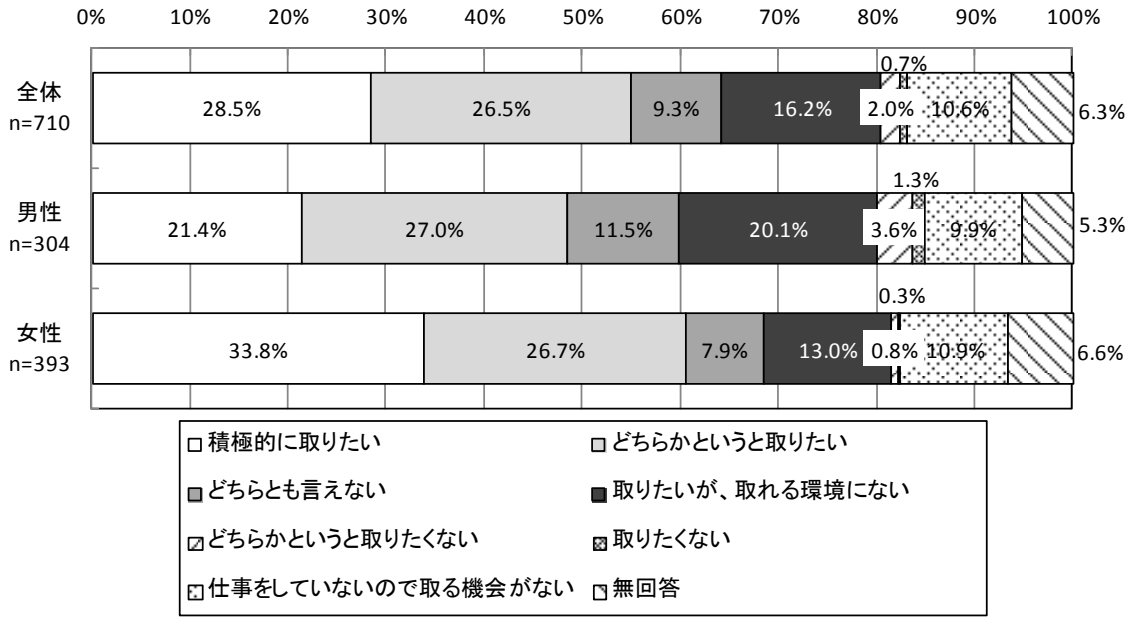
問 13　育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取ることについて、あなたはどうお考えですか。<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

※現在取得する予定がない方も、将来取る必要が生じた場合としてお答えください。

育児休業や介護休業について、全体で「積極的に取りたい」が28.5％で、「どちらかというと取りたい」の26.5％と合わせると、取りたいという回答が55％となっています。

男女別にみると、男性は「どちらかというと取りたい」が27.0%と最も高くなっており、続いて「積極的に取りたい」が21.4%、「取りたいが、取れる環境にない」が20.1%の順となっています。一方、女性は「積極的に取りたい」が33.8%と最も高く、「どちらかというと取りたい」が26.7%、「取りたいが、取れる環境にない」が13.0%の順となっています。男女とも「取りたい」と考えている回答者が大半ではあるものの、男性の方が女性よりも取りやすい環境に置かれていないと考えられます。

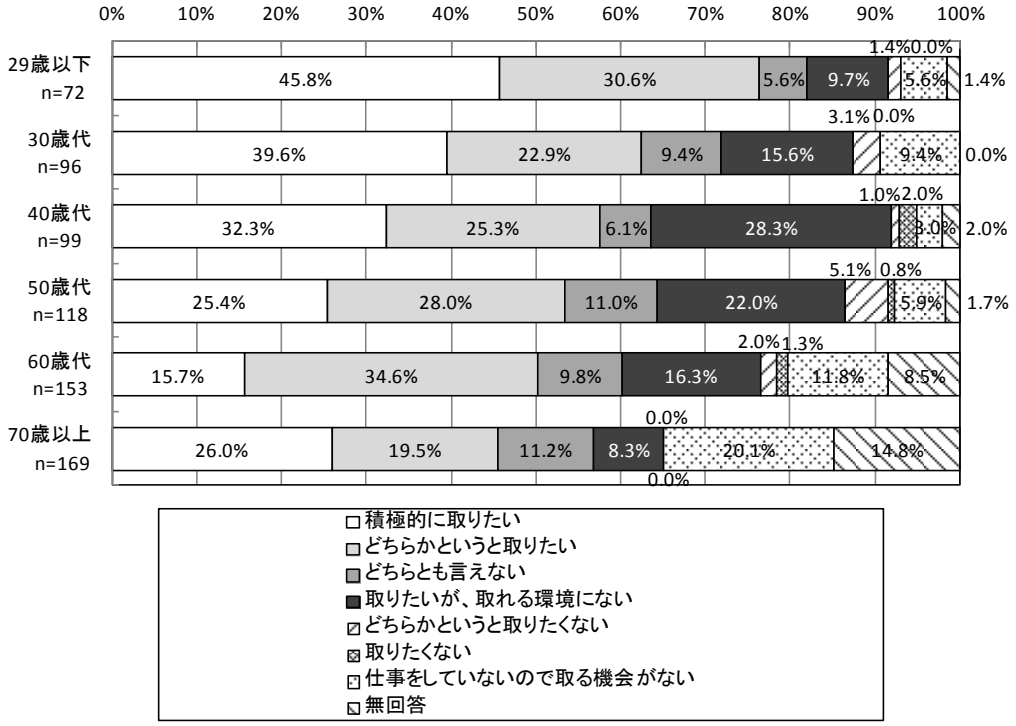
図 13　育児休業・介護休業の取得



年齢別にみると、「取りたい（「積極的に取りたい」と「どちらかというと取りたい」を合わせた回答）」が、29歳以下で76.4%と最も高く、年齢が上がるにつれ割合は低くなっています。

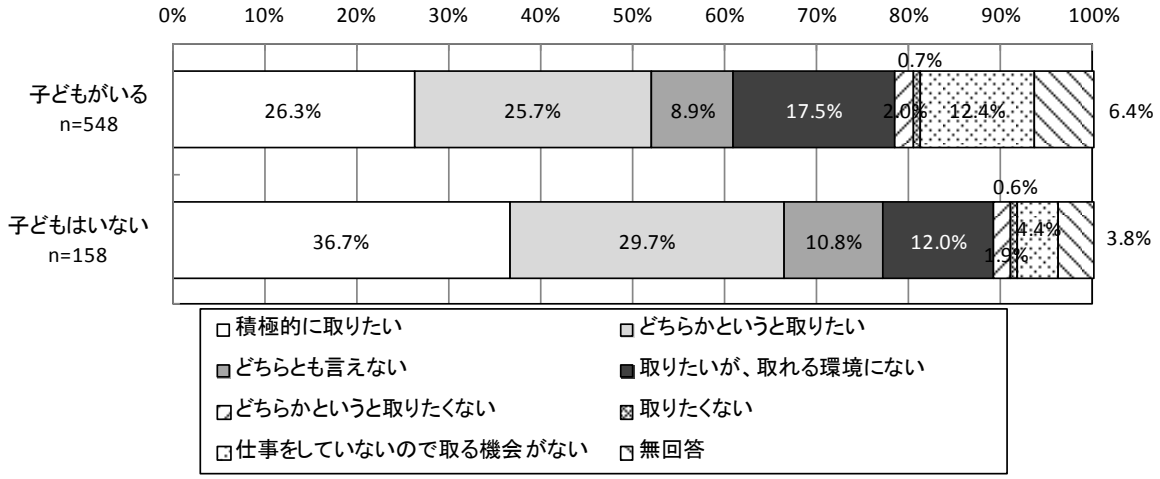
40歳代と50歳代では「取りたいが、取れる環境にない」という意見が20%を超えています。

図 13（1）　育児休業・介護休業の取得（年齢別）



子どもの有無別にみると、子どもがいない回答者は「取りたい（「積極的に取りたい」と「どちらかというと取りたい」を合わせた回答）」が66.4%であり、子どもがいる回答者と比べて14.4ポイント高くなっています。

図 13（2）　育児休業・介護休業の取得（子どもの有無別）



前回調査と

育児休業や介護休業について、全体では「取りたい（「積極的に取りたい」と「どちらかというと取りたい」を合わせた回答）」が、前回調査の51.4％から今回調査の55％と、わずかながら高くなっています。

ひとつ「働き方」を変えてみよう！
カエル！ジャパン
Change! JPN

男女別にみると、「取りたい」は、前回調査から男性が2.8ポイント、女性が4.5ポイント高くなっています。一方、「取りたいが、取れる環境にない」は、前回調査から男性が9.4ポイント、女性が4.8ポイント低くなっており、男女とも前回調査より取りやすい環境になったと考えられます。

年齢別にみると、「取りたい」は29歳以下で最も高く、年齢が上がるにつれ割合は低くなっていますが、70歳代を除くすべての世代で、50％を超え、前回調査より高くなっています。
「取りたいが、取れる環境にない」は70歳代を除くすべての世代で前回調査より低くなっています。

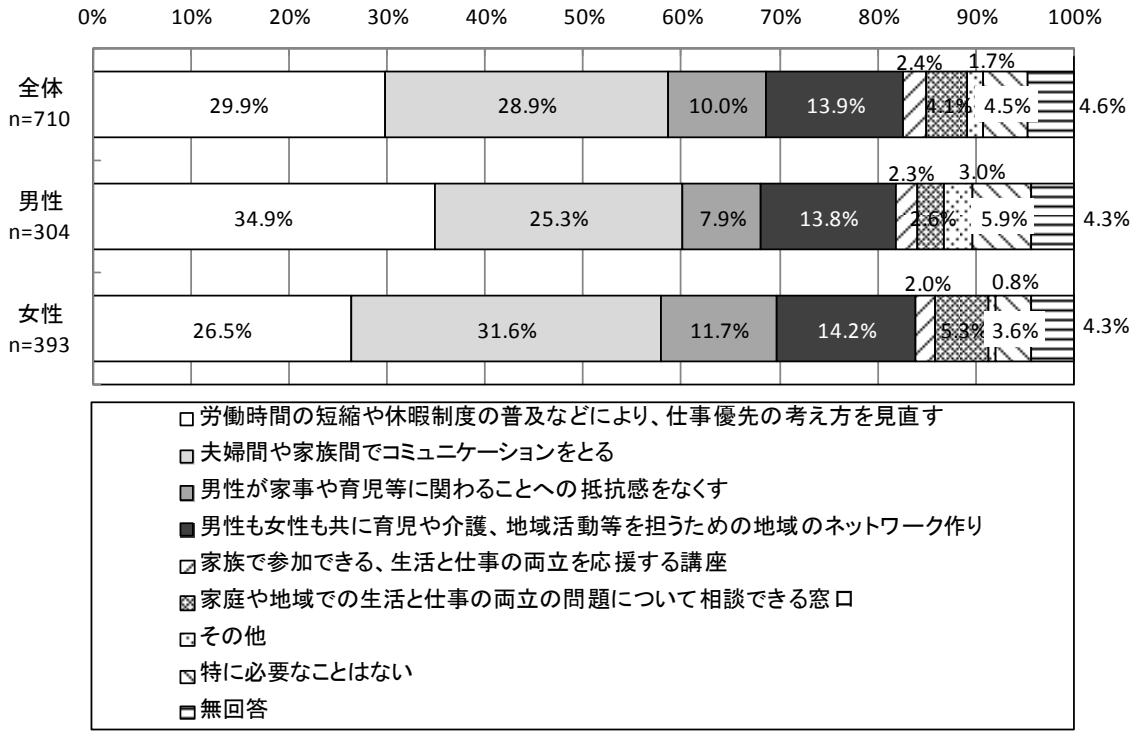
子どもの有無別にみると、前回調査とほぼ同様の結果となっていますが、前回調査より「取りたい」が高く、「取りたいが、取れる環境にない」は低くなっています。

問 14　今後、男性も女性も共に、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことがもっとも重要だと思いますか。1つ選び、○を付けてください。

男女の区別なくさまざまな活動に積極的に参加するために重要なことは、全体では「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」が29.9%で最も高く、続いて「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が28.9%、「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り」が13.9%となっています。

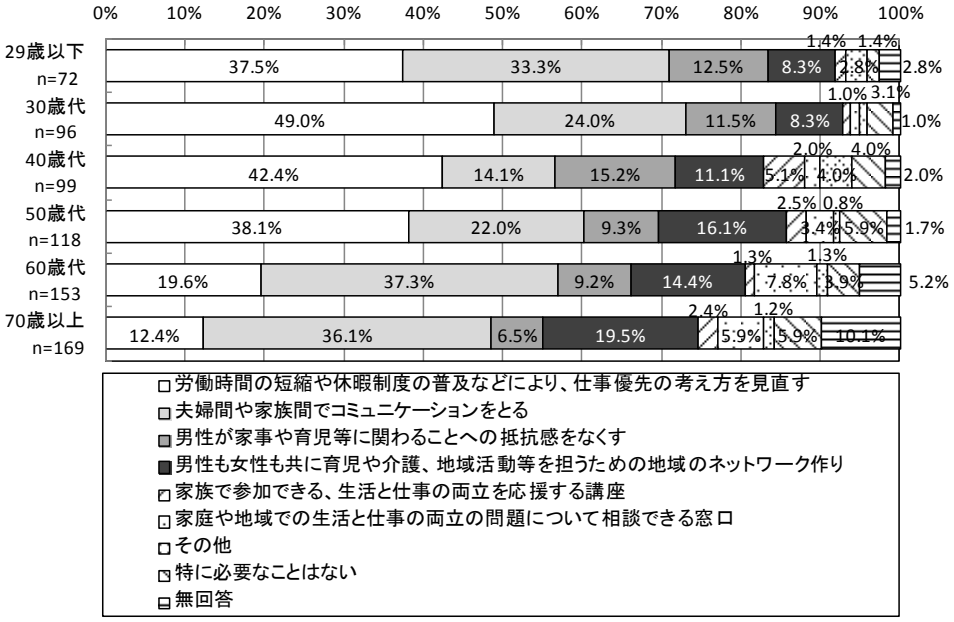
男女別にみると、男性は「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」が34.9%と最も高く、続いて「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が25.3%、「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り」が13.8%となっており、全体の順位と同様となっています。女性は、「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が31.6%と最も高く、続いて「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」が26.5%、「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り」が14.2%となっています。また、「男性が家事や育児等に関わることへの抵抗感をなくす」が11.7%と、男性の7.9%と比べ3.8ポイント上回っています。

図 14　男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり



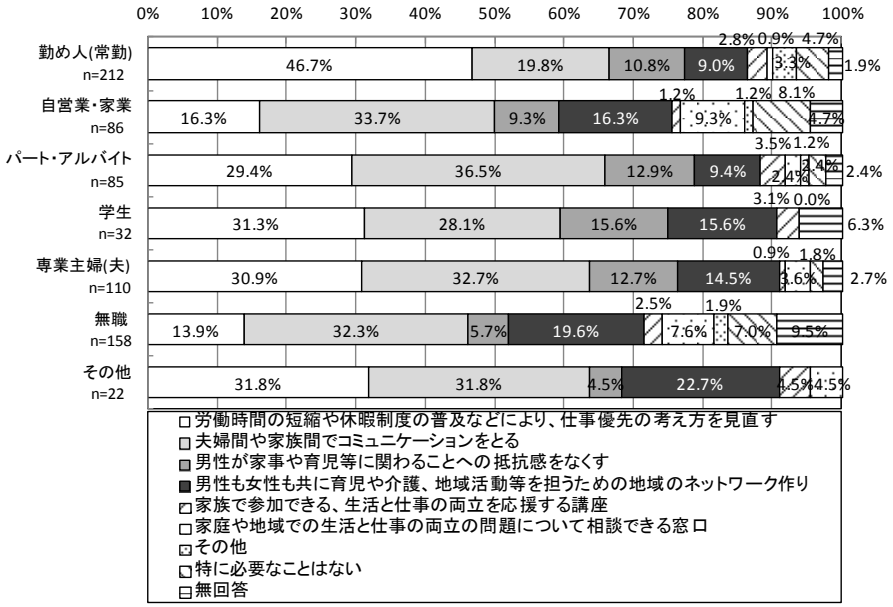
年齢別にみると、「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」は、30歳代以降、年齢が高くなるにつれ割合が低くなり、「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」は、40歳代以降、年齢が高くなるにつれ割合も高くなる傾向にあります。「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、年齢が高くなるほど、地域でのつながりを重視している傾向にあります。

図 14(1)　男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり(年齢別)



職業別にみると、「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」は、勤め人(常勤)の回答者が46.7%と最も高くなっています。「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」は、自営業・家業と専業主婦(夫)がそれぞれ33.7%、32.7%で、ほぼ同程度となっています。

図 14(2)　男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり(職業別)

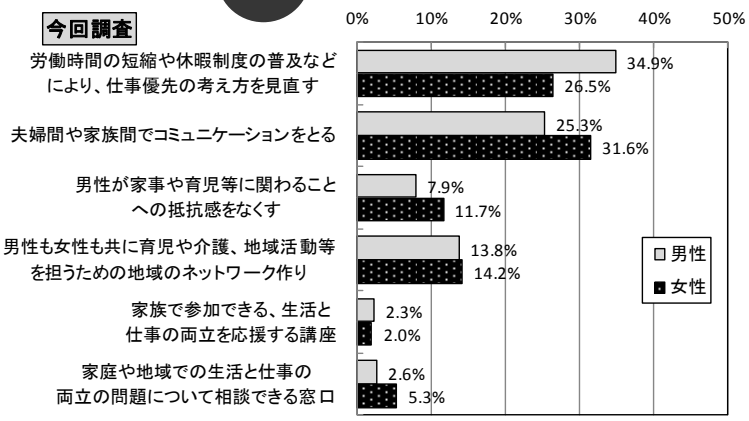


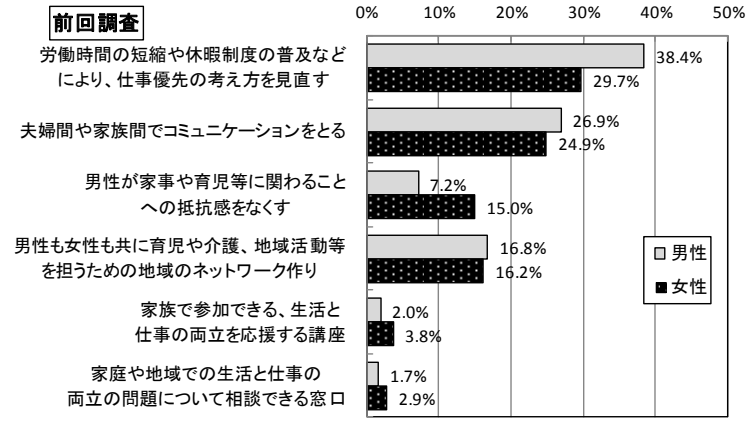
前回調査と

男女の区別なく、さまざまな活動に積極的に参加するために重要なことは、全体で「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」が最も高く、続いて「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」、「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り」が高くなっていることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

男女別

男女別にみると、前回調査では、男女ともに全体の順位と同じでしたが、今回調査では、男性は全体と同じ順位ですが、女性は「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が最も高く、「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り」は、男性13.8%に対し、女性14.2%と女性の方が高くなっており、前回調査の結果と逆転しています。





年齢別にみると、前回調査とほぼ同様の結果となっていますが、29歳以下、30歳代で「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」が最も高いものの、前回調査よりは低くなっており、一方、「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」は、前回調査より大幅に高くなっています。若い世代では、昨今の厳しい経済状況のなか、仕事を優先しながらもコミュニケーションを重要視していると読み取れます。

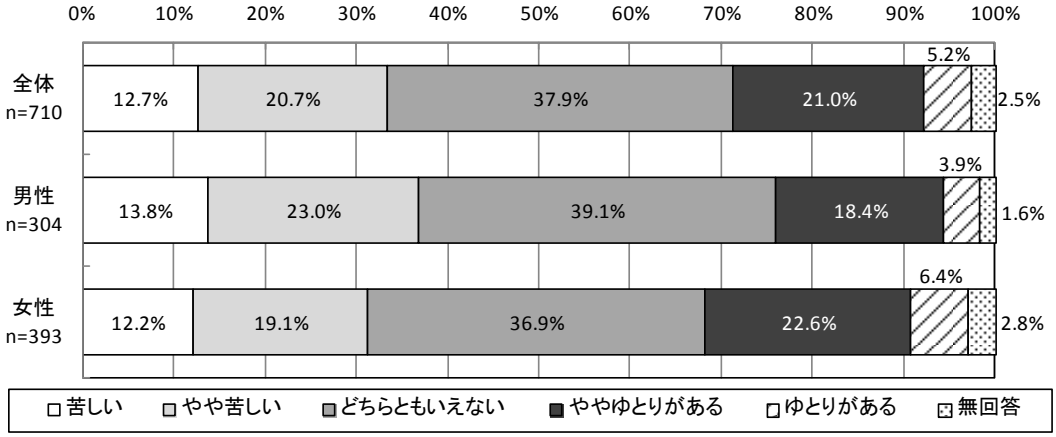
職業別にみても、前回調査とほぼ同様の結果となっていますが、学生、その他を除いて、「労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す」は、前回調査よりも低くなっています。

問 15　あなたの現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。
<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

現在の暮らしの状況は、「どちらともいえない」が37.9％で最も高くなっています。一方、「苦しい」と「やや苦しい」を合わせると33.4％、「ややゆとりがある」、「ゆとりがある」を合わせると26.2％で、経済的には苦しいと感じている方の割合が高くなっています。

男女別でみても、ほぼ同様の結果となっています。

図 15　現在の暮らしの状況

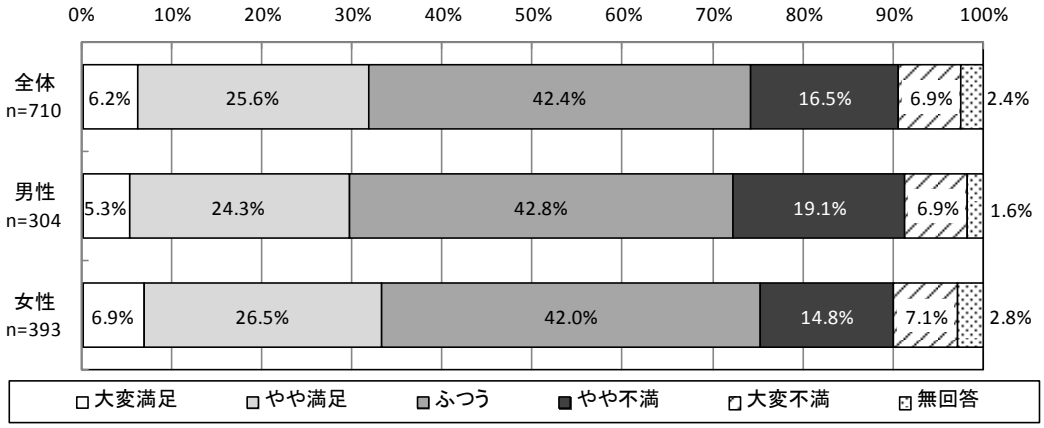


問 16　あなたの現在の生活全般（家庭生活・仕事など）の満足感についてお聞かせください。<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

現在の生活の満足感については、「ふつう」が42.4％で最も高くなっています。一方、「大変満足」と「やや満足」を合わせると31.8％、「やや不満」と「大変不満」を合わせると23.4％で、生活は満足しているという回答が多くなっています。

男女別でみても、ほぼ同様の結果となっています。

図 16　生活全般の満足感



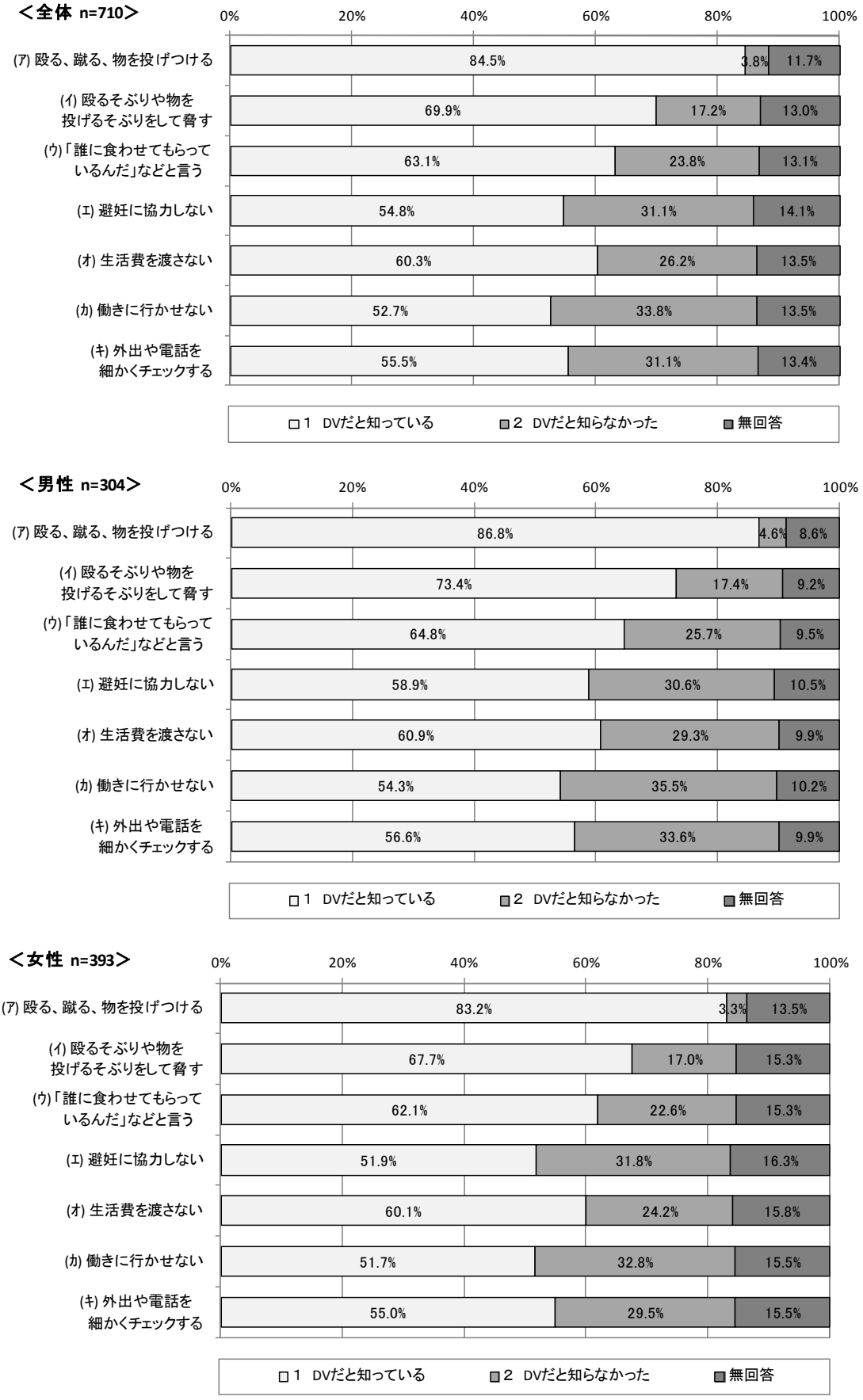
（４）男女の人権について

問 17　あなたは次にあげる行為が、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力）にあたると知っていますか。次の（ア）～（キ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

ドメスティック・バイオレンスについて、「DVだと知っている」の割合が高い項目は、「殴る、蹴る、物を投げつける」で8割を越え、「殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す」、「『誰に食わせてもらっているんだ』などと言う」、「生活費を渡さない」などでも6割を越えています。一方、「DVだと知らなかった」の割合が高い項目は、「働きに行かせない」、「避妊に協力しない」、「外出や電話を細かくチェックする」などで、3割程度となっています。

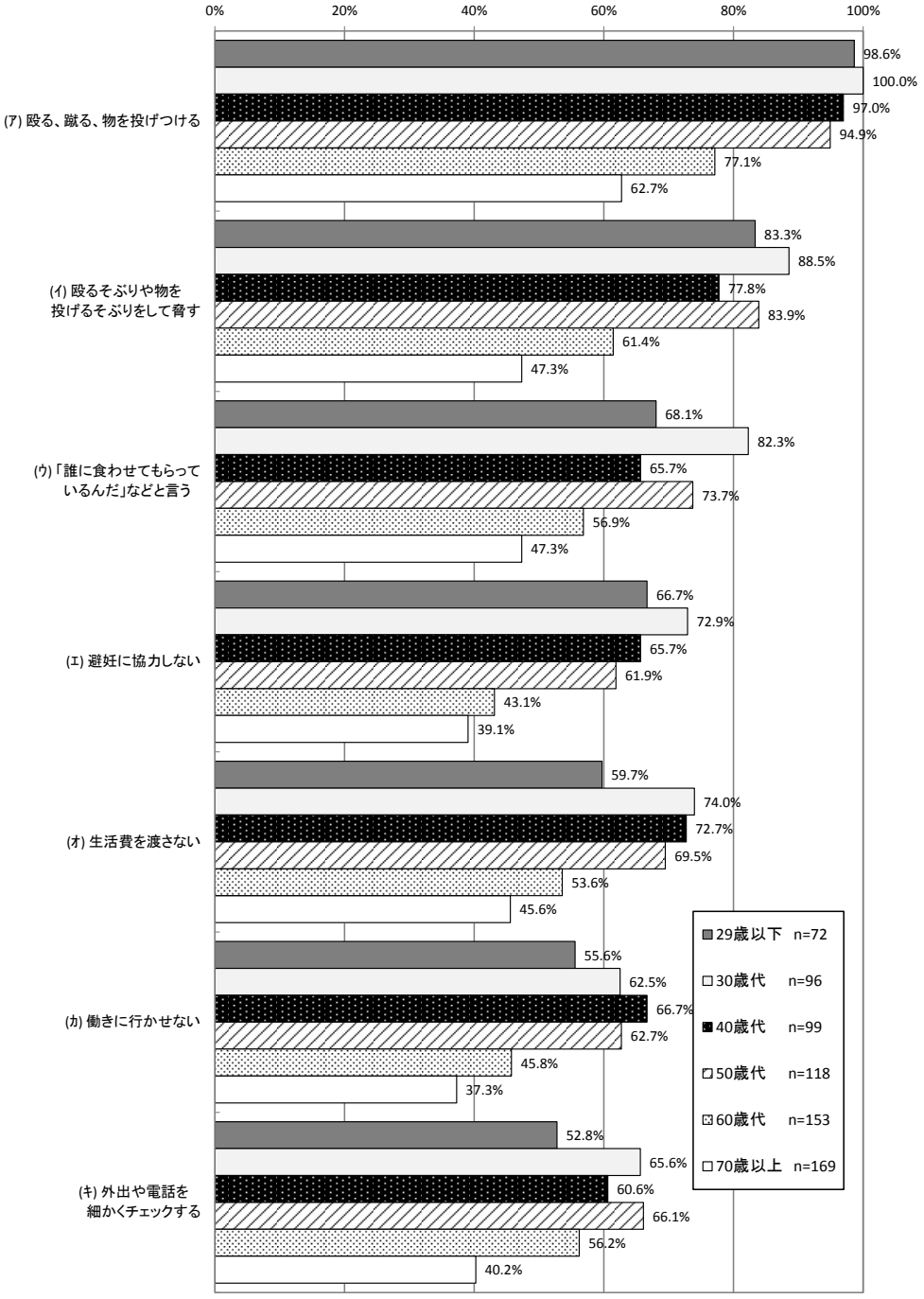
男女別にみると、男女ともにすべての項目において「知っている」が過半数を超え高くなっています。さらに「知っている」は、すべての項目で男性が女性を上回っています。男性の方が女性よりもDVについての知識を持っていると読み取れます。

図 17 ドメスティック・バイオレンスの認識



年齢別にみると、「殴る、蹴る、物を投げつける」、「生活費を渡さない」は、年齢が高くなるにつれ、DVだという認識が下がる傾向にあります。ほとんどの項目で30歳代の認識が最も高くなっておりますが、「働きに行かせない」では40歳代、「外出や電話を細かくチェックする」では50歳代の認識が最も高くなっています。

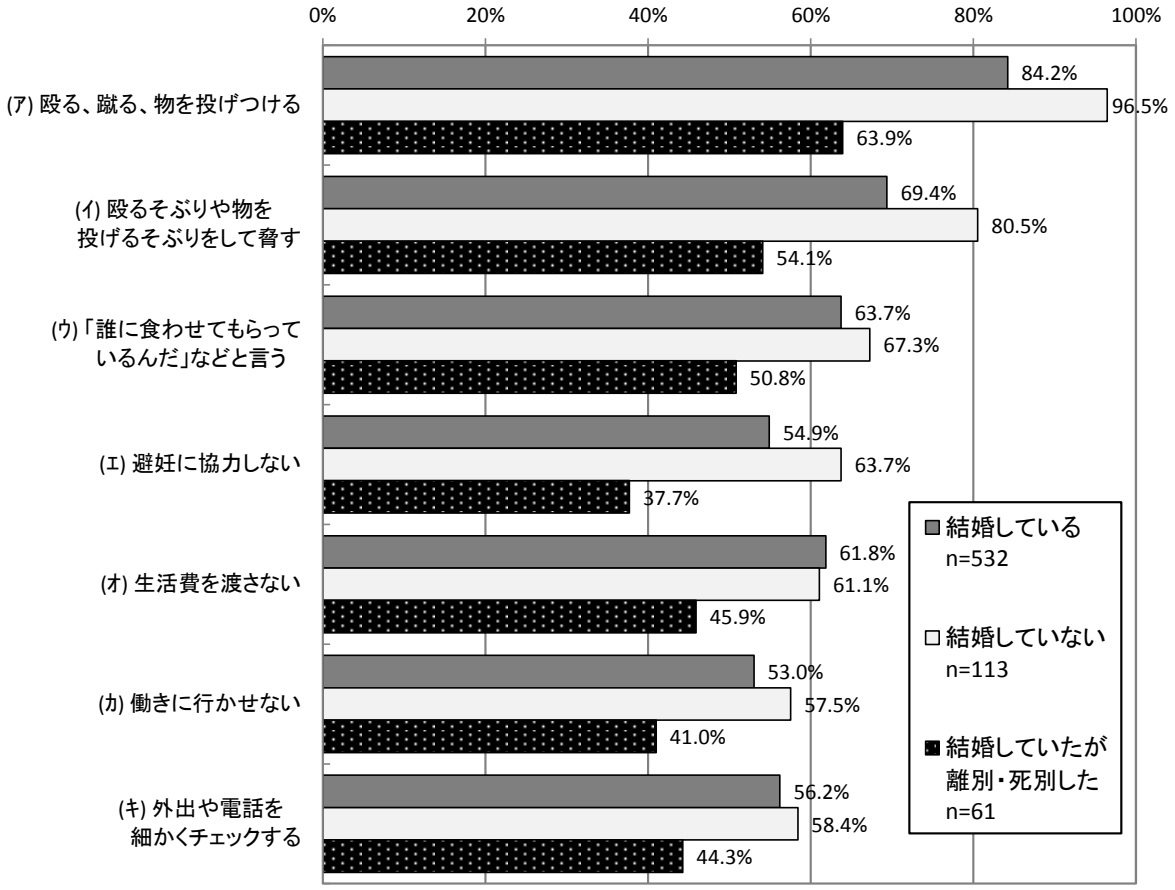
図 17（1） ドメスティック・バイオレンスの認識（年齢別）



※各項目の各年代における、「DVだと知っている」との回答割合のみを示しています。

結婚の有無別にみると、「生活費を渡さない」以外のすべての項目において、結婚していない回答者で「DVだと知っている」の割合が高くなっています。特に、「殴る、蹴る、物を投げつける」は、結婚していない回答者が96.5%で、結婚している回答者の84.2%と比べて12.3ポイント高くなっています。

図 17(2) ドメスティック・バイオレンスの認識(結婚の有無別)

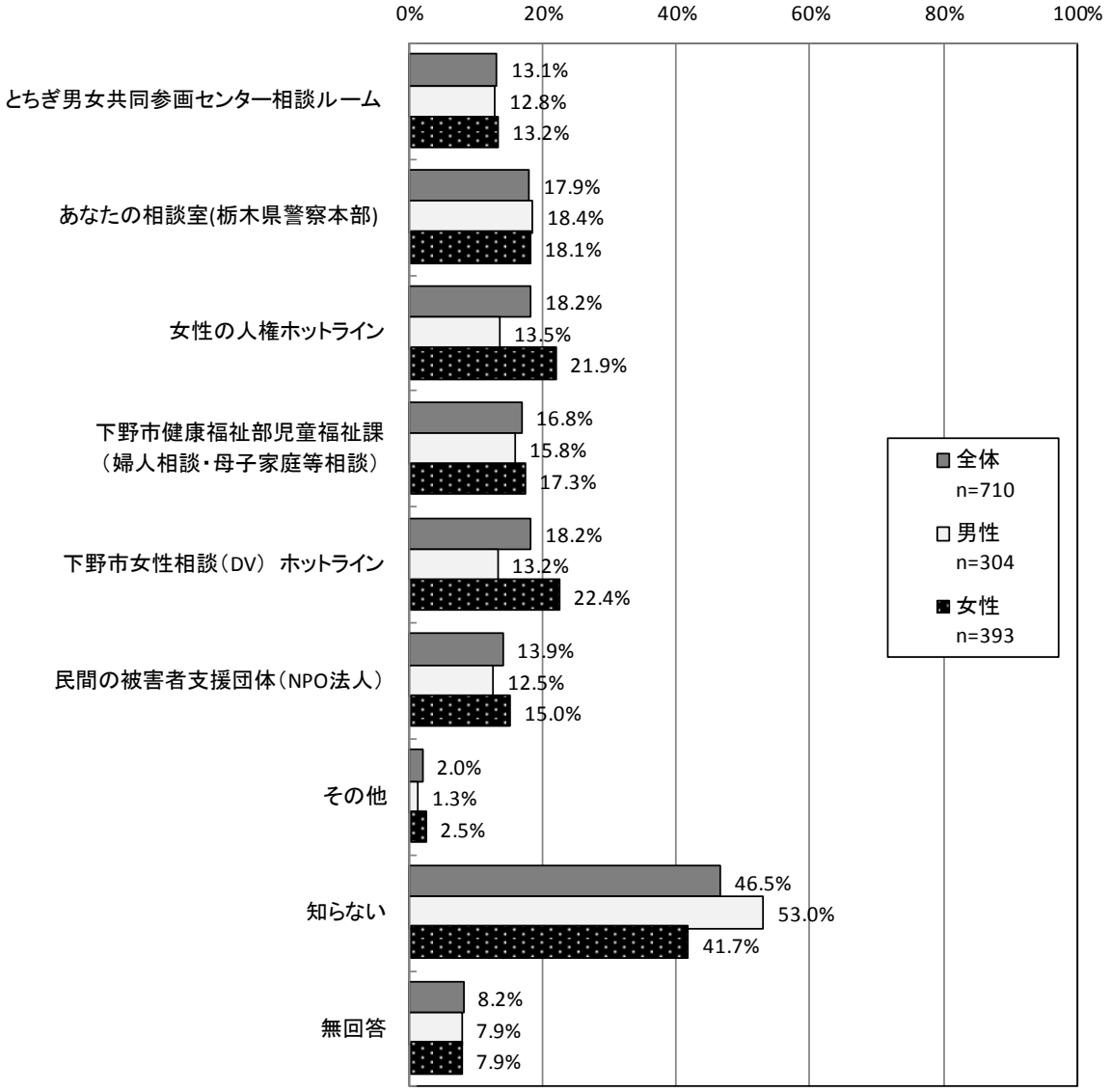


問 18　あなたは、ドメスティック・バイオレンスについて、無料で相談できる窓口があることを知っていますか。
あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

相談できる窓口の認知度は、全体では「知らない」が46.5%で、半数弱の回答となっています。知っている方では、「女性の人権ホットライン」、「下野市女性相談（DV）ホットライン」がともに18.2%、「あなたの相談室（栃木県警察本部）」が17.9%、「下野市健康福祉部児童福祉課（婦人相談・母子家庭等相談）」が16.8%となっています。

男女別でみても、ほぼ同様となっています。

図 18 ドメスティック・バイオレンスの無料相談窓口の認知度

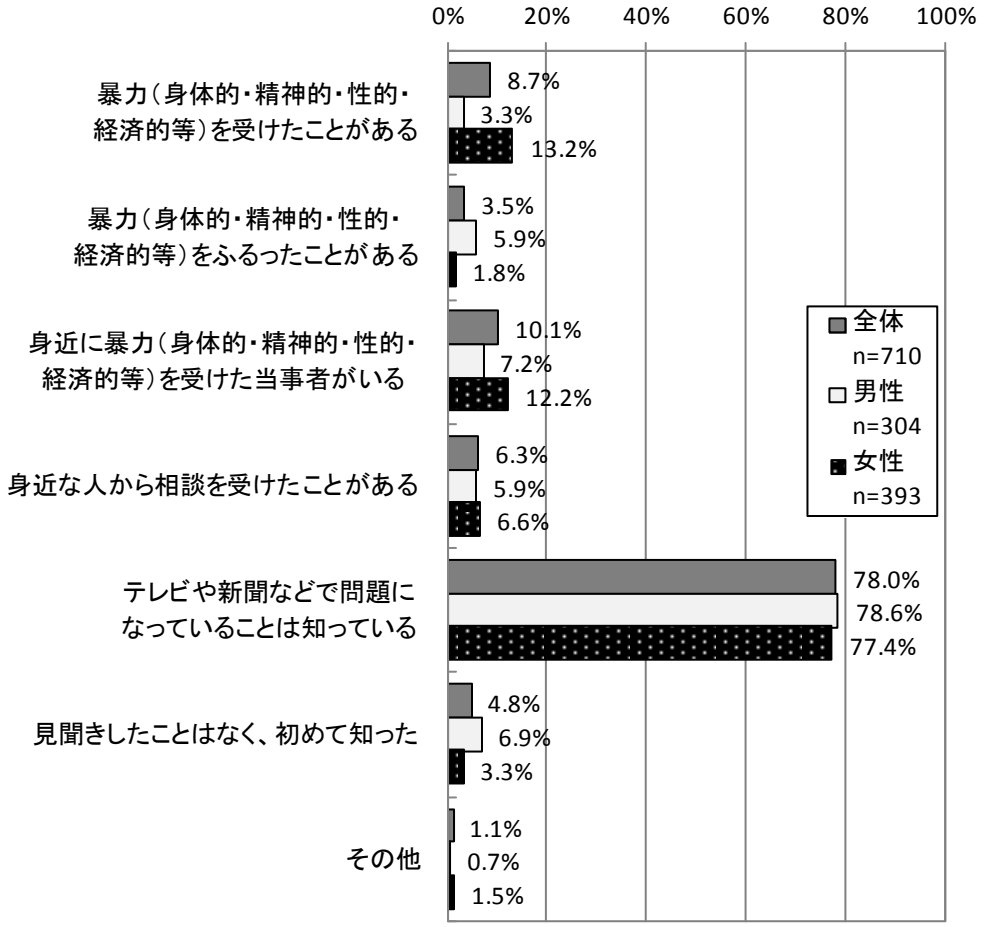


問 19　あなたは、問 17 であげたようなドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。
あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

ドメスティック・バイオレンスの経験や見聞きについて、全体では、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が78.0%と最も高くなっています。一方、「暴力を受けたことがある」、「暴力をふるったことがある」、「身近に暴力を受けた当事者がいる」、「身近な人から相談を受けたことがある」は1割程度や1割未満ではありますが、ドメスティック・バイオレンスがあると回答しています。

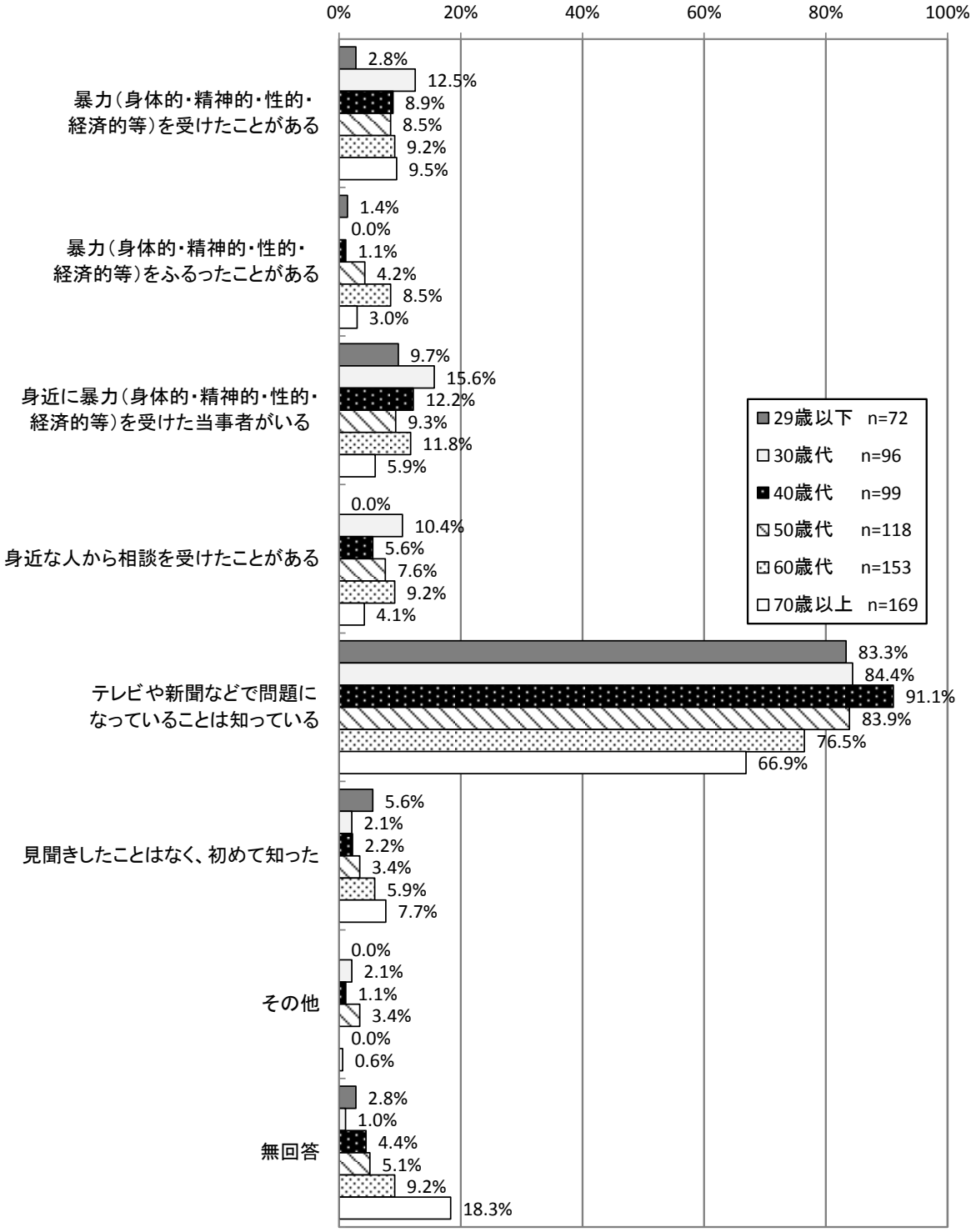
男女別にみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」がそれぞれ78.6%、77.4%と最も高くなっています。「暴力を受けたことがある」は女性の割合が高く、「暴力をふるったことがある」は男性の割合が高くなっており、また、「身近に暴力を受けた当事者がいる」、「身近な人から相談を受けたことがある」は、いずれも女性の割合が高くなっています。男性が暴力をふるい、女性が暴力を受けるというケースが多いと読み取れます。

図 19 ドメスティック・バイオレンスの経験等



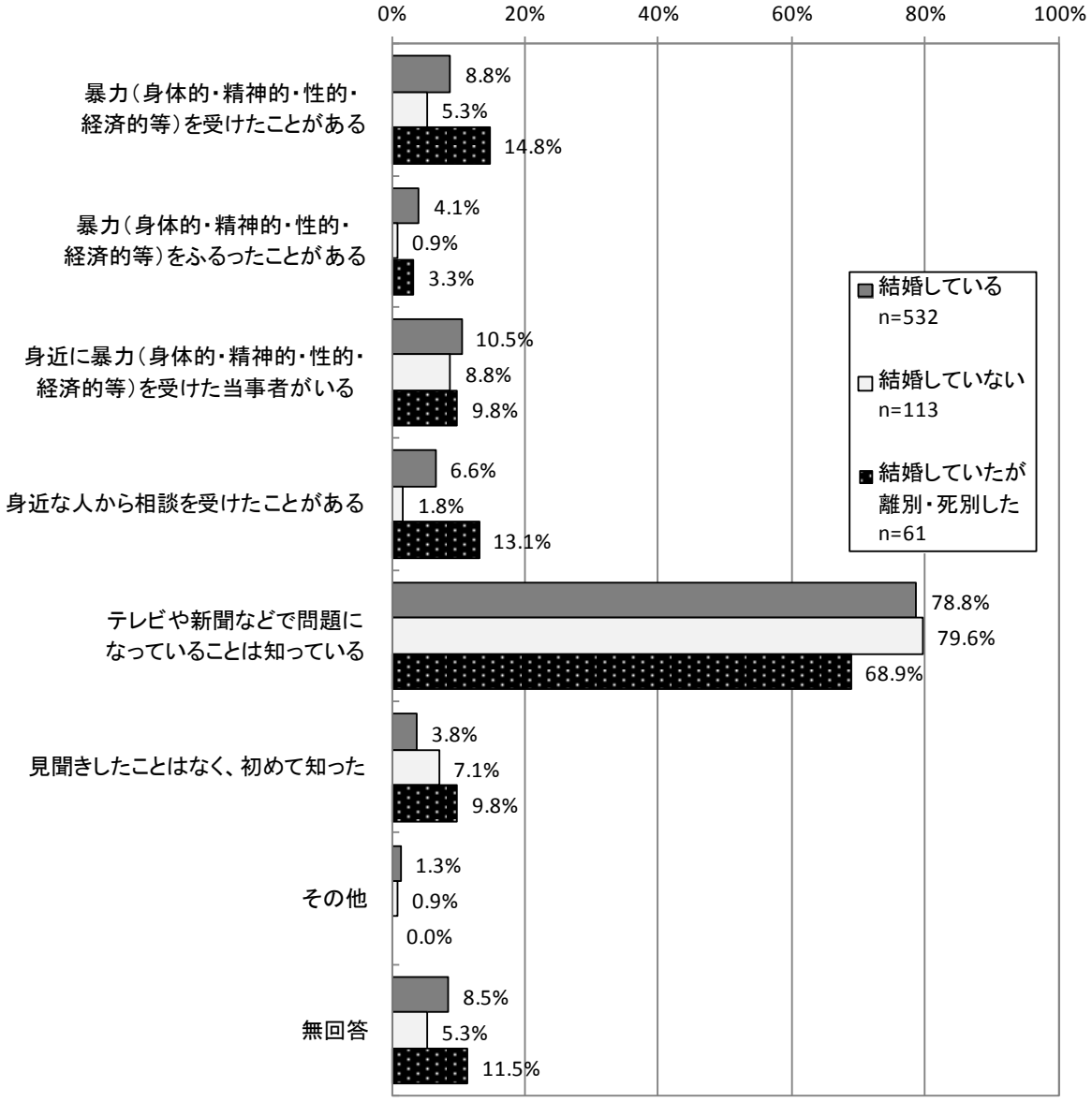
年齢別にみると、「暴力を受けたことがある」について、30歳代は12.5％であり、40歳代以降では9％程度となっているのと比較すると、他の年代層より高い割合となっています。「身近に暴力を受けた当事者がいる」について、30歳代が15.6%と最も高く、40歳代では12.2％となっています。

図 19(1)　ドメスティック・バイオレンスの経験等（年齢別）



結婚の有無別にみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が、いずれも7～8割程度と最も高くなっています。また、結婚している回答者は、結婚していない回答者と比べて、本人や身近な人にドメスティック・バイオレンスの経験があると回答している割合が高く、「身近な人から相談を受けたことがある」は4.8ポイント、「暴力を受けたことがある」は3.5ポイント、「暴力をふるったことがある」は3.2ポイント高くなっています。

図 19(2) ドメスティック・バイオレンスの経験等（結婚の有無別）

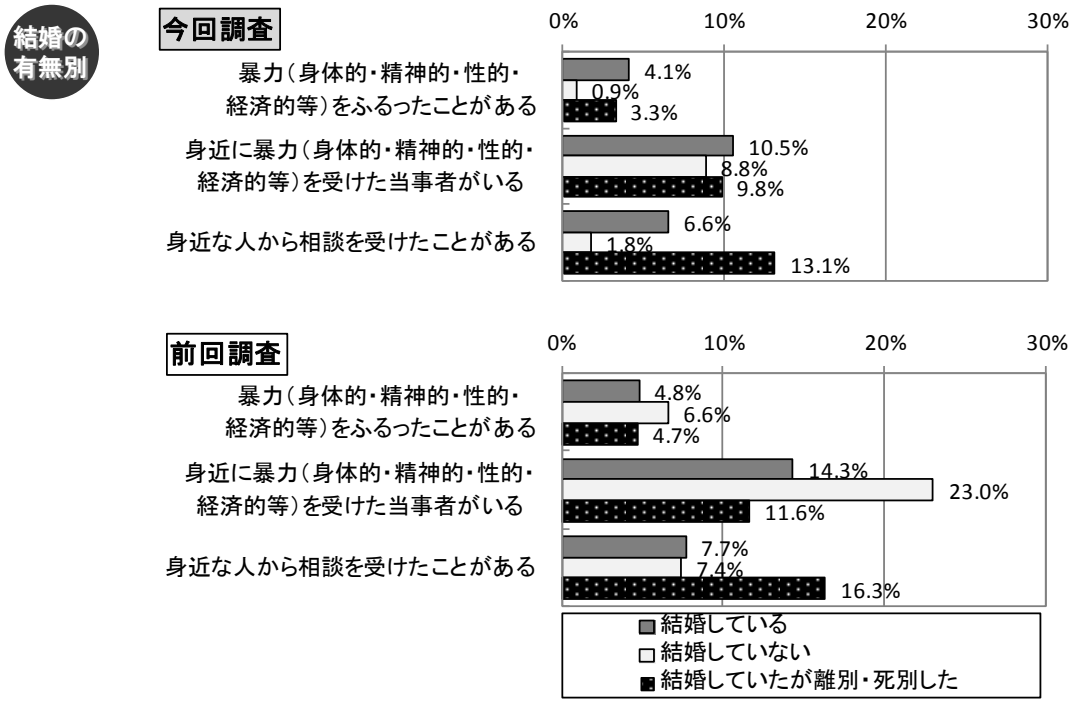


前回調査と

ドメスティック・バイオレンスの経験や見聞きについては、前回調査とほぼ同様の結果となっていますが、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高くなっているものの、前回調査と比べると、全体、男女別ともに若干低くなっています。一方、「暴力を受けたことがある」は女性では微増、「暴力をふるったことがある」、「身近に暴力を受けた当事者がいる」、「身近な人から相談を受けたことがある」は、男女とも前回調査よりも低くなっています。

年齢別にみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は、前回調査と同様、40歳代が最も高く、他の年代層でも7割から8割程度と、幅広い年代層で高い認知度となっています。一方、「暴力を受けたことがある」、「暴力をふるったことがある」、「身近に暴力を受けた当事者がいる」は、若い年代層において前回調査より低くなっています。特に、「身近に暴力を受けた当事者がいる」では、29歳以下で、前回調査25.6％が今回調査9.7％と大幅に低くなっています。「見聞きしたことはなく、初めて知った」は、すべての年代層において、前回調査より低くなっています。

結婚の有無別にみると、前回調査とほぼ同様となっていますが、「暴力をふるったことがある」、「身近に暴力を受けた当事者がいる」、「身近な人から相談を受けたことがある」は、いずれも前回調査より低くなっています。特に、結婚していない回答者において、大幅に低くなっています。

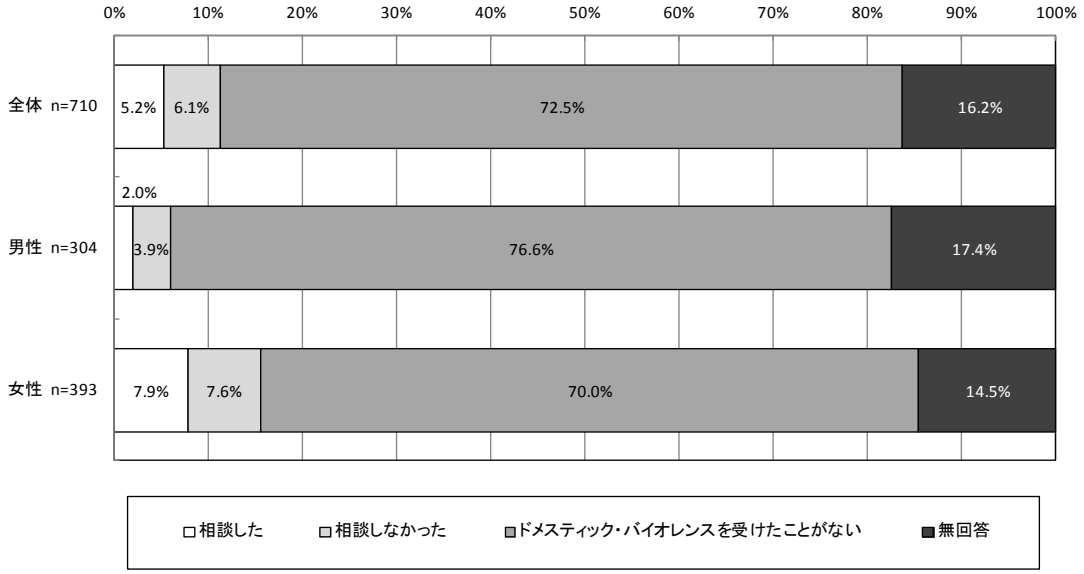


問 20　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

ドメスティック・バイオレンスについて、全体では「受けたことがない」が72.5％で最も高くなっています。また、「相談した」が5.2％、「相談しなかった」が6.1％となっています。

男女別にみても、ほぼ同様の結果ですが、男性は「相談した」が2.0％と、女性の7.9％と比べて4分の1程度と低くなっています。

図 20 ドメスティック・バイオレンスの相談



問 21　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したりしなかった理由は何ですか。
下の記述欄にご自由にお書きください。

※その他回答集

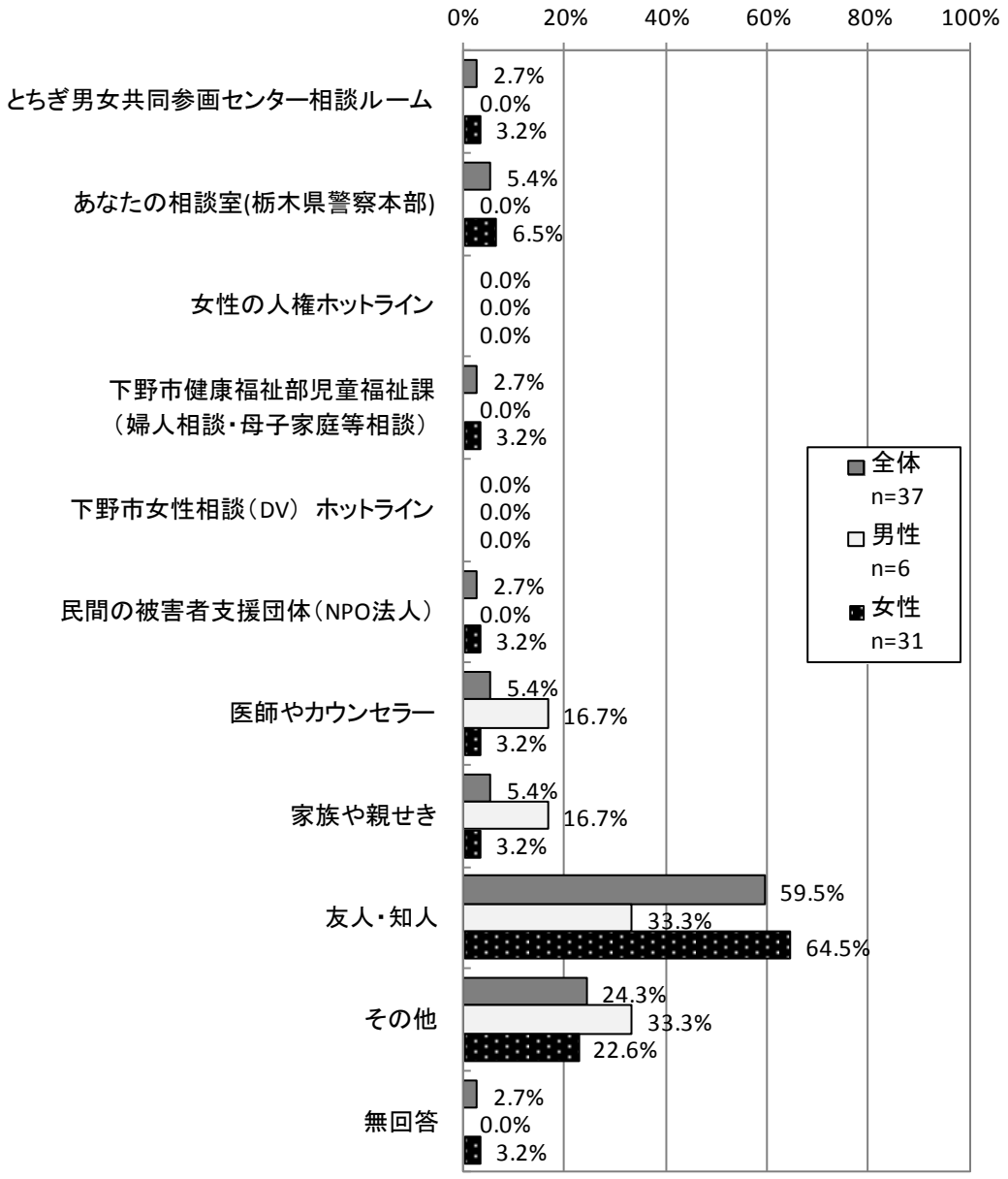
※問21をお答えの後は、問25へ

問 22　あなたはドメスティック・バイオレンスについて、どこ（だれ）に相談しましたか。
あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

ドメスティック・バイオレンスの相談先については、「友人・知人」が59.5%と最も高くなっています。

男女別にみると、男女ともに「友人・知人」が最も高くなっているものの、女性の64.5%に対し、男性は33.3%と半分程度になっています。一方、男性は「医師やカウンセラー」、「家族や親せき」に相談するとの回答が、いずれも16.7%であり、女性のいずれも3.2%を大きく上回っています。

図 22 ドメスティック・バイオレンスの相談先

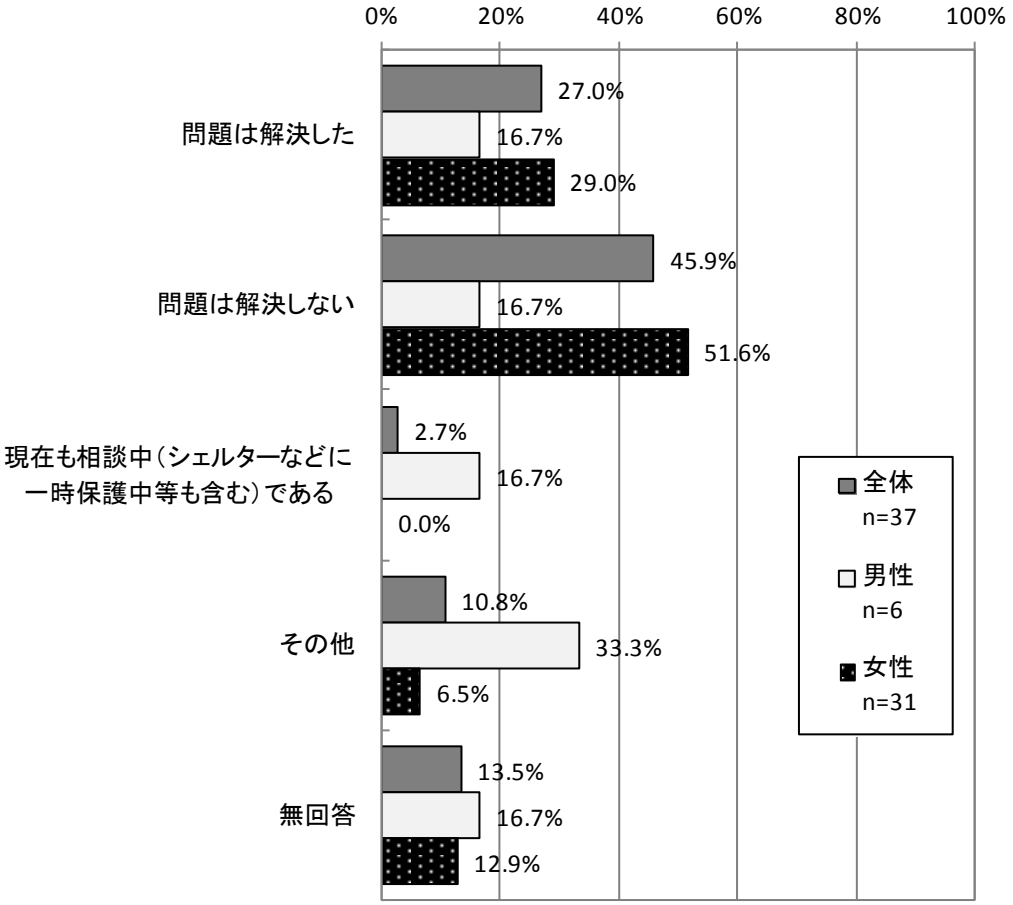


問 23　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したことにより、その問題は解決しましたか。
<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

ドメスティック・バイオレンスの問題解決について、全体では、「問題は解決しない」が45.9%で最も高くなっています。一方、「問題は解決した」との回答は27.0%となっています。

男女別でみると、男性は、その他を除くと、「問題は解決した」、「問題は解決しない」、「現在も相談中」が同程度となっており、女性は、全体と同様の結果となっています。

図 23 ドメスティック・バイオレンス問題の解決



問 24　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスの問題について、解決に至らなかった理由は何ですか。下の記述欄にご自由にお書きください。

※その他回答集

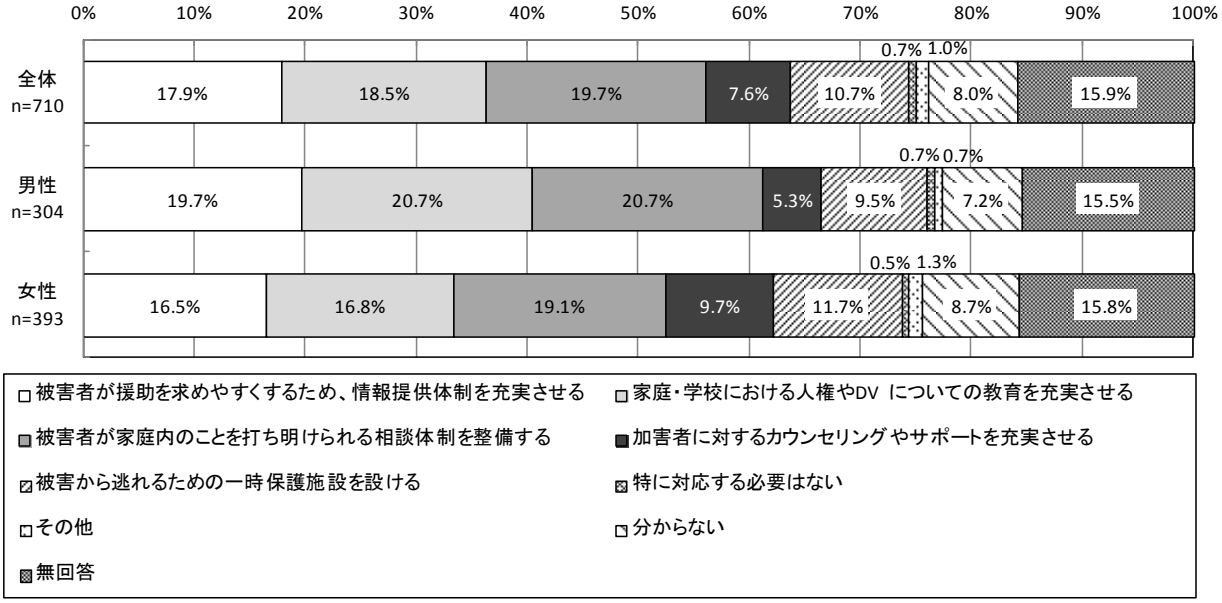
問 25　ドメスティック・バイオレンスを防ぐために、どのような取り組みがもっとも重要だと思いますか。<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

ドメスティック・バイオレンスを防ぐ重要な取り組みは、「被害者が家庭内のこと打ち明けられる相談体制を整備する」が19.7％で最も高く、続いて「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」が18.5％、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が17.9％となっています。

男女別にみると、男性は「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」と「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が、それぞれ20.7%と最も高く、続いて「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が19.7%となっています。

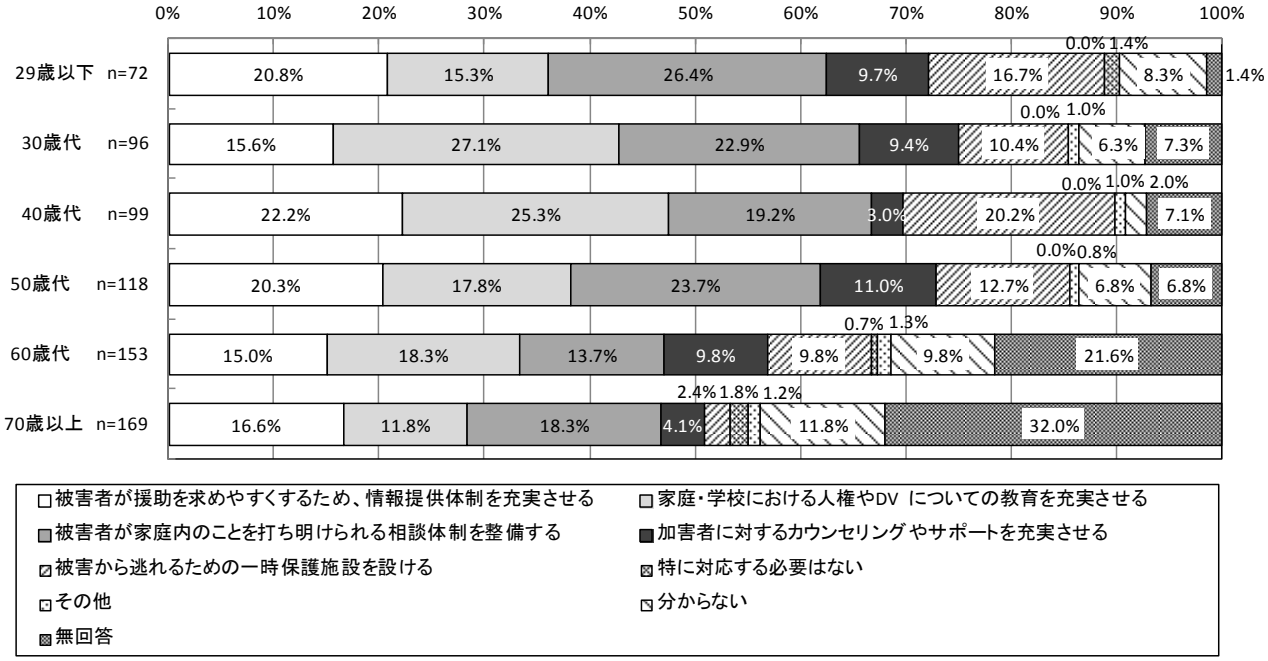
女性は「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が19.1%と最も高く、続いて「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」が16.8%、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が16.5%となっています。

図 25 ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み



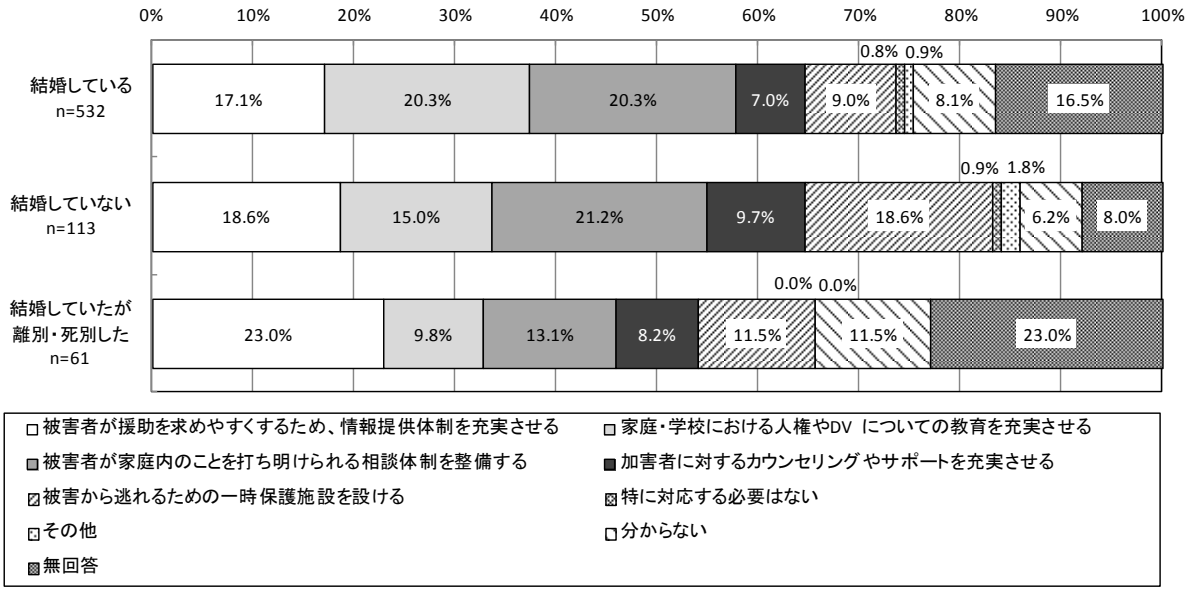
年齢別にみると、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」は、29歳以下、40歳代、50歳代で20%以上と高く、「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」は、30歳代、40歳代で25%以上と高くなっています。

図 25(1)　ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み（年齢別）



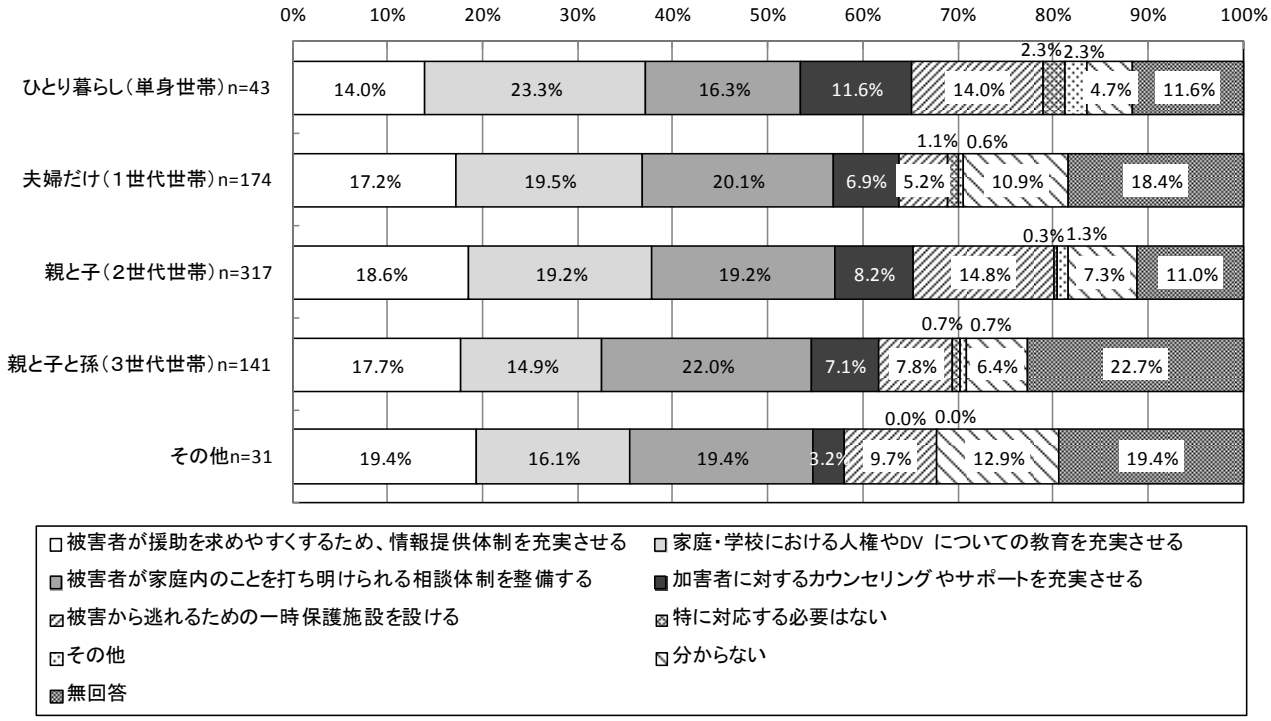
結婚の有無別でみると、結婚していない回答者は「被害から逃れるための一時保護施設を設ける」が18.6%で、結婚している回答者の9.0%の2倍以上となっています。

図 25(2)　ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み（結婚の有無別）



家族構成別にみると、「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」は、単身世帯において23.3%と最も高く、世代が増えるにつれ、割合は低くなっています。「被害から逃れるための一時保護施設を設ける」は、単身世帯、2世代世帯で10%を超えています。「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」は、3世代世帯で22.0%と高くなっています。

図 25(3)　ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み（家族構成別）

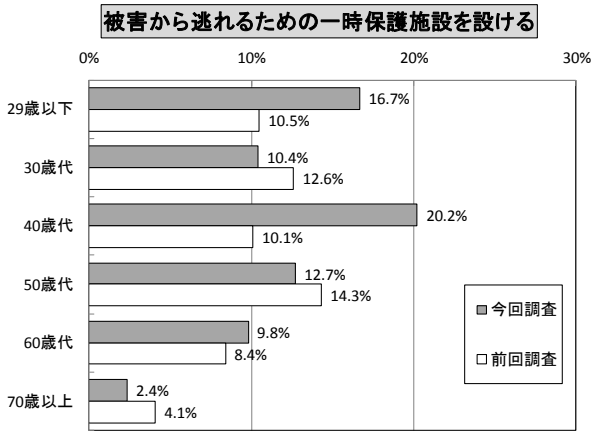


前回調査と

ドメスティック・バイオレンスを防ぐ重要な取り組みについては、全体、男女別とも前回調査とほぼ同様の結果となっています。

年齢別

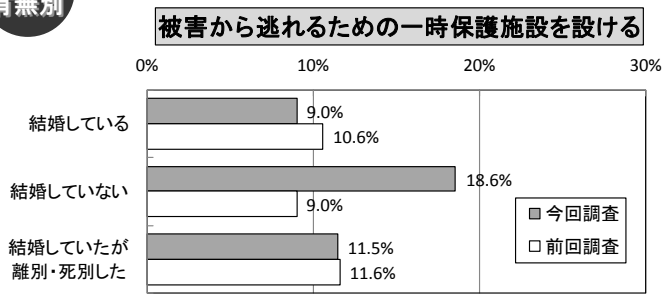
年齢別にみると、「被害から逃れるための一時保護施設を設ける」は、40歳代で前回調査10.1%だったものが、今回調査では20.2%と倍増しています。



結婚の有無別

結婚の有無別でみると、結婚している回答者は、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

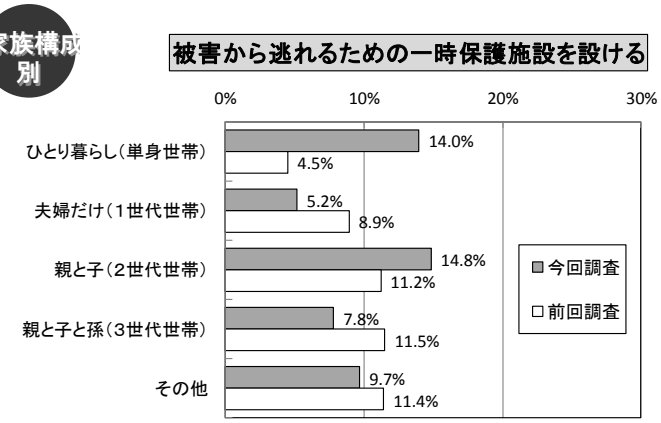
一方、結婚していない回答者では、「被害から逃れるための一時保護施設を設ける」が、前回調査より倍増しています。



結婚していたが離別・死別した回答者は、無回答の割合が前回調査より高くなっているなかで、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が、前回調査より大幅に高くなっています。

家族構成別

家族構成別にみると、無回答が高くなっている以外は、前回調査とほぼ同様の結果となっているなかで、単身世帯で「被害から逃れるための一時保護施設を設ける」が、前回調査4.5%から今回調査14.0%と大幅に高くなっています。



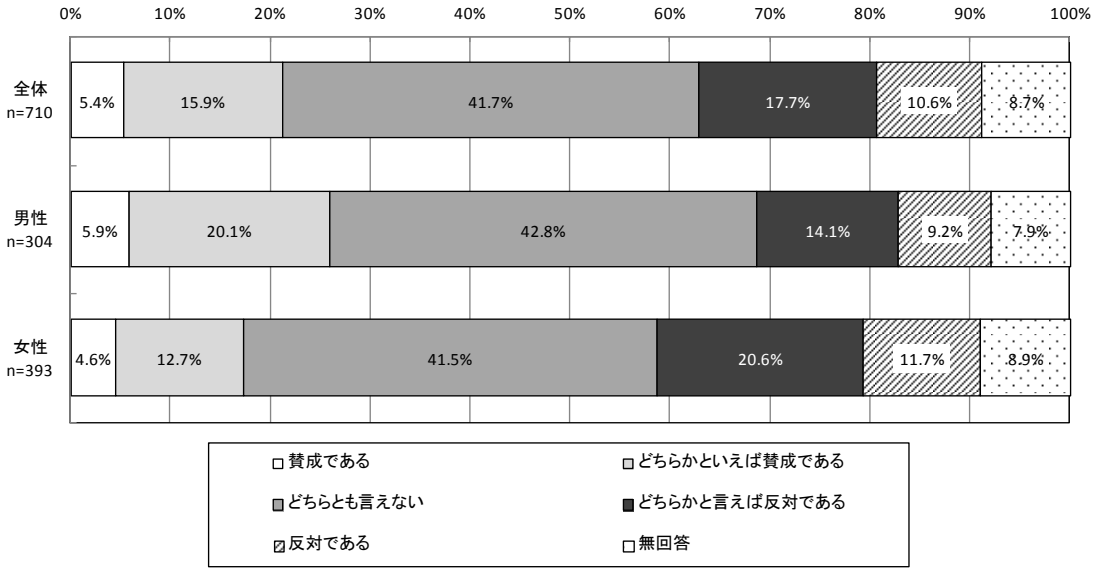
（５）男女共同参画に対する意識について

問 26　あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えになりますか。<u>１つ選び、○を付けてください。</u>

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、全体では、「どちらともいえない」が41.7％で最も高くなっています。また、「賛成（「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合わせた回答）」は21.3％、「反対（「どちらかといえば反対である」と「反対である」を合わせた回答）」は28.3％で、「反対」の割合が高くなっています。

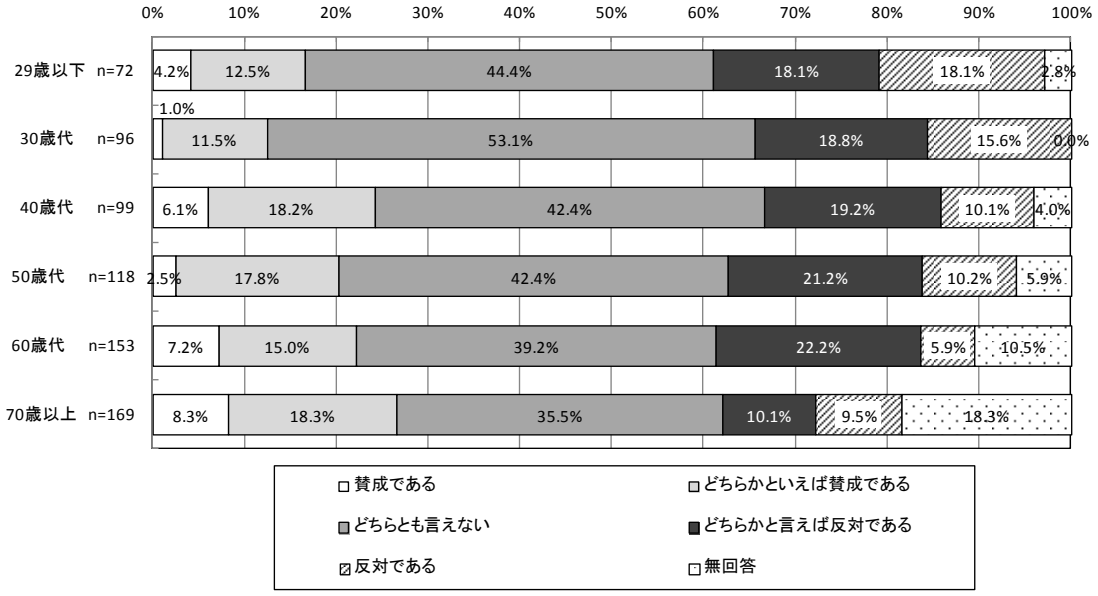
男女別にみると、男性は「賛成」が26.0%、「反対」が23.3%で、「賛成」が2.7ポイント上回っています。女性は「賛成」が17.3%、「反対」が32.3%で、「反対」が15.0ポイント上回っています。男性と女性では考え方に相違があり、女性の方が男女共同参画に対する意識が高いといえます。

図 26 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方



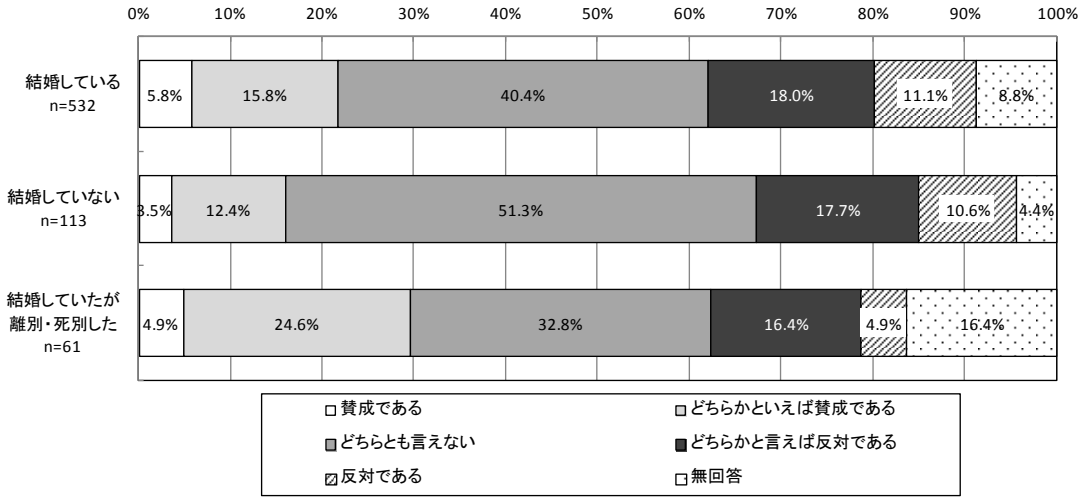
年齢別にみると、「賛成」は、年齢が高くなるにつれ高くなる傾向にあり、70歳以上で26.6%と最も高くなっています。一方、「反対」は、年齢が低いほど割合が高い傾向にあり、29歳以下は36.2%と高いのに対し、70歳以上は19.6%と低くなっています。

問 26(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(年齢別)



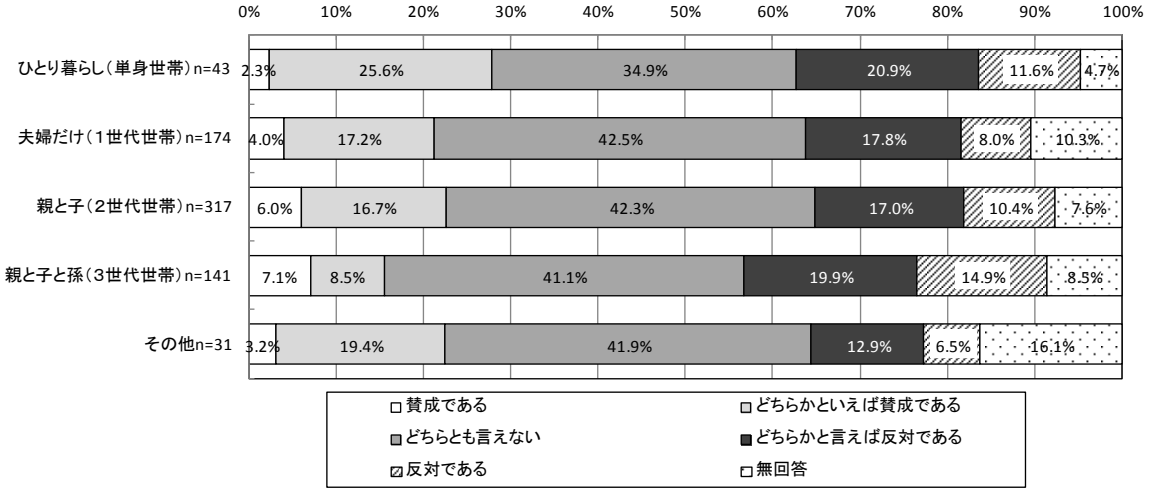
結婚の有無別にみると、結婚している回答者では「賛成」が21.6%と、結婚していない回答者より5.7ポイント高くなっているものの、「反対」が29.1%と、結婚していない回答者より0.8ポイント高くなっています。

問 26(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(結婚の有無別)



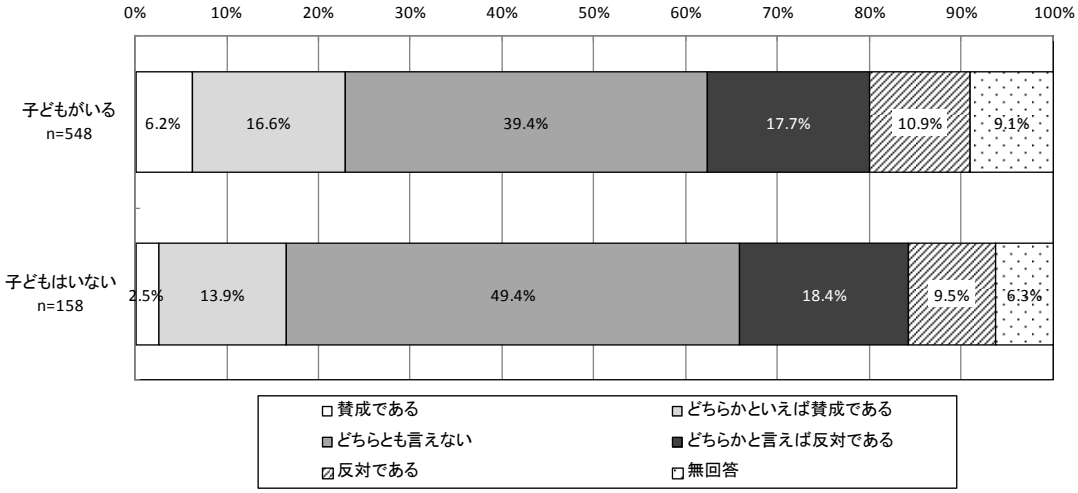
家族構成別にみると、3世代世帯で「反対」が34.8%と最も高くなっています。また、単身世帯では「賛成」が27.9%と最も高くなっているものの、「反対」も32.5%と高くなっています。その他を除くと、どの世代の世帯でも「反対」が「賛成」を上回っています。

問 26(3) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(家族構成別)



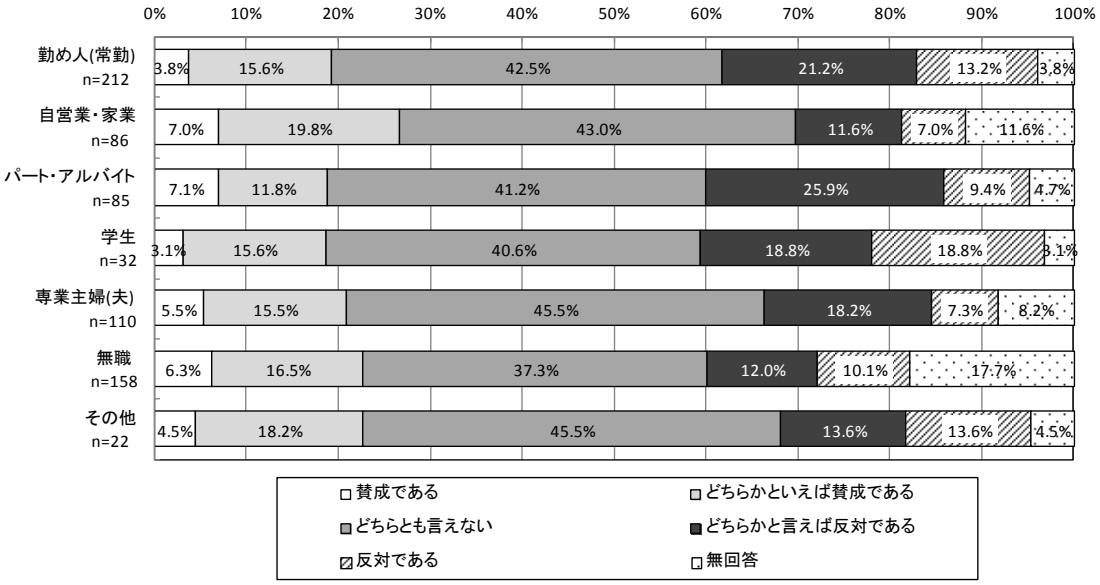
子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者は「賛成」が22.8%、「反対」が28.6%となっています。子どもがいない回答者は、「賛成」が16.4%、「反対」が27.9%となっています。子どもがいる回答者も子どもがいない回答者も「反対」の意見が高くなっています。

問 26(4) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(子どもの有無別)



職業別にみると、勤め人では「賛成」が19.4%、「反対」が34.4%で、「反対」の方が15ポイント高くなっています。「賛成」の割合が高いのは、自営業・家業と無職であり、「反対」の割合が高いのは、勤め人、パート・アルバイト、学生となっています。自営業・家業と無職では「賛成」がそれぞれ26.8%、22.8%となっています。

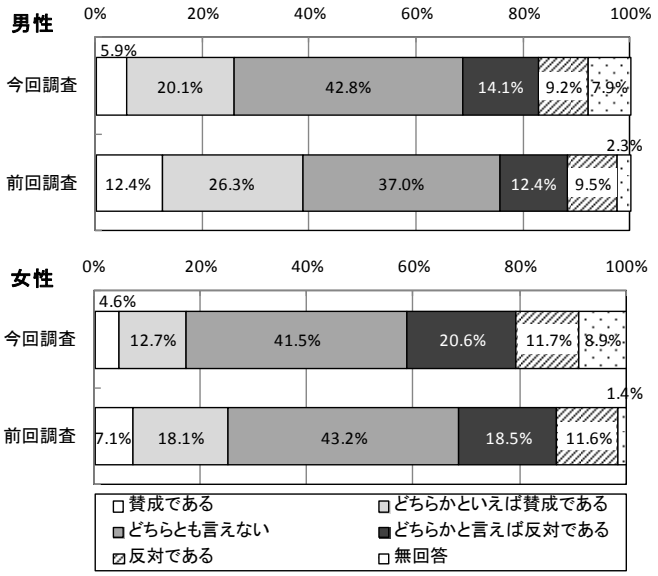
問 26(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する考え(職業別)



前回調査と

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、全体、男女別とも、「賛成（「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合わせた回答）」は低くなっています。特に、男性では、前回調査38.7％が今回調査26.0％と大幅に低くなっており、一方、「反対（「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせた回答）」は、前回調査21.9％が今回調査23.3％と若干高くなっています。男性においても男女共同参画に対する意識が高くなってきたといえます。

男女別



年齢別にみると、「賛成」の割合は、前回調査で、年齢が高くなるにつれ高くなる傾向にあり、70歳以上で39.7％と最も高くなっていましたが、今回調査では、70歳以上が26.6％と最も高いものの、40～60歳代と大差はなくなっています。一方、「反対」の割合は、29歳以下、30歳代で前回調査より低くなっています。

結婚の有無別にみると、前回調査とほぼ同様の結果になっていますが、結婚していない回答者の「反対」の割合は、前回調査42.6％が今回調査28.3％と大幅に低くなっています。

家族構成別にみると、ほとんどの世帯において前回調査より、「賛成」が低く、「反対」が高くなっています。

子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者では、前回調査より「賛成」の割合が低く、「反対」の割合が高くなっています。

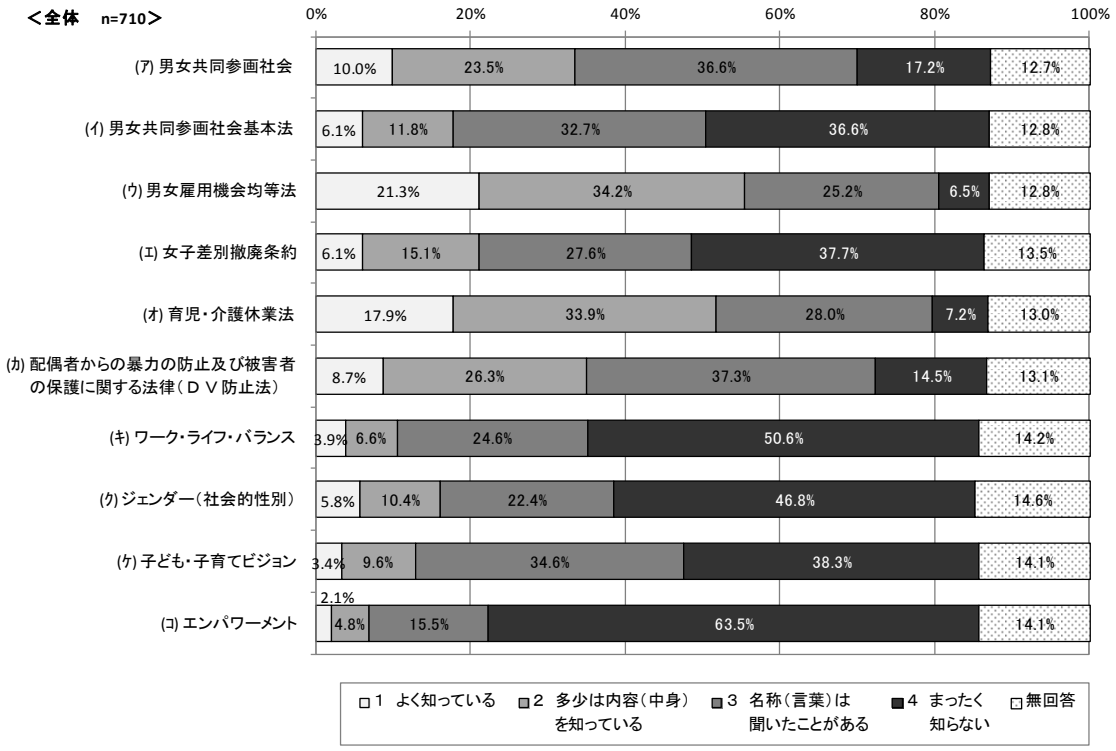
職業別にみると、すべての職業において、「賛成」の割合が前回調査より低くなっています。また、「反対」の割合は、学生、その他を除いたすべての職業において高くなっています。学生では、前回調査で「反対」が57.7％でしたが、今回調査では37.6％と大幅に低くなっており、結婚の有無別の結果と合わせて、若年層で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方が強くなっているといえます。

問 27　あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉や内容を知っていますか。
次の（ア）～（コ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

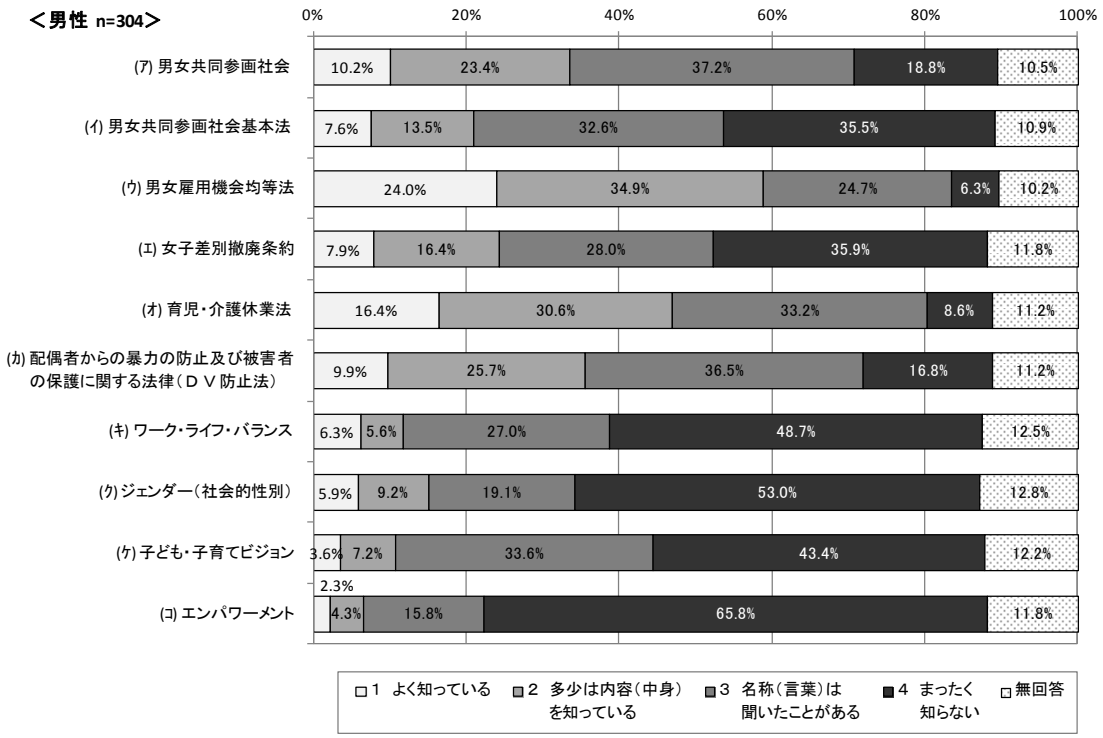
男女共同参画に関する言葉や内容の「認知度（「よく知っている」と「多少は内容（中身）を知っている」を合わせた回答）」は、全体では「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」が高い割合となっています。また、「名称（言葉）は聞いたことがある」の割合が高い項目は、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」、「男女共同参画社会」、「子ども・子育てビジョン」などとなっています。一方、「まったく知らない」の割合が高い項目は、「エンパワーメント」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー（社会的性別）」などとなっています。

男女別にみると、男性は、「男女雇用機会均等法」についての「認知度」が58.9%と最も高く、続いて「育児・介護休業法」が47.0%、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が35.6%となっています。女性は、「育児・介護休業法」についての「認知度」が55.4%と最も高く、続いて「男女雇用機会均等法」が52.9%、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が34.6%となっています。

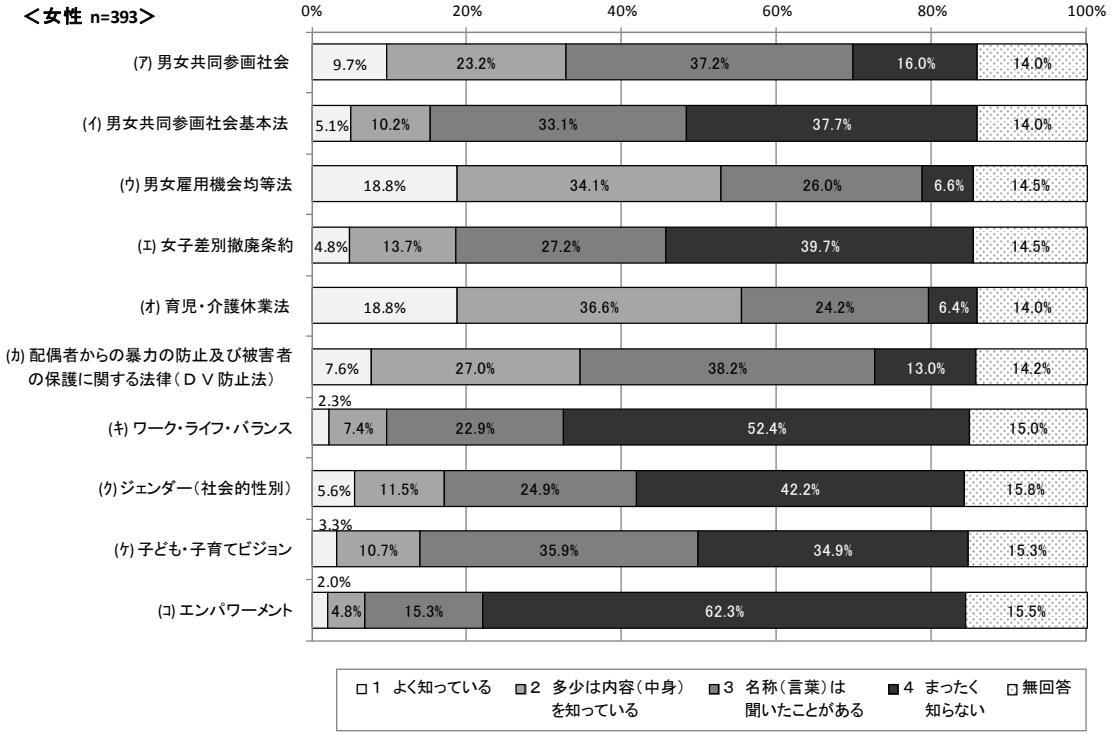
図 27　男女共同参画に関わる言葉等の認知度



＜男性 n=304＞

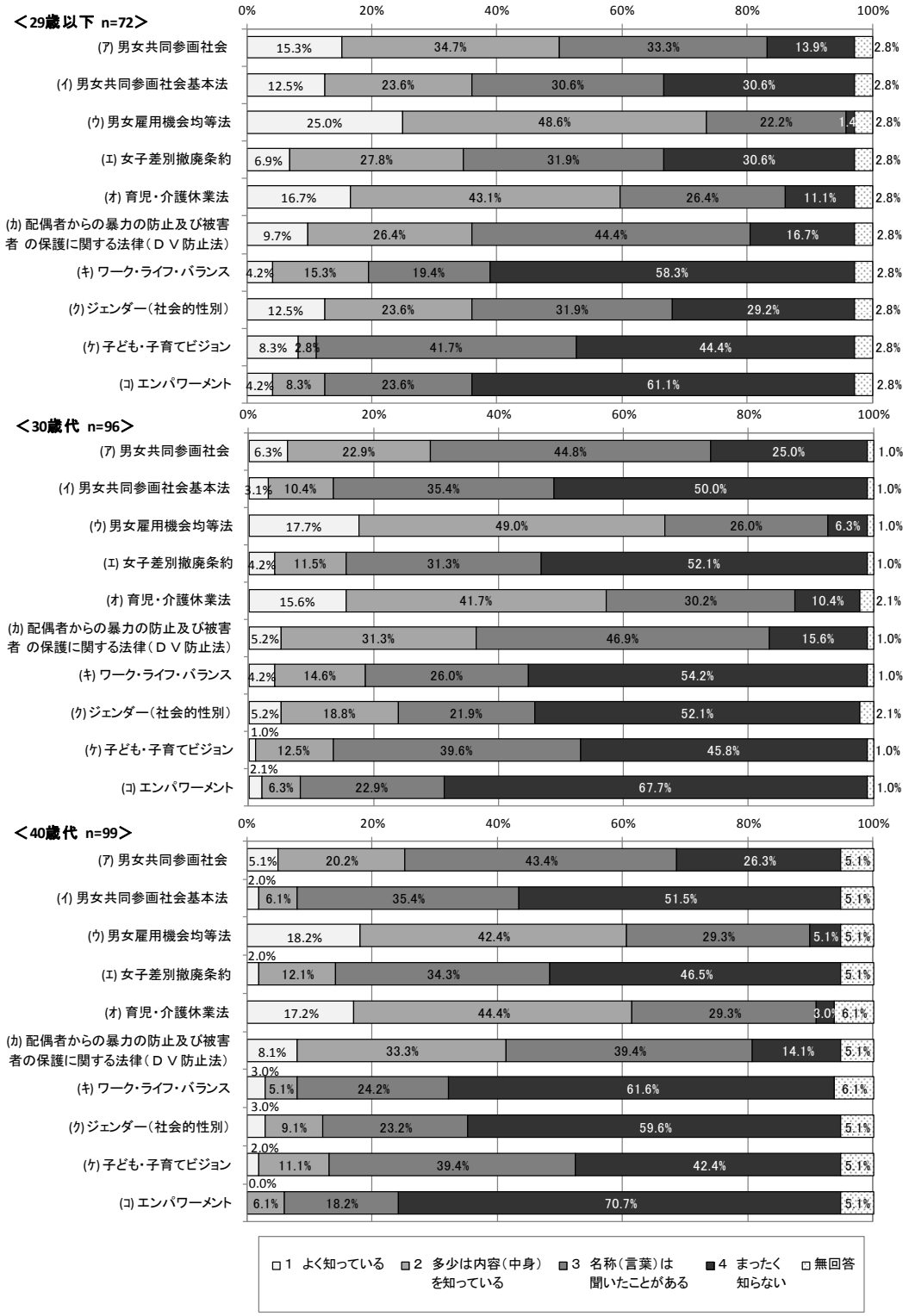


＜女性 n=393＞

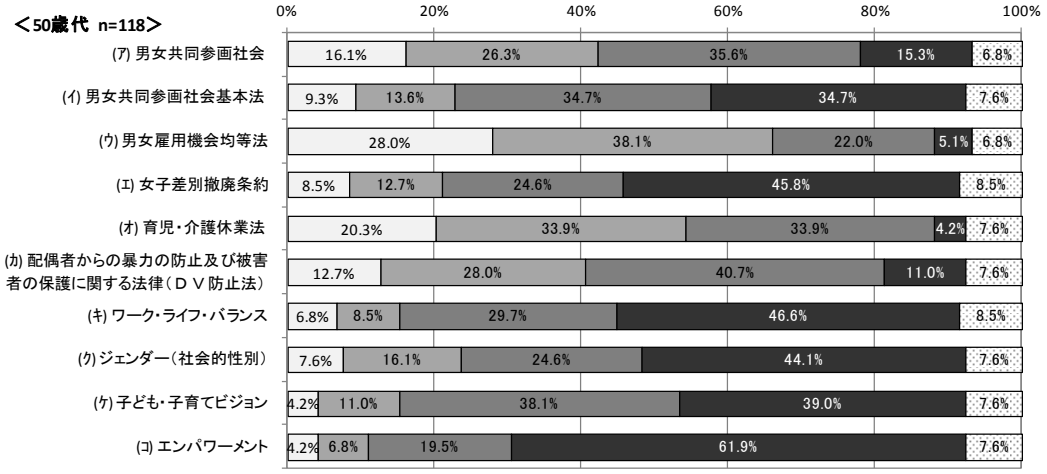


年齢別にみると、「男女共同参画社会」の認知度は、29歳代で50％と最も高く、30歳代、40歳代で20％台と若干低いものの、50歳代で42.4％、60歳代で34％と幅広い年代層で高くなっています。「男女雇用機会均等法」も、どの年代層でも高い認知度となっています。「育児・介護休業法」においても、どの年代層も高い認知度で、特に29歳以下、30歳代、40歳代で高くなっています。「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」は、29歳以下、30歳代で、「名称（言葉）は聞いたことがある」にとどまっている割合が高くなっています。

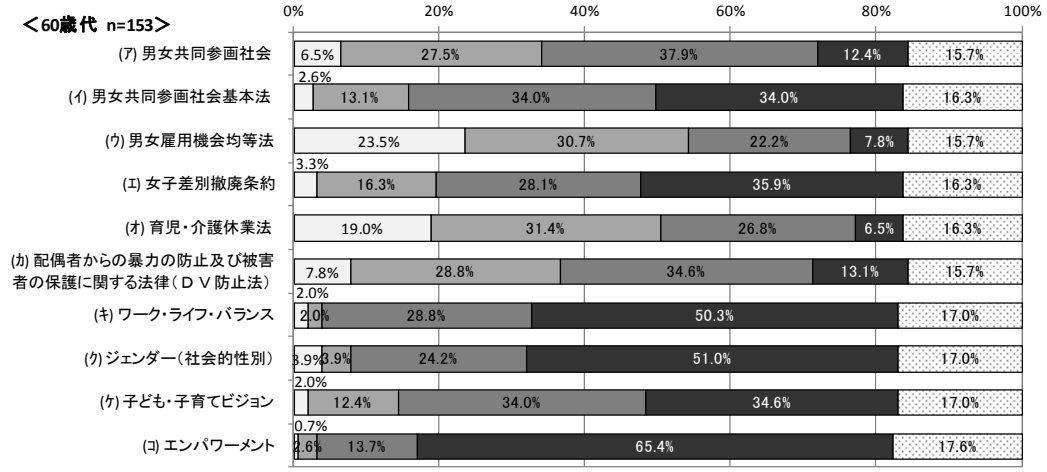
図 27（1）　男女共同参画に関わる言葉等の認知度（年齢別）



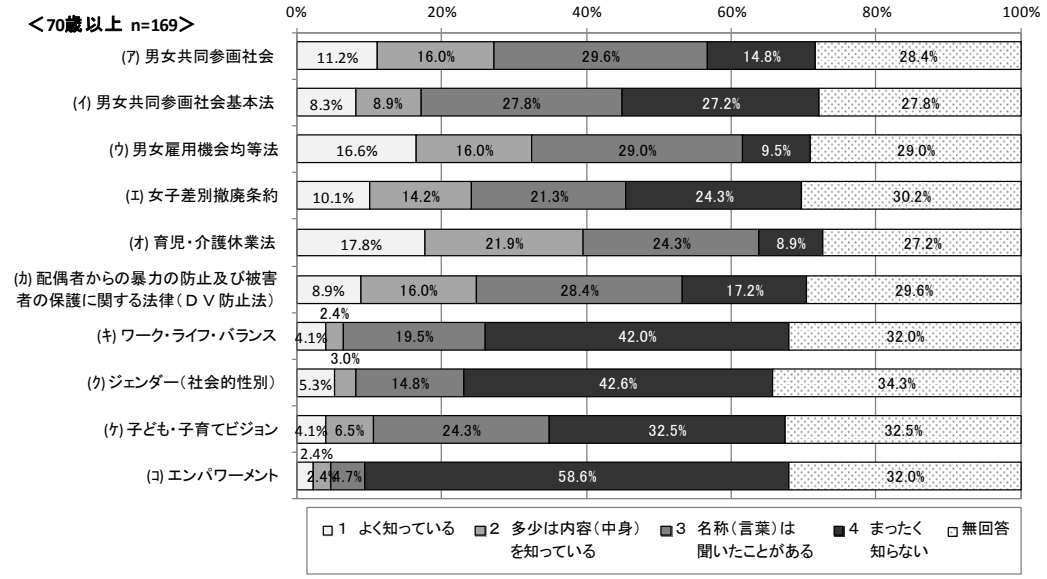
＜50歳代 n=118＞



＜60歳代 n=153＞



＜70歳以上 n=169＞



＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊前回調査と＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

男女共同参画に関する言葉や内容の「認知度（「よく知っている」と「多少は内容（中身）を知っている」を合わせた回答）」は、前回調査との共通項目「男女共同参画社会」、「男女共同参画社会基本法」、「男女雇用機会均等法」、「女子差別撤廃条約」、「育児・介護休業法」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」において、全体、男女別ともに前回調査とほぼ同様の結果となっています。

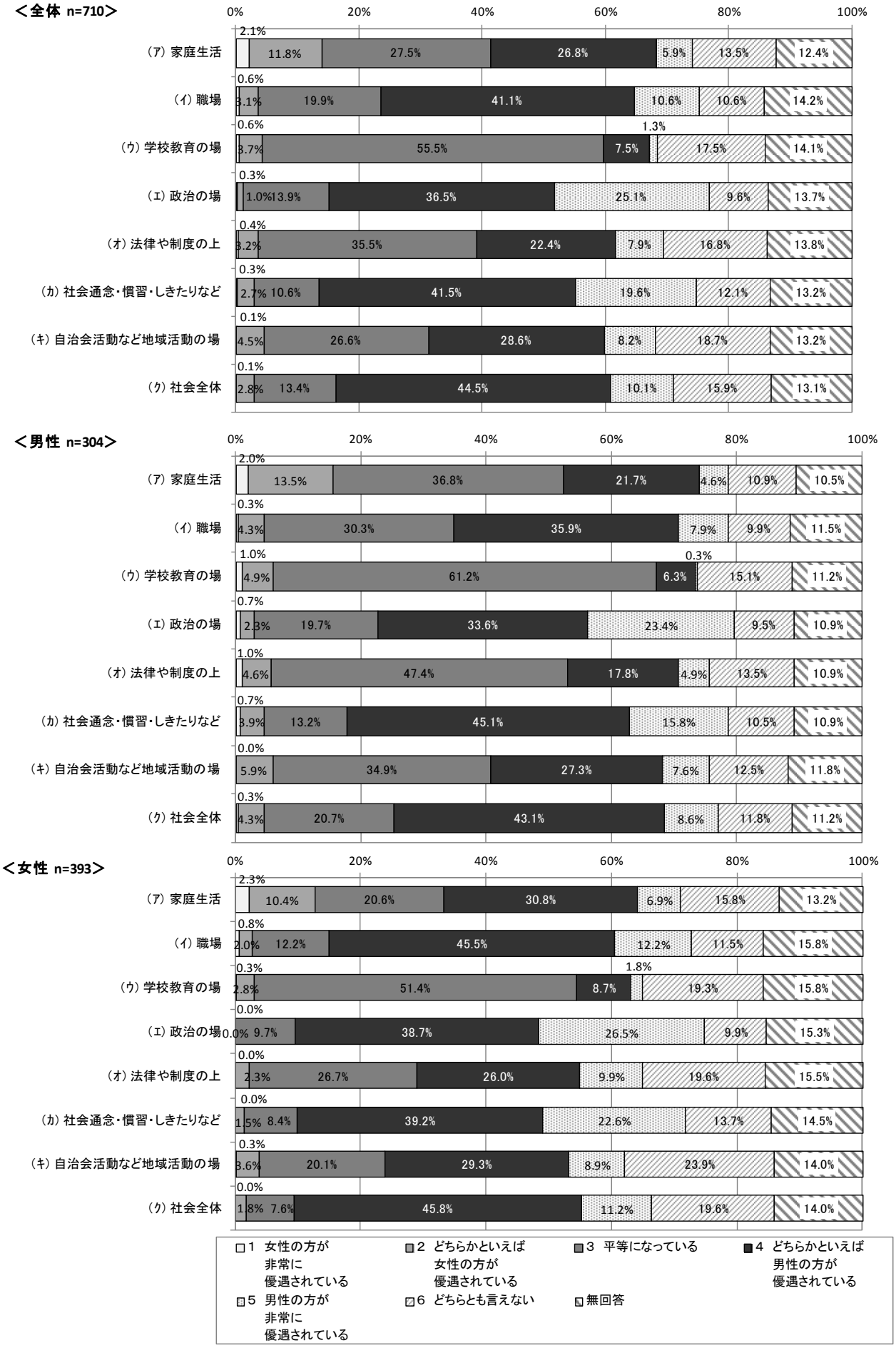
年齢別にみると、「男女共同参画社会」、「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」は、どの年代層でも知っている割合が高いこと、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」は、若い年代層で「名称（言葉）は聞いたことがある」にとどまっている割合が高くなっていることなど、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

問 28　あなたは次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
次の（ア）～（ク）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

男女の地位の平等感について、全体では、「学校教育の場」、「法律や制度の上」で「平等になっている」が、それぞれ55.5％、35.5％と高くなっています。一方、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」は、「政治の場」で61.6％、「社会通念・慣習・しきたりなど」で61.1％、「社会全体」で54.6％、「職場」で51.7％と高くなっています。また、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」は、「家庭生活」が13.9％となっていますが、他の項目では1割に満たない割合となっています。

男女別にみると、「平等になっている」は全体とほぼ同様の結果ですが、いずれの項目も女性の方が男性よりも低くなっています。一方、「男性優遇」は、いずれの項目も女性の方が男性よりも高くなっています。「女性優遇」は、「平等になっている」と同様、いずれの項目も女性の方が男性よりも低くなっています。特に、女性の「政治の場」では、「女性優遇」は0％となっています。男女の地位の平等について、女性は平等を感じていないことが見えてきます。

図 28　男女の地位の平等



（６）市（行政）に要望する方策について

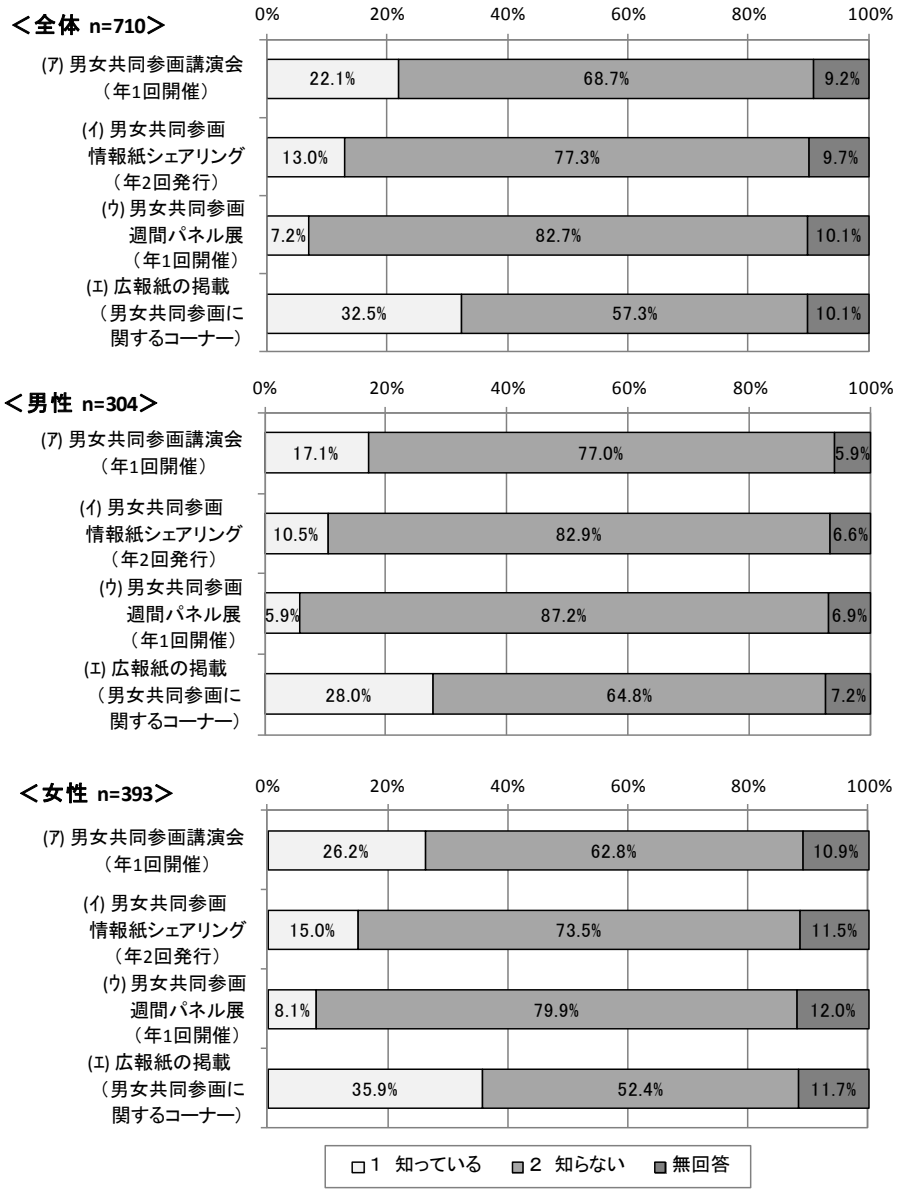
問 29　市では男女共同参画社会の実現を目指すために、講演会の開催や情報紙の提供等を実施しています。次の（ア）～（エ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

【①知度】

男女共同参画推進事業の認知度は、「知っている」が高い項目は、「広報紙の掲載（男女共同参画に関するコーナー）」が32.5%、「男女共同参画講演会（年1回開催）」が22.1%となっています。

男女別でみても、ほぼ同様となっています。

図 29①　男女共同参画推進事業の認知度

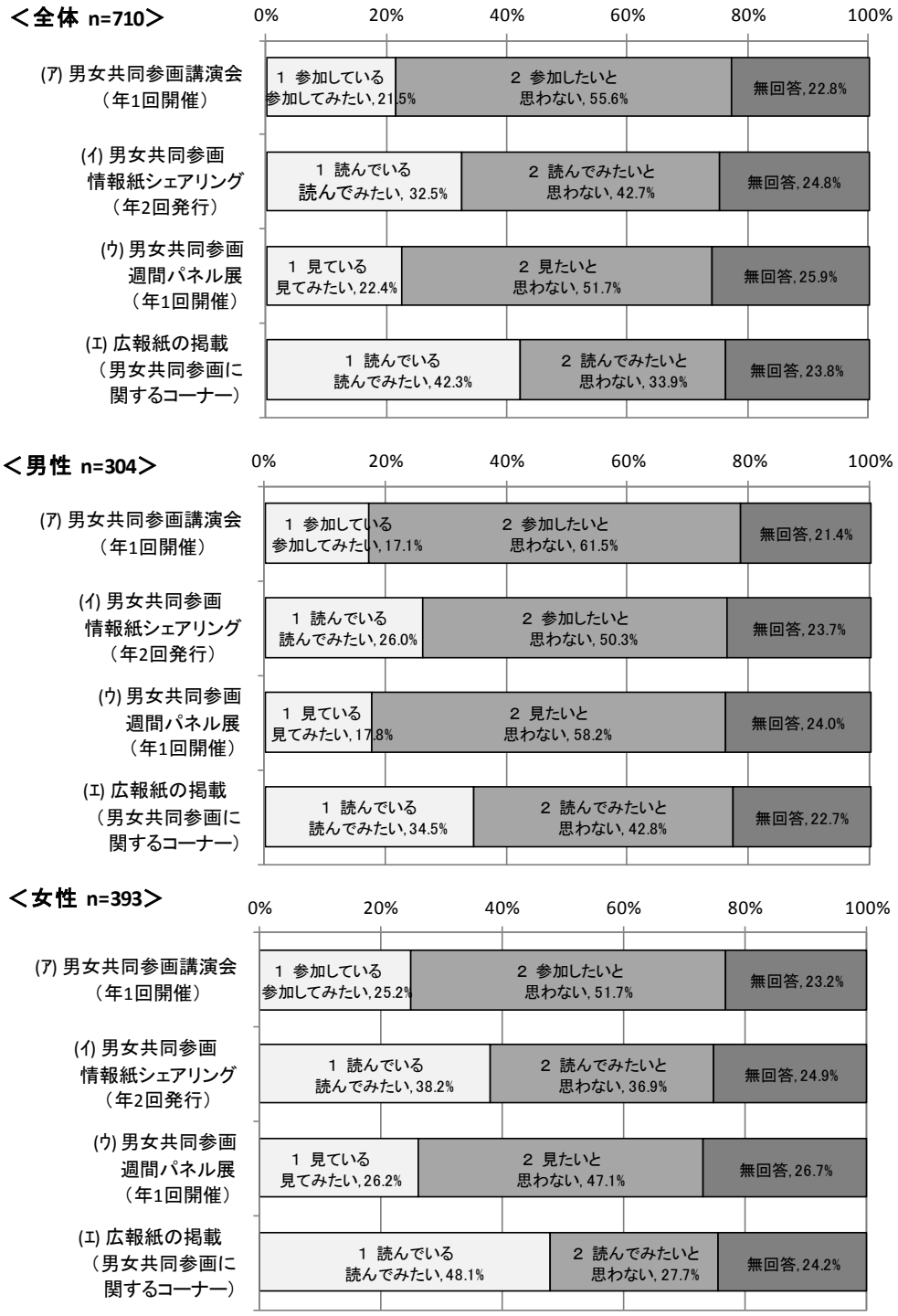


【②利用等の状況】

男女共同参画推進事業の利用状況は、「読んでいる読んでみたい」が高い項目は、「広報紙の掲載（男女共同参画に関するコーナー）」が42.3%、「男女共同参画情報紙シェアリング（年2回発行）」が32.5%となっています。

男女別でみても、ほぼ同様となっています。

図 29②　男女共同参画推進事業のための情報の利用状況



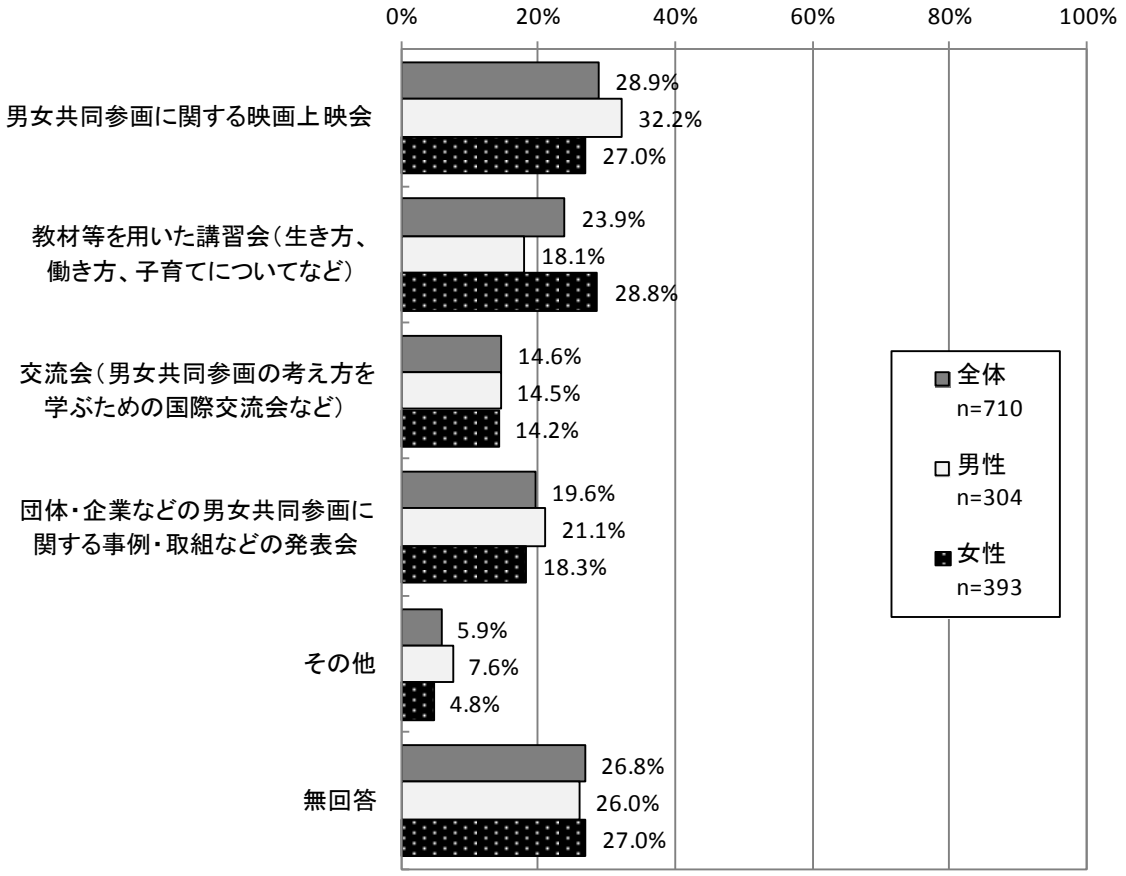
問 30　市が実施する男女共同参画に関する事業で、あなたが参加してみたいと思うものはどれですか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

注）問30の事業は、現在市では実施していません。

参加してみたい男女共同参画に関する事業は、「男女共同参画に関する映画上映会」が28.9%で最も高くなっています。続いて「教材等を用いた講習会（生き方、働き方、子育てについてなど）」が23.9%、「団体・企業などの男女共同参画に関する事例・取組などの発表会」が19.6%となっています。

男女別でみると、男性は「男女共同参画に関する映画上映会」が32.2%と最も高くなっているのに対し、女性は「教材等を用いた講習会（生き方、働き方、子育てについてなど）」が28.8%と最も高くなっています。

図 30　男女共同参画に関する事業

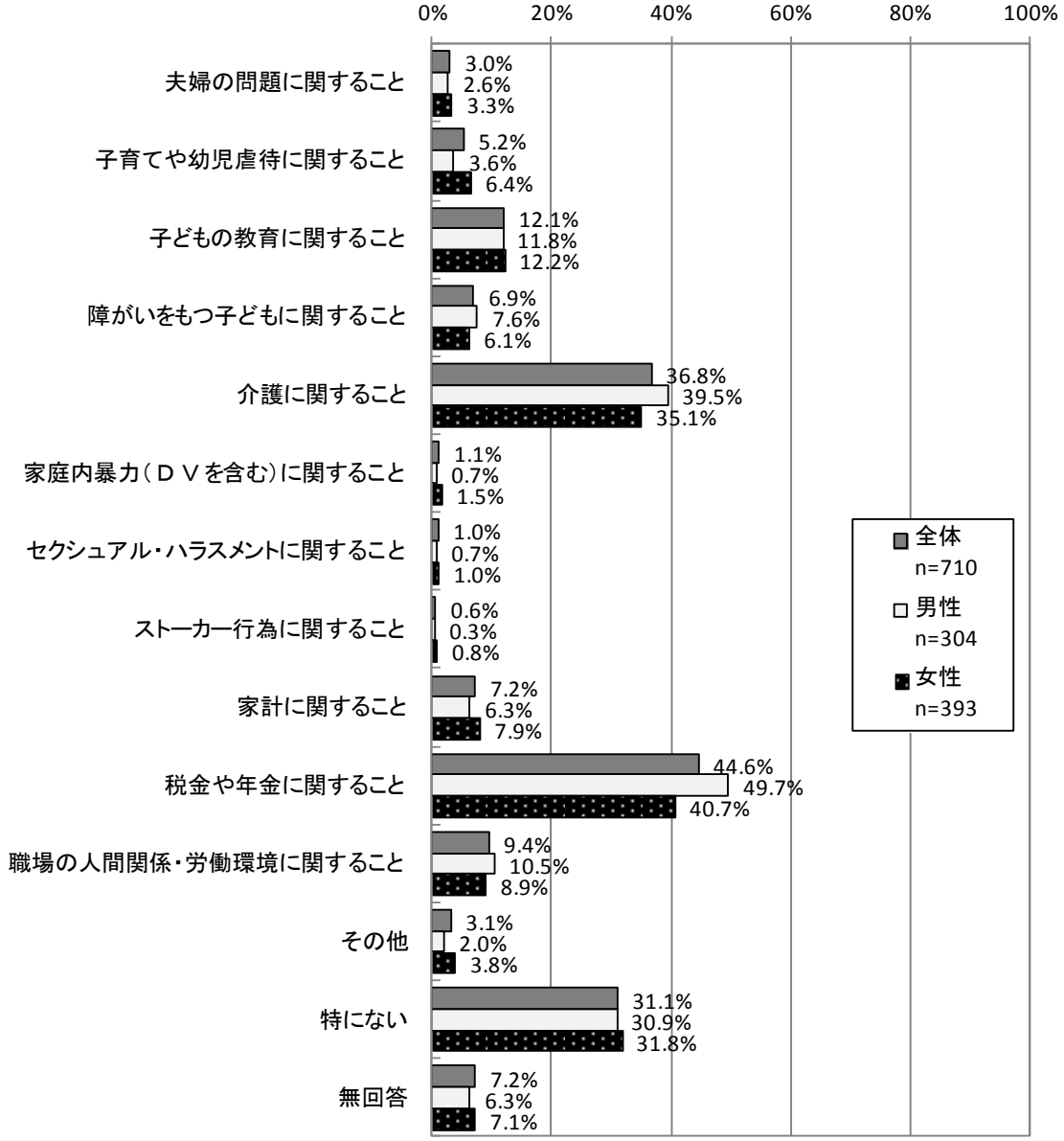


問 31　あなたが市（行政）に相談したいと思うことを、あてはまるものを<u>最大３つまで選び、○を付けてください。</u>

市に相談したいと思うことについて、「税金や年金に関すること」が44.6％で最も高く、続いて「介護に関すること」が36.8％となっています。

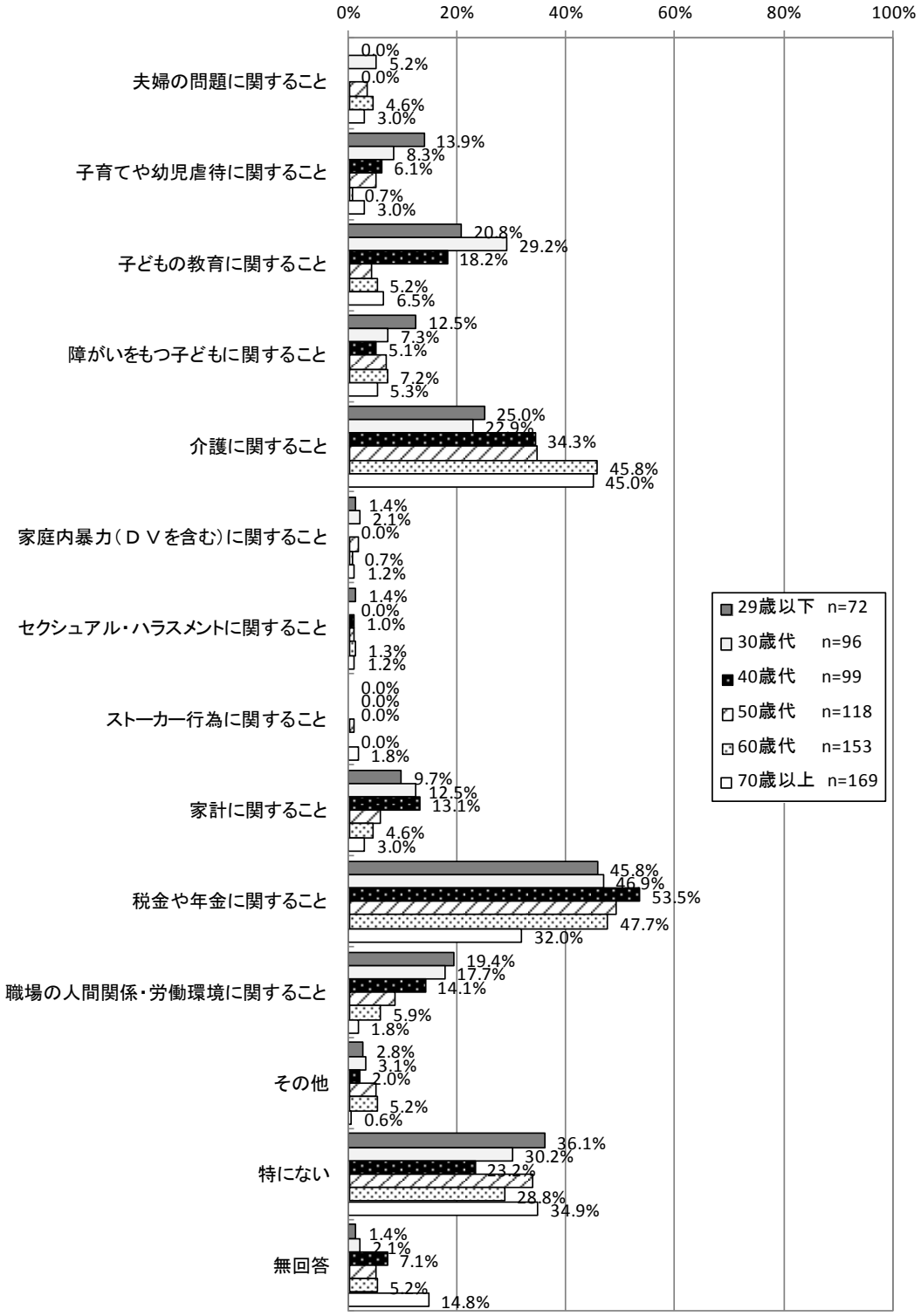
男女別にみると、男女とも全体とほぼ同様の結果ですが、「税金や年金に関すること」は、男性の方が若干高くなっています。また、女性は「家計に関すること」が男性より若干高くなっています。「夫婦の問題に関すること」、「家庭内暴力（DV含む）に関すること」、「セクシュアル・ハラスメントに関すること」、「ストーカー行為に関すること」といった、男女共同参画社会と直接関係する項目について、市（行政）に相談したいという声は少数にとどまっています。

図 31　市に相談したいこと



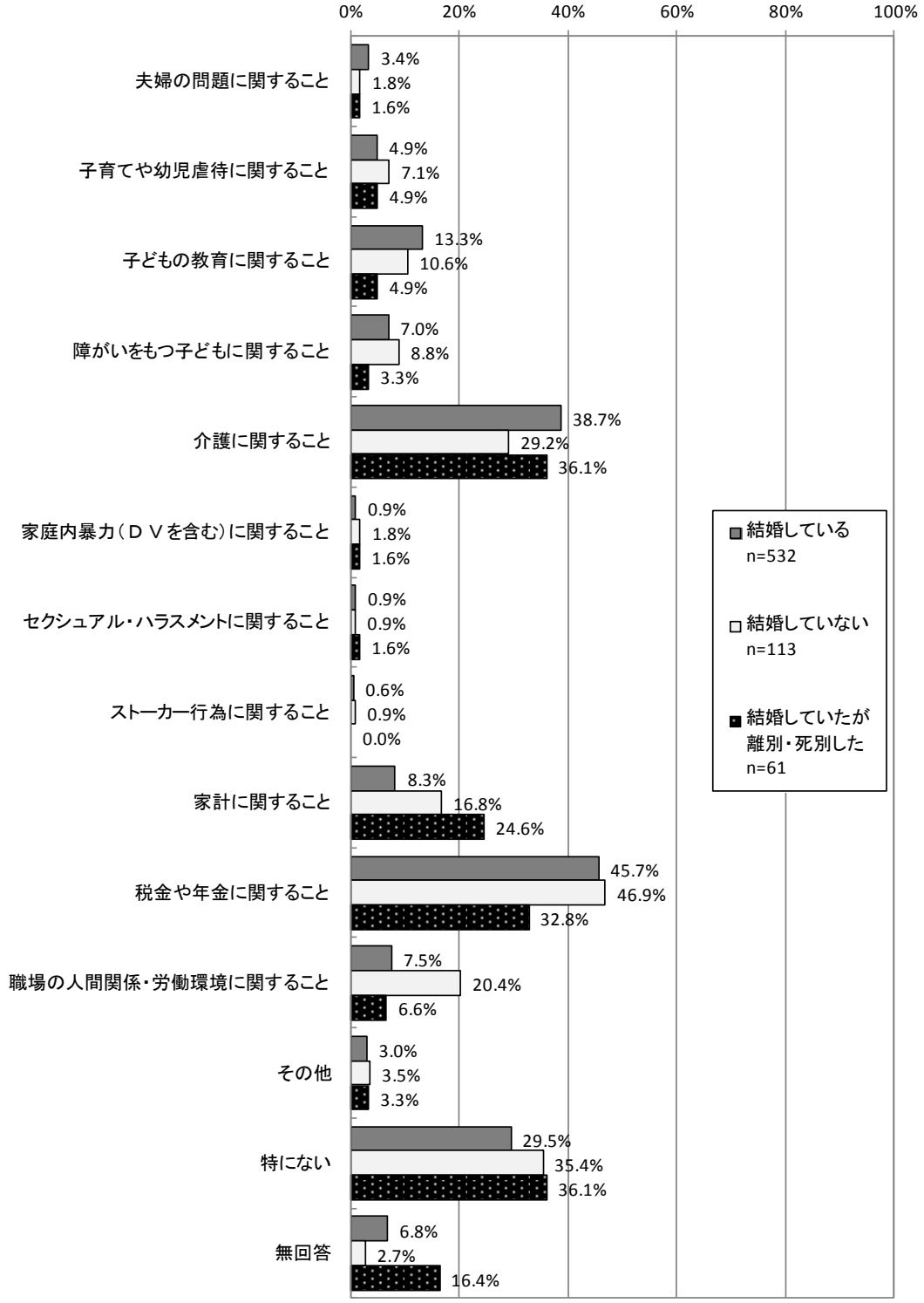
年齢別にみると、「子どもの教育に関すること」は、29歳以下と30歳代で20.8%、29.2%と高く、年齢が低いほど割合が高い傾向にあります。また「介護に関すること」は、60歳代と70歳以上で45.8%、45.0%と4割を超え、年齢が高いほど割合が高い傾向にあります。

図 31(1)　市に相談したいこと(年齢別)



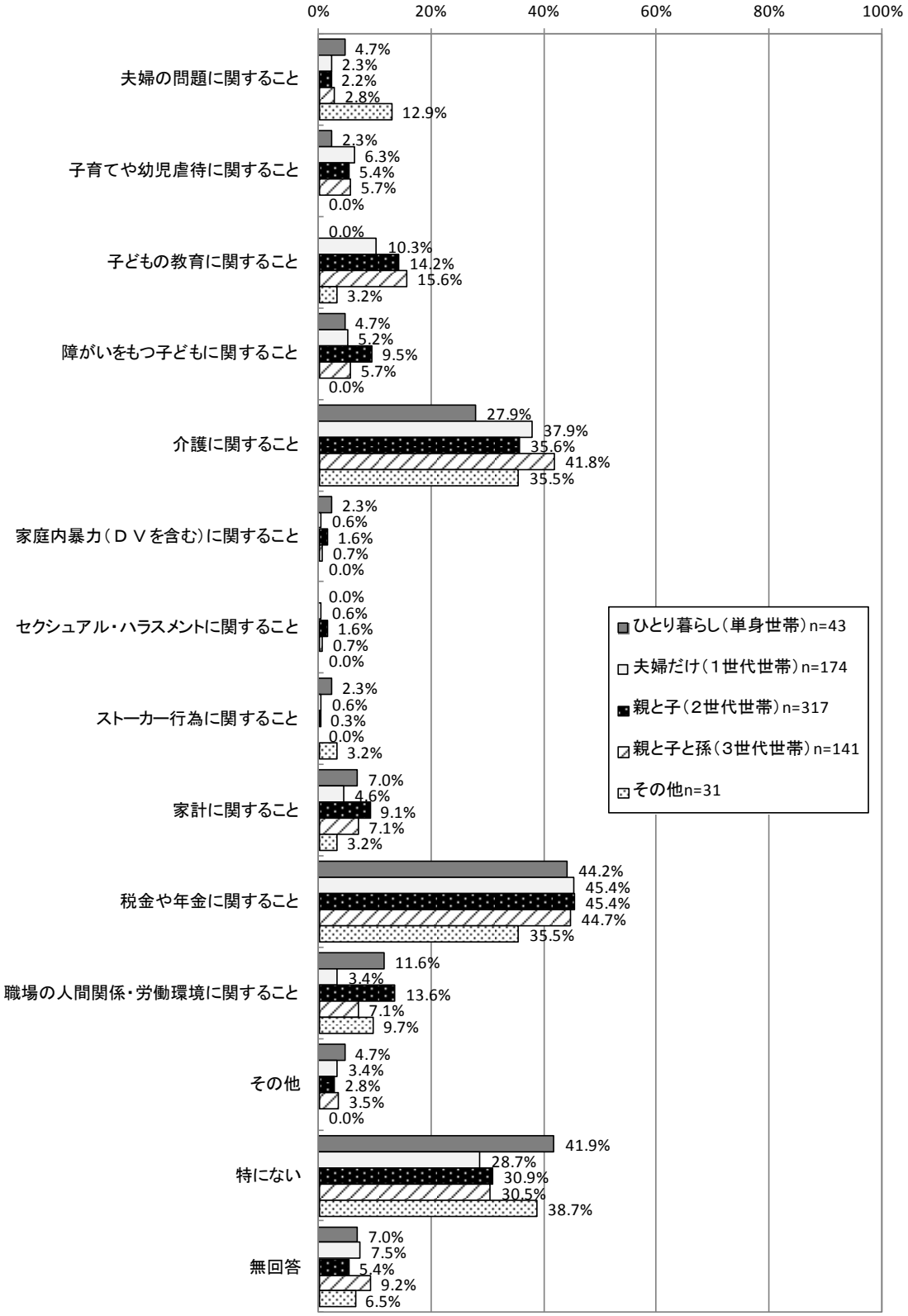
結婚の有無別にみると、「税金や年金に関すること」、「介護に関すること」はいずれも割合が高くなっています。それ以外では、結婚している回答者は「子どもの教育に関すること」が13.3%と高く、結婚していない回答者は「職場の人間関係・労働環境に関すること」が20.4%と高くなっています。「家計に関すること」は、結婚していたが離別・死別したという回答者で24.6%と最も高くなっています。

図 31(2)　市に相談したいこと(結婚の有無別)



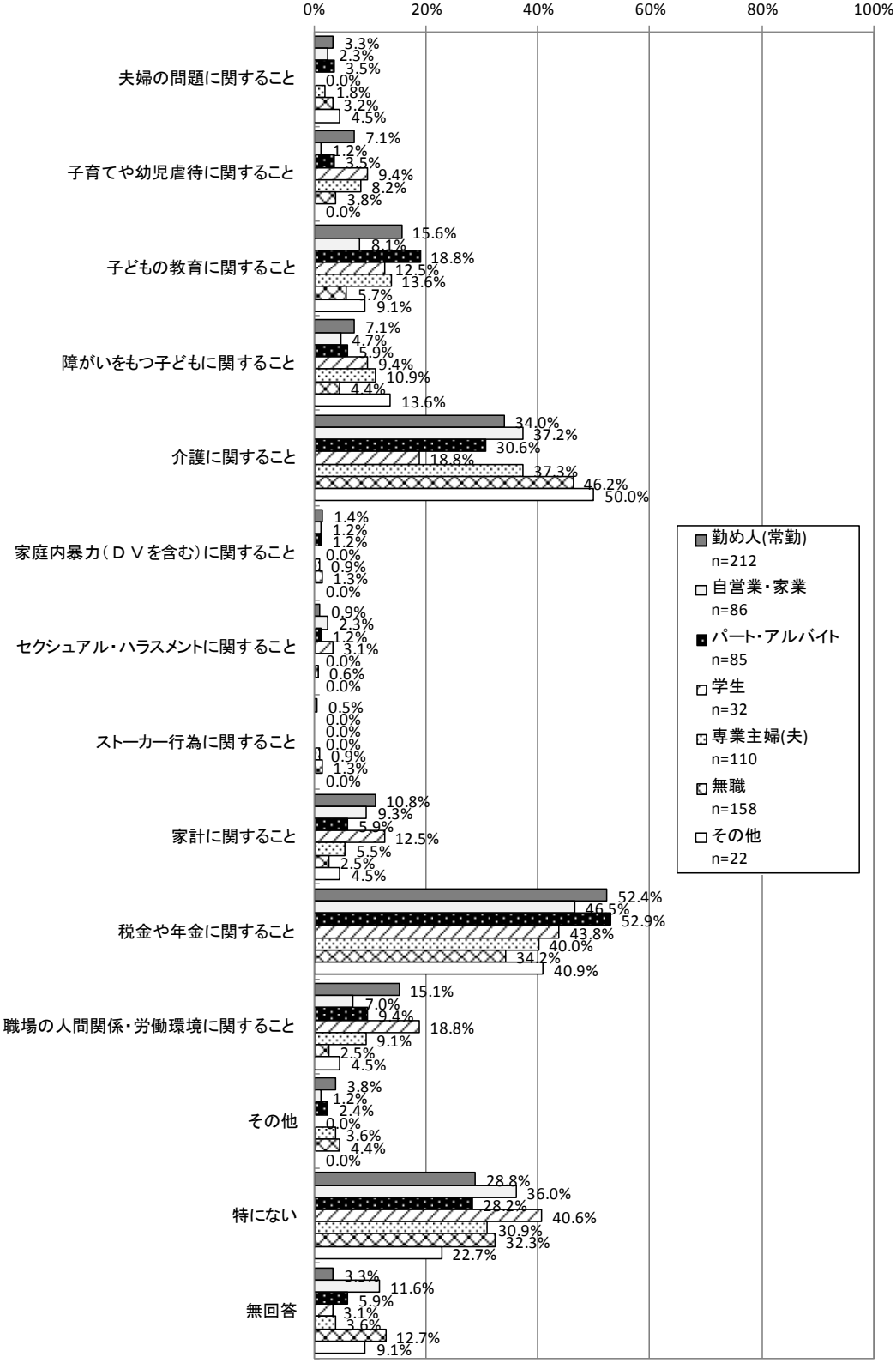
家族構成別にみると、「介護に関すること」は、3世代世帯が41.8%と最も高く、続いて1世代世帯が37.9%となっています。「子どもの教育に関すること」でも、3世代世帯が15.6%と最も高くなっています。また「職場の人間関係・労働環境に関すること」は、2世代世帯が13.6%、単身世帯が11.6%と高くなっています。

図 31(3)　市に相談したいこと(家族構成別)



職業別にみると、パート・アルバイトと勤め人において「子どもの教育に関すること」が、それぞれ18.8％、15.6%と高く、「税金や年金に関すること」も、それぞれ52.9％、52.4％と高くなっています。「介護に関すること」は、その他、無職の回答者がそれぞれ50.0％、46.2%と高くなっています。

図 31(4)　市に相談したいこと(職業別)

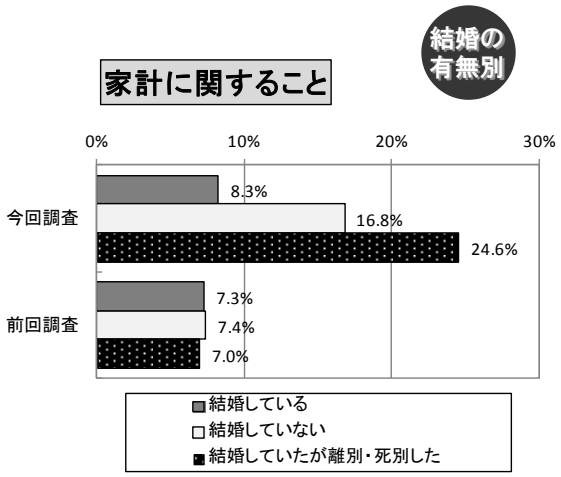


前回調査と

市に相談したいと思うことについては、全体、男女別、年齢別、結婚の有無別、家族構成別、職業別のいずれも、前回調査に比べ「特にない」が高くなっており、「子どもの教育に関すること」、「介護に関すること」、「税金や年金に関すること」は低くなっています。

ドメスティック・バイオレンスやセクハラ、ストーカー行為に関することなど、男女共同参画社会と直接関係する項目についての割合は、前回調査と同様、あまり高くありません。

結婚の有無別では、結婚していない回答者と結婚していたが離別・死別したという回答者で「家計に関すること」が前回調査より高くなっており、結婚している回答者に比べ、厳しい経済状況のなか、市に相談する機会が増えていると考えられます。

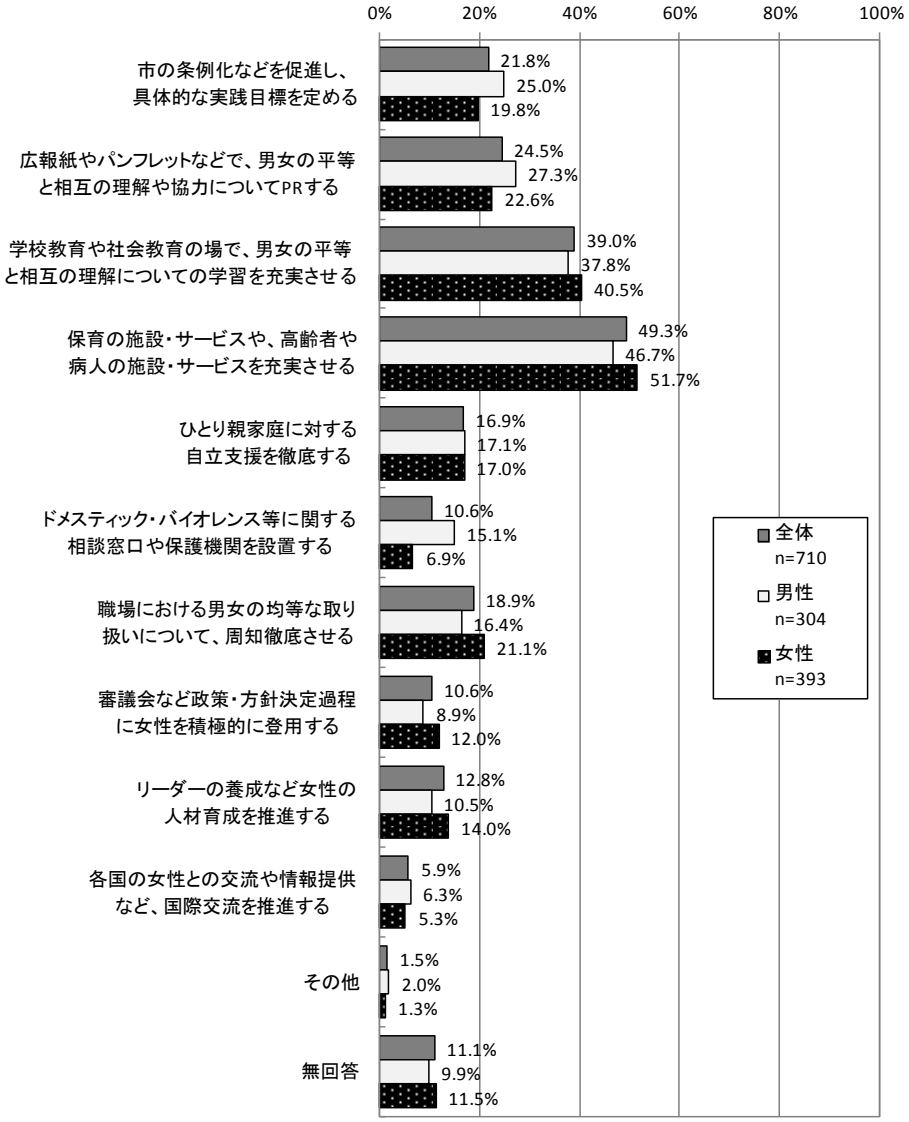


問 32　男女共同参画社会をつくるため、今後、市（行政）はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを最大３つまで選び、○を付けてください。

男女共同参画社会に向けて市が力を入れていくべきものについて、全体では、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が49.3％で最も高くなっています。続いて「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」が39.0％、「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」が24.5％、「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」が21.8％となっています。

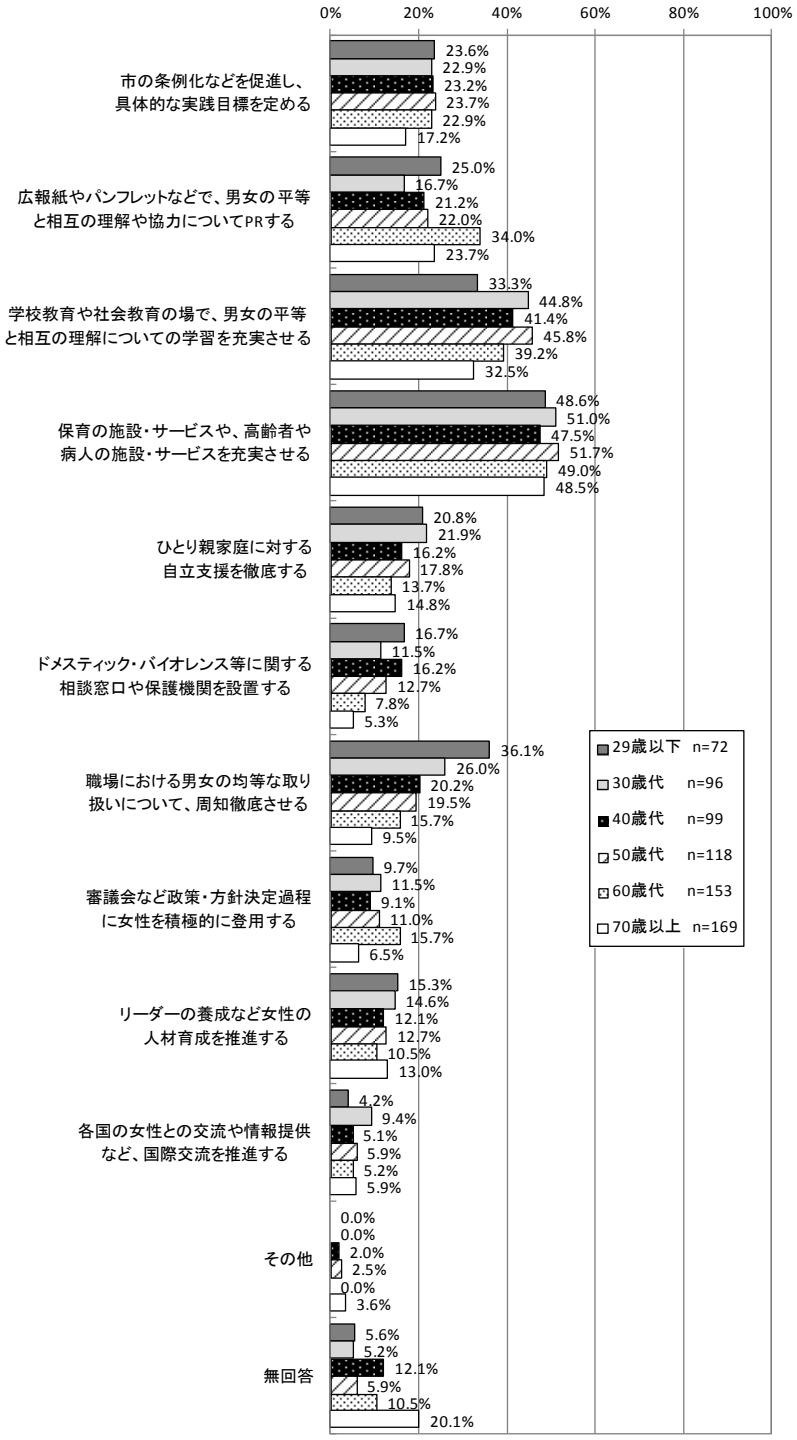
男女別にみても、全体の傾向とほぼ同様の結果になっています。「学校教育や社会教育の場で、男女平等と相互の理解についての学習を充実させる」や「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」で、女性が男性より高くなっている一方、「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」や「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」は男性が女性より高くなっています。

図 32　男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと



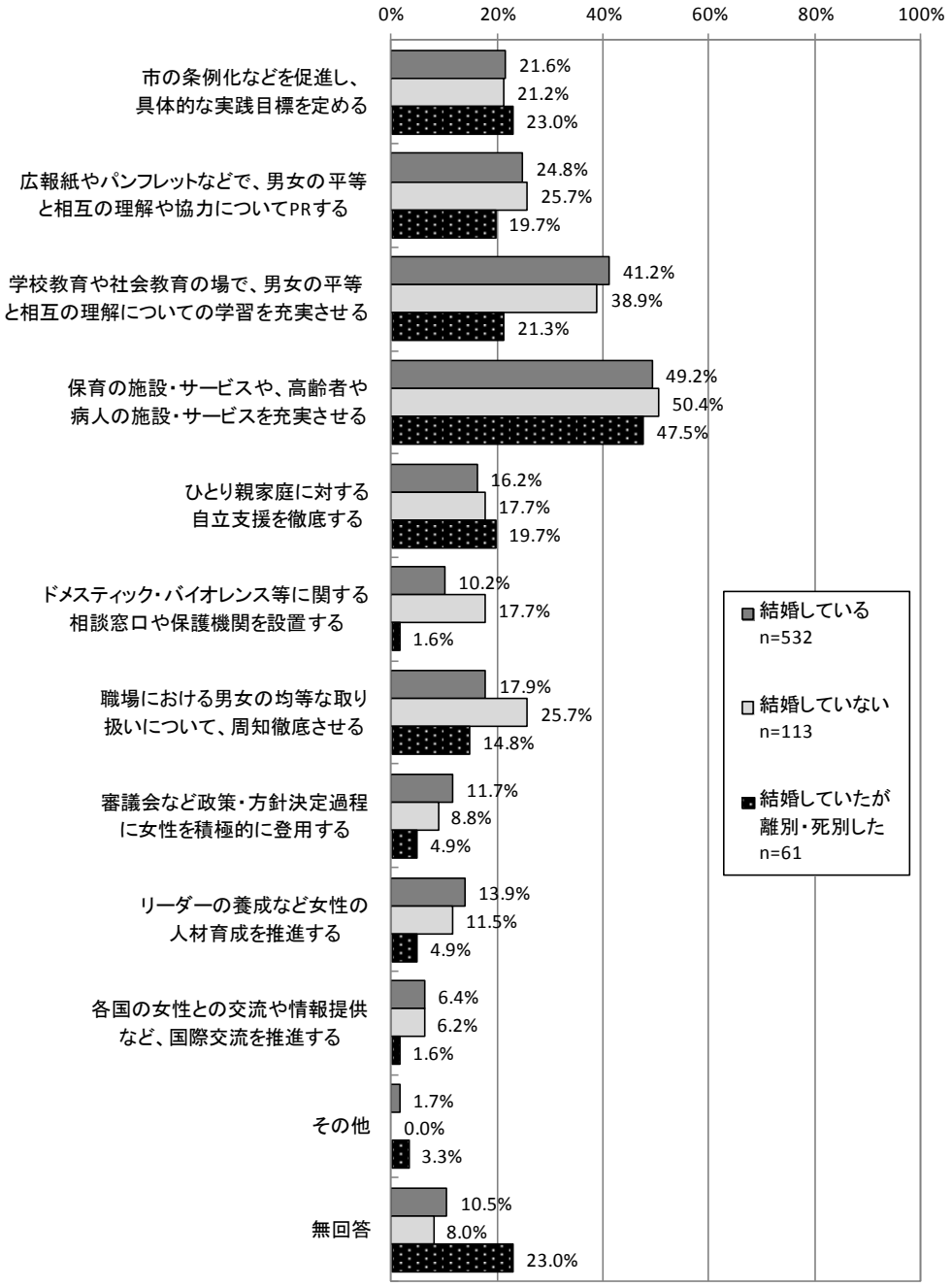
年齢別にみると、「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」は、どの年代でも2割程度となっています。「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる」は、29歳以下が36.1%と最も高くなっています。「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」は、50歳代で51.7％、30歳代で51.0%と高くなっています。また、「ひとり親に対する自立支援を徹底する」は、29歳以下、30歳代の若年層で高くなっています。

図 32(1)　男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(年齢別)



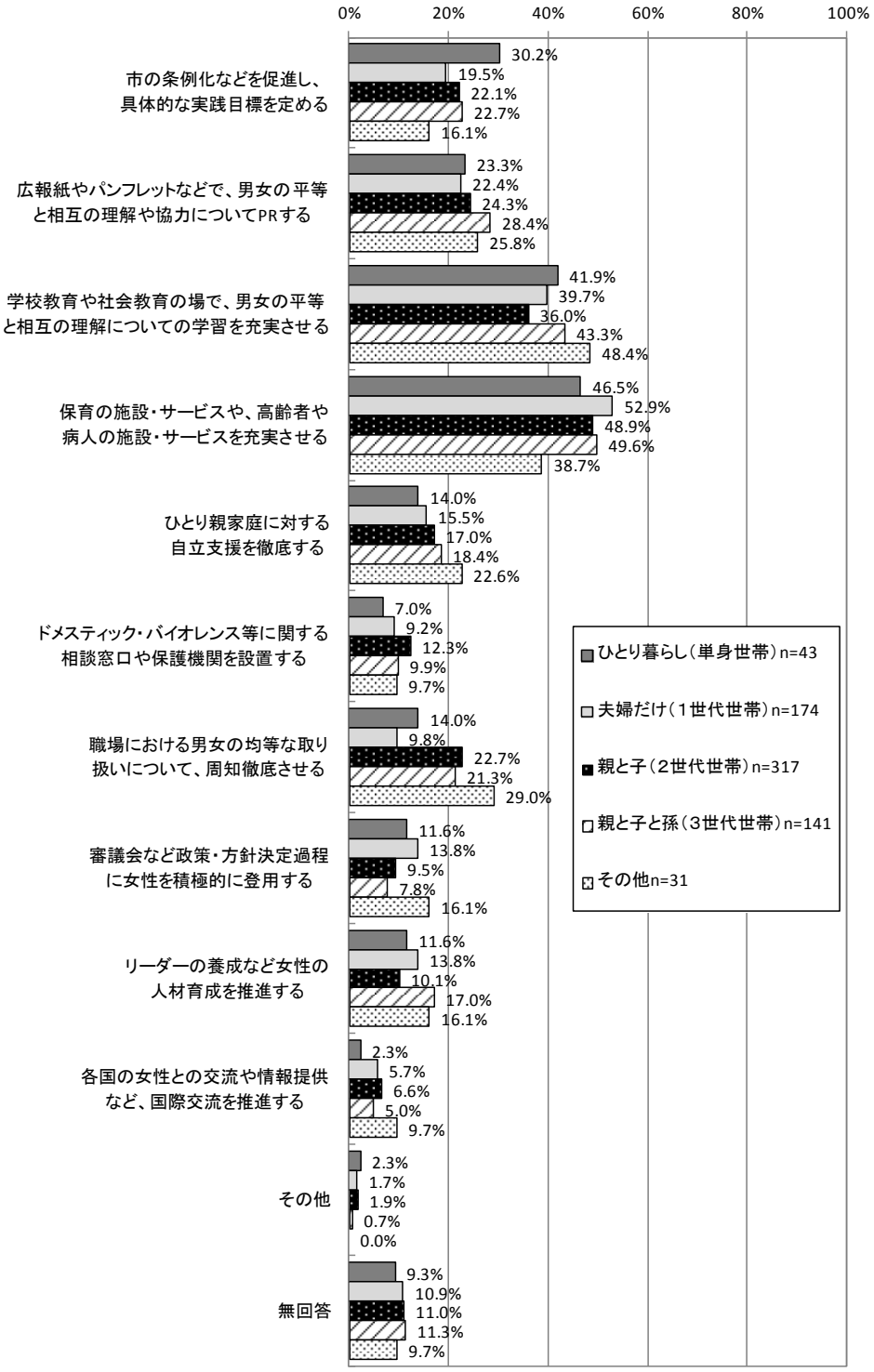
結婚の有無別にみると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が、いずれも5割程度と最も高くなっています。続いて高くなっているものは、結婚している回答者と結婚していない回答者では、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」がそれぞれ41.2%、38.9%、「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」がそれぞれ24.8%、25.7%となっています。結婚していない回答者では、「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる」も25.7%と高くなっています。結婚していたが離別・死別した回答者では、「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」が23.0%、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」が21.3%と続きます。

図 32(2)　男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(結婚の有無別)



家族構成別にみると、「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」は、3世代世帯が最も高く28.4%となっています。「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」は、1世代世帯が5割を超え、3世代世帯で49.6%、2世代世帯で48.6%と高くなっています。また、「ひとり親に対する自立支援を徹底する」は、単身世帯で14.0%と低く、世代が増えるにつれ割合が高くなっています。「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」は、単身世帯が30.2%と最も高くなっています。

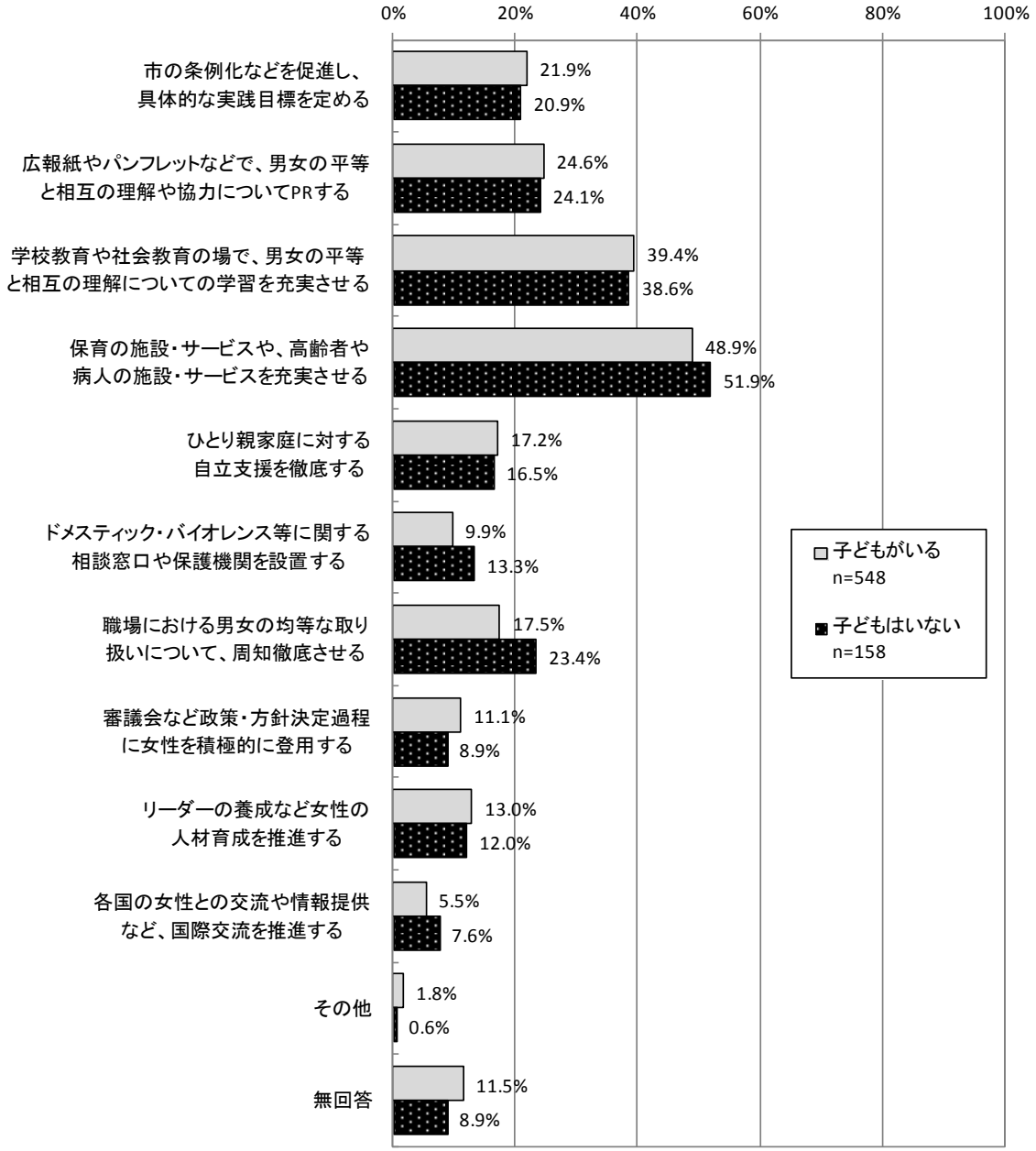
図 32(3)　男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(家族構成別)



子どもの有無別にみると、いずれも、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が50％程度と最も高く、続いて「学校教育や社会教育の場で、男女平等と相互の理解についての学習を充実させる」が40％程度、「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」が25％と、ほぼ同様の結果となっています。

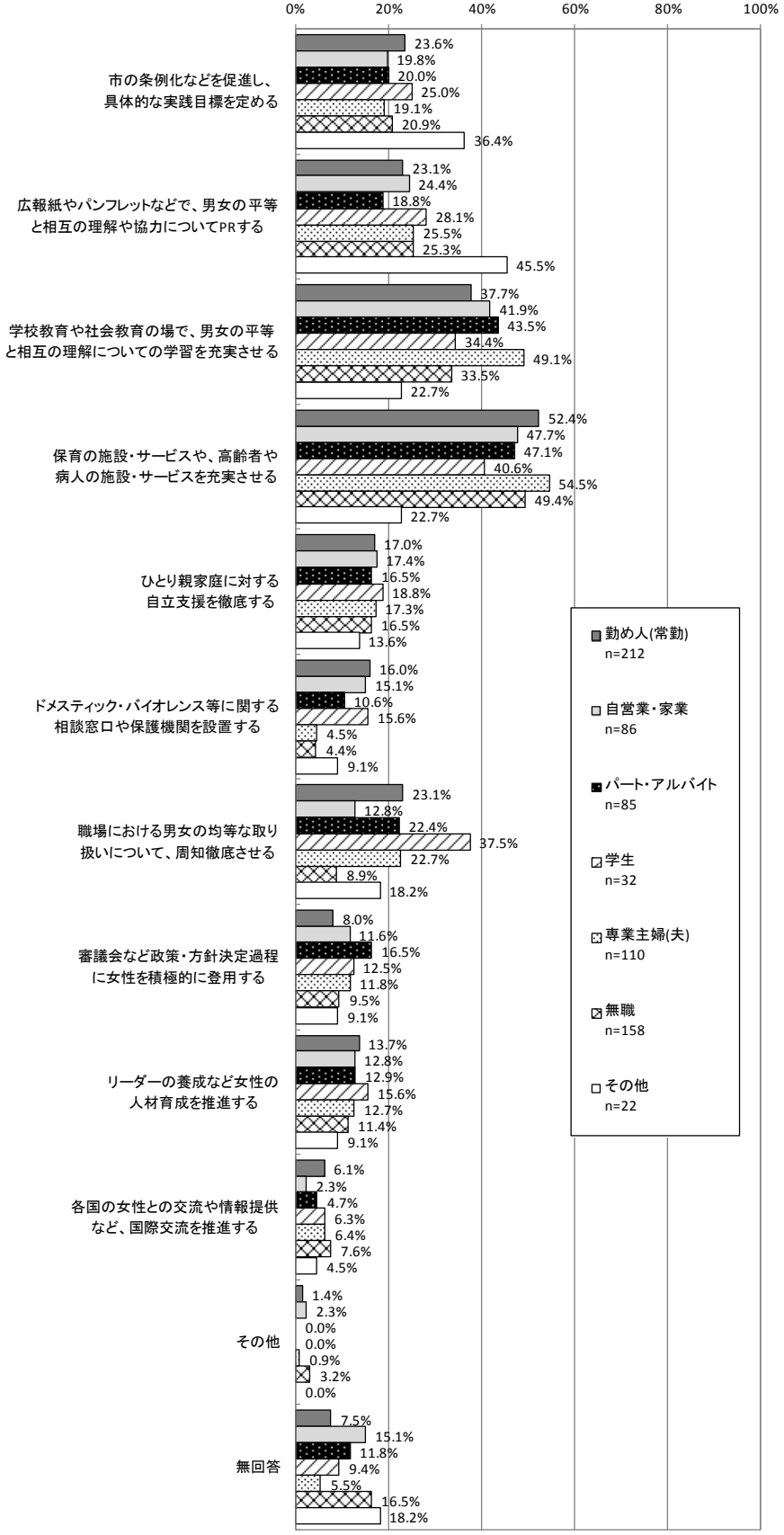
「ドメスティック・バイオレンス等に関する相談窓口や保護機関を設置する」や「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる」は、子どもがいない回答者の方が子どもがいる回答者よりも高くなっています。

図 32(4)　男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(子どもの有無別)



職業別にみると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」は、勤め人、専業主婦（夫）で5割を超え高くなっています。また、「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる」は、学生が37.5%と最も高くなっています。

図 32(5)　男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと（職業別）

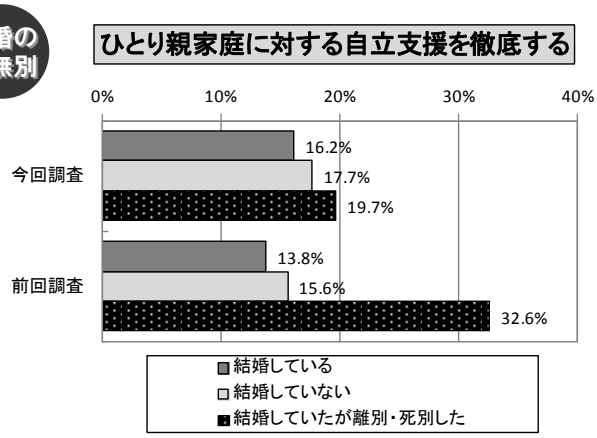


前回調査と

男女共同参画社会に向けて市が力を入れていくべきものについて、全体、男女別、年齢別とも、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が最も高くなっています。また、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」、「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」、「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」なども高くなっており、前回調査とほぼ同様の結果となっています。

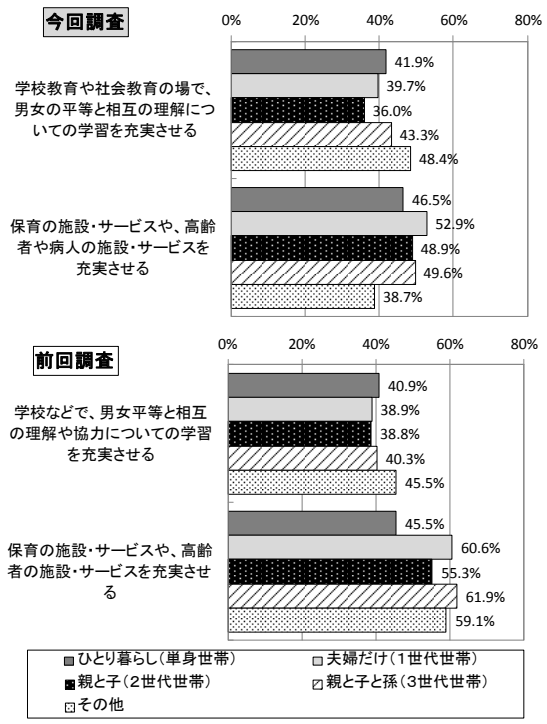
結婚の有無別にみると、結婚していたが離別・死別した回答者では、前回調査で「ひとり親に対する自立支援を徹底する」が32.6％と高かったものが、今回調査で19.7％と、結婚している回答者、結婚していない回答者と同程度となっています。

結婚の有無別

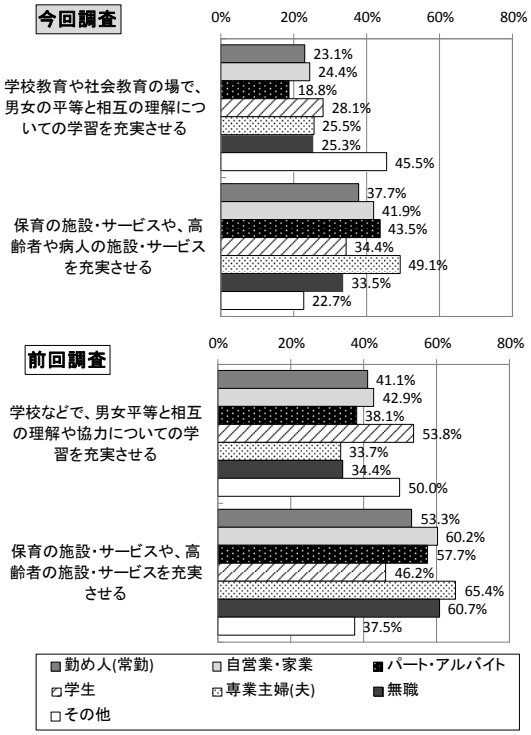


家族構成別、職業別にみると、前回調査では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」がどの世帯でも最も高くなっていましたが、今回調査では「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」もそれに並んで高くなっています。

家族構成別



職業別



（７）自由回答

問 33　男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

自由回答のなかで、特に多くの意見が寄せられた分野は、女性が結婚して子どもができても働き続けられる環境の整備、行政の支援施策など、「推進体制の整備」に関するものでした。

また、「男女共同参画」に対する否定的な意見、肯定的であっても現実には難しいといった意見、男性や高齢の方の意識改革が必要といった意見も多く寄せられました。

※個人が特定される回答は掲載していません。

＜推進体制の整備＞

（子育て支援の充実、子どもができても働き続けられる環境づくり）

■近所に保育施設の充実した職場があり、子どものいる母親が働きやすいという話を聞き、そういう職場がどんどん増えてほしいと思います。仕事か家庭、どちらかを選ばなければならない人がいなくなることを願っています。

■私のような高齢者に（81 歳）に対してのアンケートは戸惑う問題が多く、お役に立たないかと思いますが、現在、子どもを育てるには経済的に女も働かなければならないと思います。娘が教師をしながら子育てをしているのを見て、まだまだ女の仕事は大変だと思います。家に戻ってからの仕事（夕食、洗濯等）があるので、職場でも 30 分でも早く帰れるような決まりでも作ったり、保育所を多く建設してほしいと思います。

■行政は、市民と同じ目線に立って、市民が交流できる場所などを提供してほしいと思います。同じ場所に、託児所などを設置すれば、若い人たちも、肩の力を抜いて育児ができるではないでしょうか。

■男性には男性にしかできないこと、女性には女性にしかできないこと（妊娠、出産、母乳など）あると思います。全て同じことをすることが平等というのではなく、個人が満足のいく生活（仕事）ができるようにしていくのが、市の役目だと思います。子育てしていくのによい市でしょうか。保育園は足りているでしょうか。学童さんの受け入れは充分でしょうか。男性にも女性にも輝ける市になってほしいものです。

■かつて滞在して学んだオランダの社会では子育て世代、壮年、老年世代によって共同のあり方が違い、世界で初めて子育て世代でワークシェアリングを導入した結果、女性はゆとりをもって子育てをし、子どもたちも最長 13 時間も保育所に預けられる孤絶を強いられることはなくなりました。もっと世界の潮流に眼を向ける、質の高い本質的な参画社会を志向してほしいと思います。

（ＰＲの推進、広報紙･パンフレットなど）

■男女共同参画社会について、あまり理解してなかったので、今後資料など注意してみることにします。講演会などがありましたらぜひ参加してみたいと思います。パンフレットなどを新聞に折り込みで入れていただければ、もっと身近に参加できるのではないかと思います。

■昔に比べたらずいぶん男女平等になったと思いますが、やはり社会に向けて言い続けないと、まだまだ平等になっていかない部分もあると思います。今後も分からない人に広報などで知らせて下さい。

■ワークシェアリングを実施している企業の紹介などを広報に載せていただけると、これから社会復帰をしようとする主婦たちに役に立つのではないでしょうか。

（行政の体制づくり：講座･学習会）

■男女間の差は職場で感じる方も多いと思いますが、私個人としては子育てをしてみて、あらためて男女の役割に違いがあることや、逆に男性にも同じように行事に参加してもらいたいと思うこともありました。子育てに関する教育は、妊娠してからのことだったので妊娠する前にも参加できるような子育て教室などがあればよかったなあと思います。特に、男性は子どもが生まれてもしばらくは親として実感がもてない人も多いようなので、男女共に 18 歳を過ぎた頃にでも子育てに関する教育を受けられるといいのではないかと思っています。（本来ならば親が教えていくことなのでしょうが、なかなかそこまで教育してくれる親も少ないと感じています）

■DV や男女共同参画社会について、自分でも認識不足で、社会人になってから勉強したり、本から知識を得ようとする人は少ないので、テレビから得た情報程度で知ったかぶりをする人が多いと思います。それよりも、子どもが学校教育のなかで DV や男女共同参画社会、子育て、介護などについて知る時間が年に数時間でもあれば、抵抗なく、知識として身につくのではないのかと思います。

■男女共同参画に関する言葉や内容を勉強できる講演会があるといいと思います。多くの男性に参加してもらい、しっかりした講師の説明があり、会場での質疑ができるような講演会があるといいと思います。

■広報、会報を発行しても、魅力のない内容では読みたくないので、座談会やコミュニティーのミニサークルなどを実施して呼びかけるのがいいと思います。また市役所の職員が、家庭訪問しながら、市民との交流を深め、市民の状況をつかんでいただきたいです。

■若い世代の男性は学校教育の中で、男女平等と教育されつつあると思いますが、中高年男性には、理解できてない人たちが多いと思います。職場、家庭でも、私の周囲の男性は、常に「女だからこれやれよ！」との言葉が頻繁に出てきます。行政の働きかけで、中高年男性の意識を改善できるような機会、場を設けることはできないでしょうか。また、そのような人に限って、男女共同参画社会の講演などには行きたがらない人も多いので、地域や職場でのＰＲを望みます。

■「男女共同参画社会の実現に向けたまちづくり」と言っても、今の世の中、不景気、円高、増税への不安などが多いと思っています。民間の企業などの給料は下がっているというのですから、公務員も下げてほしいと思います。男女平等という言葉を聞いたことはあっても、この町ではあまり感じませんし、周りからもあまり男女平等だということも聞きません。確かに平等に仕事をしているとか、女の人でもダンプカーに乗っているのとかは、見かけたりしますが、そういう人に対して、男だとか男みたいだとかと言っている近所の人がいます。年配者は理解するのは難しいのかなあと思いますが、意識を変えられるような勉強会などを開

いてはどうかと思います。

（企業への働きかけを）

■女性の人材育成を推進しつつ、企業や各団体などでも男性が子育てや介護などに積極的に参加できるような労働時間や休暇制度の見直しなどをしていただけると、社会全体のバランスが均等にとれていくのではないでしょうか。

■正直、行政が行う男女共同参画事業に興味はありません。こういった問題は、民間企業の勤務体制や人事制度の中で取り組まれていかねば効果が出にくい気がします。行政は、それをサポートする役割を担う、というところでしょうか。

（行政の人材育成）

■男女共同参画社会をつくるために市のすべきこととして、「リーダーの養成など女性の人材育成を推進する」に関して、男女共同参画なのだから男女リーダー育成を推進すべきだと思います。

■男女共同参画社会といっても、言葉のみが先行して、実態は遅れています。職場においても、役所、行政、自治会などにしてもしかり。まだまだ保守的な考えの方（特に高齢者）が多く、この意識調査をするからには、役所がモデルとして、そのための教育をした女性役職の大幅増員や、議員についても女性候補を多く輩出できる環境整備を進めるべきです。また、市の活性化、改革を促進するためにも、30～40 代の若い優秀な頭脳を活用すべきで、若々しい男女のフレッシュな感性に期待します。業務内容についても、無駄が多く、民間企業などで取り組んでいる「効率化」を重視し、もっとテキパキとした活力（活気）あるものにしてほしいと思います。活気あるなかからこそ、よりよい市民サービスも生まれ育ってくるものと思います。

（男女共同参画の具体的な行動、目標の提示を）

■「同じ」であることと「平等」であることは違うと思うのです。市としてどうあれば、男女共同参画社会といえるか、というビジョンはありますか。このアンケートからは、そういったものが感じ取れませんでした。できましたら施策が修了するH27 年度には「伝わる形」がありますように。

■他の市では、やっていないことを進んで取り組むぐらいの勢いで行ってほしいです。私のDV被害の時は、宇都宮市の友人から聞き、市（下野）に相談をしましたが、市や県、県から市へ…と、まわしにまわされてしまい…。宇都宮市では、DV被害者を本当に心配し相談にのってくれ、子どもの保育園まで手を貸してくれると聞きました。私は、その後、離婚、今は再婚したので幸せですが、ここまでの道のりは大変でした。正直、一回嫌な思いをしたので、市に期待してませんが、その残念だった思いを忘れるぐらいよいものになるよう願ってます。

■男女平等は思想として、教育して行けばいいだけのこと。市の行政で何かやる、というものではないと思います。逆に、今後企画していくものに男女平等の思いを織り込んで企画することが大事だと思います。男女共同参画社会をつくるために何を企画しましょうか？ではダメで、通常行う施策に平等の考え方を持っていることが大事だと思います。

■机上のプランにならないように願います。

■男女の問題は奥が深く、制度や形にするのはなかなか大変だと思いますが、弱者に目の届く

社会になりますようよろしくお願いします。

（地域社会での環境づくり）

■主婦パートを続けて 40 年、この種のことはあまりに個人的でありましたが、私の子どもたちには、受け入れられています。世代が変わり、個人の感性が社会生活を築く家庭に反映されるのではないでしょうか。個人からまちづくりへとは、大きな課題ですね。参加できる事例をもって、導いてください。

■これからは男女はお互いを尊重し合い、法律によらない男女共同参加の社会を目指す必要があります。まず、地域での改善が必要です。ただ、戦後強くなったのは、女&靴下に代表されるように、昔と比べれば雲泥の差で、自分の家庭を見れば財布を握られ、地位は下がり、少しもいいことがないです。晩婚化、シングルマザー、少子化が進み、これからは外国人の移民も増え、多民族国家になるゆえ、むずかしいと思います。

＜男女共同参画に対する意識（改革）＞

（男女共同参画とは何かよくわからない）

■正直なところ、深く考えたことがありませんでした。今回のアンケートに答えるにあたり考えさせられ、これから、私や子どもたちが職に就いたり、介護の必要性が出てきたりすることがあるかと思います。そのときに慌てないために、子どもたちにも今から少しずつ考えてもらう機会を作っていきたいと思いました。

■今回のアンケートで、男女共同参画をテーマとして受けた時、質問の選択肢を選ぶのに困惑しました。十分に質問の意味が理解できぬまま解答したことを申し訳なく思っています。

（男女共同参画への意識付けを）

■若い男性は、家事などできる方が増えているとは感じます。結婚するとなぜ男性は手伝いをしないのか？付き合いは、男も女も同じで…。中年（30 才～）の方々の意識改善を望みたいです。

■うちのあたりでは、合併前の町の考え方そのものが、特に高齢者や高齢の女性などの間でまかり通っています。高齢の女性が「女のくせに…」「嫁のくせに…」とよく言うのを耳にします。「男が優先」という昔の考え方の人がたくさんいるようなので、中高年の人たちの意識が変わらない限り期待できないと思うのですが…。

■法律上、男女平等になっていても、実際は男女平等ではないし、昔からある「男は働き、女は育児、家事をする」という考えがなくならない限り、男女平等にはならないでしょう。育児休暇や介護休暇が充実してきたとはいえ、まだまだ休暇を取りづらい環境にあるし、休暇を終え職場復帰しても自分の居場所がないことも多く、まず休暇の取りやすい環境になればと考えます。また仕事と家事のバランスのとれた生活（ワークライフバランス）が送れるような環境、家事、育児を夫と妻で分業することが、各世帯、夫婦にもとめられるだろうと思います。男女共同参画社会のことを伝え、知ってもらうために活動していただきたいです。

■この調査を記入するにあたりまして、思いましたことは１つを選ぶむずかしさです。自分の気持ちが充分に表せるとは思えませんが記入いたしました。「男女共同参画社会」とか「ジェンダー」という言葉は随分前から見聞きしておりました。しかし、女性がそれを声高に言っても、

また集まりをもっても男性の参加は非常に少ないと感じました。現在はどうなのでしょうか。男女の権利は平等であると思いますが、職場や家庭での意識は低いようです。いささか過剰反応と思えることもありますが、セクシュアル・ハラスメントもまだあるでしょう。私（女性）も、68 才なので「男らしく、女らしく」の時代ではありました。学生時代、剣道部に入りたいと言ったら男性教師に「女の子は生け花でもやっていなさい」と言われました。今はどうでしょう、スポーツ界でも女性の活躍は目覚ましいものがあります。開かれてはきています。男女とも学校でも家庭でも、教育です、その意識を育てることです。

■意識の改革が必要なので、新しい風（県外、国外）を入れる、文化を越えて、生活環境の違う人と交流を増やし、特に海外からの駐在家族などと、コミュニケーションを作る、すべての人にそのような場が提供されるべきです。

■女性の意識が変わり、男性が普通に女性の変化や過程の変化を受け入れられるようになっていけばいいと思います。男だ女だとこだわっていても仕方がないことに、皆が気づいて意識が変わっていければ、もっといいと思っています。

（男女の性差の尊重、男女共同参画はそれから）

■社会に出て働きたいと思う女性をサポートできたらいいと思います。人材育成したり、条例を決めるなどして、なにがなんでも女性を社会に入れるんだというやり方は少し違うような気がします。

■男女に関係なく、男女の特性を認め合い、夫婦、子ども、親…コミュニケーションを取り、お互いに幸を分ち合う仲になってほしいです。

■動物の中では男（オス）の方が強いことになっているので、男は譲る気持ちがないと何事も上手くいきません。平等はない！なぜなら男の作った法律だから。頭で勝負できる職場以外はそんなことはありえない。男に都合のいい世の中になっています。

■男女の区別は必要だとは思いますが、女性であるがゆえに不利な立場にならないよう目配りが必要だと思います。

■今は平等になっていると思います。これからはその人にあった社会への参加が必要かと思います。

（現実と計画のギャップ）

■中小企業では、結婚、出産、子育てなどで、退職、長期休暇を取ることが分かっている女性の昇格などに差が出る（責任ある立場に置けない）ことを理解してほしいです。また、女性は社会的責任より、感情を優先させることも多く見受けられ、人権その他の権限を認めることに会社は消極的になってしまうのも事実。家庭では、子どもにとって、父親は遊び相手だが、安心感は母親に求めるなど、単純に代わりにはなれず、それを無視すると、子どもの教育上、好ましくないものもあり、女性が男女同様の労働時間で勤務することはどうかと思います。男性が家にいればよいというものではないと思います。女性と男性を全く同等に扱うことはかえってひずみが生じる可能性もあり、それなりのバランスを持って運用・制度作りをしてほしいです。

■最近、新聞やテレビで DV の情報を随分耳にします。でも、現在では女性にもとても強くわがままなところがたくさんあると思います。世間は、女性だけが DV を受けていて、支援に

協力する相談所などが動いているようですが、私は決して男だけが悪いとは思いません。今の女性の強さ、女の子の親の甘さ、言葉の強さ、わがままは相当のものだと思います。女性から男性への DV という例外もあるということを知らせるべきだと思います。今の若い男性は女性にも随分協力している人もたくさん見かけます。

■このような取り組みは、これからも推進してほしいと思います。しかし、どちらかというと、男性の意識改革が主となっており、女性の意識改革も求めるような提言も、きちんとしていただきたいと思います。私の会社でも、このような取り組みが始まりましたが、仕事へ取り組む姿勢は、男性の方がはるかにしっかりしています。女性は地位向上を都合のいいように解釈し、使い分けているような感じがすることが、再々あります。いずれにしても、これからきちんとされていくことだと思いますので、男女共同参画社会の実現へ向け、社会全体で取り組んで行きましょう。

■共同参画社会に向かい、色々な意識づくりはいいのですが、どれだけの男女が理解し、実現にしたいとの意識を持ちたいと思うでしょうか。今の不平等現実はあたりまえと思っている考えが根深いと思われます。また、同性として、それに甘んじている女性も多いと感じます。実現するのは大変なことだと思うのですが頑張って下さい。私の職場環境ではきっと無理な話なので。正直、あきらめてしまいます。

■個人的には、この実現には協力したいですが、会社を経営している人たちには、何のメリットもないような気がします。会社経営抜きのことなら現実が充分可能と思います。この男女共同参画社会の実現に向けて、担当の方々頑張ってください。私が担当であったら、まず実名でアンケートに答えてもらいます。個人情報ですって、そんなこと考えてたら実現まで100 年たっても無理です。本当に実現したいのなら、勇気を持って行動願います。

＜あらゆる分野での男女共同参画＞

（育児・介護と仕事とが両立できる社会を）

■子育て、介護など女性が働きながらできる社会づくりを希望します。現在、働いている職場は女性が多いため、男女の差はあまり感じられませんが、子育てしながら家庭との両立は困難で大変な思いをしている人がたくさんいます。

■男女共同という言葉さえも受け入れようとしない 60 才代…。男は社会に出て働き稼ぐから偉い…という意識は、しっかりと染み込んでいて、今更修正できない。これは、もっと小さいうちから教えないとダメで、現代は、家事は女性がやるという時代ではない。なぜならば、女性も仕事を持って働かざるを得ない時代だから、時間的、体力的にも家事を分担した方がよく、それには、夫婦が良く話し合い、理解する努力が必要です。特に、子どもがいる場合は、教育方針、しつけが一致していることが望ましい。会社なども、いくら法律などで決めてあっても、実際に取得できない状態のようです。子育ては、これからの日本を担う人材を育てていることで、もっと働きながらも健全な子育てができる社会を望んでいます。

■私は 30 年前に育児休暇を 3 年間取得しました。子どもの成長をともに過ごせてよい思い出となっています。職場環境に恵まれていたと思いますが、そのようなことが当たり前の時代になってくれれば嬉しいです。

■結婚して子どもができても、働きやすい環境づくりを充実させてほしいです。子育てしながらだと、時間が限られていて、なかなか希望する時間内で働ける場所がないのですが、少しでも働きたいという気持ちがあります。

（女性に活躍の機会を）

■男女共同参画社会をつくるために市のすべきこととして、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」が大切です。市会議員や市役所、その他色々な職場にもっと魅力ある女性を採用することも必要です。

■いまだに男尊女卑の風潮が社会には色濃く残っています。女性の特質を活かした配置転換をするべきです。団塊世代の人材を雇用した寺子屋やイクジイで子どもたちが安全に安心して過ごせるようにお手伝いしていただけると、とても助けになると思います。

■これから社会に出て行く立場の人間としては、女性だけでなく男性にも目を向けて、両方が住みやすく働きやすい環境を整えていってほしいと思います。

（男女平等とは）

■平等とはどういうことなのかを共によく理解し、互いを尊重し合うことがはじめの一歩ではないかと思います。そこから、公平、公正、平等が育っていくのではないかと思います。

■男女共同参画とうたわれ、すべてが平等であるべきと思っている人も多いようですが、それぞれの性格、能力、家庭の事情も違い、社会的環境、世界的動向も変わるなか、男女共同参画の合言葉の中で何かを忘れ、大切なものを失ってる部分もないでしょうか。男性、女性の持って生まれた原理、原則もあり、結婚も出産も忘れるような社会環境の方向性には今後の日本の発展も期待できないのではないでしょうか。

■いくつかの設問にでてきた「優遇されている」という言葉について、意味の考えかたで、回答が変わってしまうのではないかと感じました。たとえば、職場においては、幹部クラスに多い男性の方が「優遇されている」のか、育児休暇を取りやすい女性のほうが「優遇されている」のかなど、考えながらとても難しく感じました。

■欧米に比べ、日本は遅れています。しかし、自分の周りを見ると少しずつ、女性の社会進出は進んでいます。意識改革、制度改革を着実に進めることが必要と思います。

＜男女が安心して健康に暮らせるまちづくり＞

（高齢者向け福祉･医療の充実）

■ますます高齢化が進み、介護施設の充実（男女共同参画型）や集合施設の公共化（老人ホーム）などに期待します。下野市（3町）地域活動の一元化などについても極め細やかな行政をお願いいたします。

■誰もが働きやすい環境を作るために、介護サービス、施設、保育施設を充実させてほしいです。また介護、育児休業を取りやすいよう、社会全体の理解が得られるよう、みんなで頑張っていかなければならないと思います。あと、病気を抱えている方への理解、思いやりに欠けている気がします。身体障害者の方（１、２級）への支援はされていますが、その他の方（障害者２級以下、特定疾患を抱えている方）の支援が足りない気がします。障害者手帳の級が低かったり、特定疾患を抱えているというだけで社会からはじかれることも多いと思います。

健常者の方と同じように生活が送れていても「リスクが高い」というだけで社会からはじかれていたら、その方は生きていくことも困難になります。その辺のことも含め周りが理解し、誰もが働きやすい生活をより送りやすくなるようサポートしていただきたいと思います。

（地域及び家庭の和、コミュニケーションを）

■みんな心は一つです。平和な下野市でいてほしいです。

■みんなが平等に暮らせる社会になればいいなと思いました。

■若い人が根付く、益々発展するような石橋にしてほしいです。結婚をしてない 40 代の人がまわりに多くいます。町をあげてお見合いとか、出会いの場を提案したらどうでしょうか。子どもがいない、老人の町になるような気がしてなりません。

■女性が働かないで家にいて子どもの教育、家庭を守ればそれにこしたことはないと思うが、現実、今の社会はそうはいかないのでしょう。生活していくだけでも大変な時代、個々に夢もあり希望もある、となるとそれを叶えるため、夫婦共稼ぎということになり、家を持ちたい、子どもも教育したい、車、旅行など々…。かといって束縛は嫌だから親とは一緒に住みたくない。一度は同居しても何かもめ事があるとすぐ家を出て行くか離婚である。このような社会的現象が有る昨今なので、嫌でも夫婦二人で働かなきゃ生活できない。自分たちの夢を叶えるためだからそれもいいのでは。世の中変わったのだから。それなりの社会作りに目を向けていってほしい。終戦後団魂の世代だけで貧乏性は終わってほしい。願わくば少しでも心にゆとりのある社会、世の中になってほしい！！

＜その他＞

（市の行政全般について）

■ふれあい館もプールがだめなので、はやく直せば、ふれあい館にも人が来ます。山もそのままにしないで、何か作らないとゴミ捨て場になります。子ども、大人、皆で使える運動場を作ってもらいたいです。

■生まれは栃木県ではありません。仕事をしながら一人生活をしております。何年前か、亡くなった主人の供養をしていただきたくて、お願いしたところ、檀家に入ってないので、できませんと断わられました。土地が変われば、こんな冷たいお寺もあるんですね。ある程度の年齢になったら、故郷に帰る予定です。一生、この苦い言葉をわすれないでしょう。

■高齢者に対する福祉が毎年に後退していくのに怒りを覚えます。下野市などにならなければよかったと毎日思います。下野市という名前も嫌いです。せめて国分寺市とすればよかった。こんな市名をつけた人の知性を疑います。小金井駅前のさびれ方を市長さんに見てほしいと思う。つまらない公共事業に金を使い過ぎたと思います。私どもを含めて下層階級に生きる人間の気持ちを考えて政治をしてほしいです。民生委員がこの町にいるのでしょうか。高齢な私どものところに一度も来たことがありません。市の広報紙も見たことがありません。回覧板も見たことがありません。私どもが納めたささやかな税金はどこへ行ったのでしょう。市から何の恩恵も受けたことがありません。

■家計が苦しく自治会費を納めていませんが、その場合、広報紙はいただけないのでしょうか。地域のことが何も分からず困る時があります。税金はきちんと納めています。

■77 才女性です。石橋から国分寺に足を運ぶのは大変なので、近くできらら館、体育館などで皆ができるグーパー体操などを行ったらいいと思います。今のところ、どこも悪くなく、子どもたちもよき家庭を持ち、自分の健康に気を付けて若い方たちに迷惑をかけたくないと思っています。

■市民と行政の信頼関係を充実させることが重要だと思います。

■70 歳になったら、世帯主でも税金を免除してほしい。お願いします。

■竹やぶや雑草の放置に非常に迷惑しています。こういった場所が多いので、ゴミのポイ捨ても多く、そばにタバコの吸殻が落ちていたり、伸びたり、倒れたりした枝が電線に引っかかっていたり非常に危険です。強制的にでも管理を徹底してほしいです。

■男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりなんてことを市がやっていることすら知りませんでした。今、どういう状況で、何をどうできたら男女共同参画社会のまちづくりが達成されたと言えるのでしょう。

■提案（夢のまた夢）全国一の大婦人会館の設置。ＪＲ駅近くに地下２階、地上 20 階、新技術を結集した世界的にも注目される大施設（宿泊棟を含む）を建設し、全国市町村の婦人団体研修などを一手に引き受け、その運営内容には無限の夢がありますが、もうその頃には、私はこの世にいないでしょう。

■防災無線は、いったい何世帯の方々が聞き取っているのか、あまりにも設置が少なく、予想される災害に備えて、難聴地区解消すべきです。

（アンケートについて）

■質問内容が子育て、就労世代に対する物が多過ぎです。高齢者でも元気一杯の人が多く、男女共同参画プランは、ライフステージ全般に視野を広げるべき時代ではないでしょうか。

■年齢別に質問を変えないと意味がないと思う。

■設問が基本的に「夫婦」に向けたものになっているので、とても答えづらかったです。しかしこのような意識調査をしようとしていること自体はとてもいいことだと思います。

■こうしたことに血税を使用するのは無駄と思います。

■市が何をやっているのかもほとんど周知されていないのに、一体何をするつもりでいるのか意味不明なアンケートでした。こんな紙に税金をかけるくらいなら、もう少しまともな人を子どもの検診に置いたらどうでしょう？お金と紙のムダ。検診にいる保健婦の質の悪さはホントに驚きます。一度すべての母親にアンケートしてみたらどうですか？私の周りはみんな怒ってますよ。

■男女平等と DV と似ているが、全く異なる対策が必要な問題を１つのアンケートで論じるとは、行政の方の認識を改めてはいかがでしょうか？がっかりです。

■年齢別に質問事項を変えないと意味がないと思います。

■市民意識調査アンケートを取って、何か変わりがあるのかと不信に思います。

（市役所の職員について）

■男女共同参画社会の実現とは男性を引き立たせるためのものになる時代が来ます。ガンバレ下野市。

■職員の皆様の努力、私たちに対する態度、いつも感謝です。

■市民の声をもっと聞き入れて頂きたいですね。職員の皆さんが、足をのばして市の状況を把握して頂きたい。3 月 11 日の震災の日、市は全体停電、断水になったと思いますが、防災無線が使えなかったとしても、車などで巡回しながら何か市民に対して放送するなどすべきではないのかと思いました。対策本部設置や対応に追われていたと思いますが、そういう配慮があってもよかったですよね。多くの市民が同じ意見を持っていると思いますよ。

（８）その他の回答集

問 4　その他の家族

- 母（90 代との２世代）
- 親、子、孫、子の兄弟
- 兄夫婦と同居
- 親と子２人
- 夫婦と子
- 夫婦＋義父
- 夫婦と子の３人暮らし
- 姉
- ４世代
- 私、子ども夫婦、孫夫婦、ひ孫３人　計８名
- 妹
- 友人
- ４世代
- 両親
- 夫婦、息子
- ４世代
- 親、兄弟、祖母
- 親子三人
- 夫婦と長男
- 夫婦と子ども１人
- 同棲
- 寮生活
- 夫婦と娘
- 夫婦、次女、長女夫婦、孫
- 子孫
- 親と兄弟
- 老健施設
- 友人と同居

問 6　その他の職業

- 農業手伝い
- 自宅にて書道教室の先生をしている
- 以前勤務していた会社に年３～４ヵ月程度働いたことがある
- 年金
- 農業
- 契約社員
- 内職
- 勤め人(非常勤)
- シルバー人材センター
- 年金暮らしです。
- 管理栄養士
- 会社役員
- 農業
- 農業
- 農業
- シルバー人材に登録
- 内職
- 常勤(育休中)
- 外交員
- 会社役員
- 非常勤（週４日）
- 医師

問 7-1a　その他の働いている理由

- 女性の年金では食べられない。自立を持って農業しています。
- 70 歳以上のため
- 趣味の講座を持って教えている。
- 健康のため
- 健康のため
- 離婚した時困らないように
- 高齢のため
- 子どもの教育費
- 実家の父が亡くなった後をついだため。
- シルバーの仕事です
- 社会的な体裁を保つため
- 役員である
- 子どもの教育費のため
- 夫をあてにできないため
- 健康になるため体を動かす。
- 学費の支払い
- 動物が好きなので牛の世話をしています。楽しいです。
- 健康維持

- 近い将来、自分の店を持つため。
- 年金だけでは生活できないから。
- 内職
- 辞められない（医局からの圧力）

問 7-2　その他の働いていない理由

- 学生だから
- 学生だから
- 定年退職後、年金でなんとか暮らしていけるし、趣味に魅力があるから。
- 高齢で就労できる仕事がなく年金で夫婦が生活が維持できるから。
- 病気のため。高齢者であるため。
- 対人恐怖
- 高齢者だから
- ５．６年前仕事探したが年のせいかダメでした
- 子どもを預ける施設がない
- 雇ってくれる会社ない
- 現在入院中自分が病気で寝たきりのため
- 定年退職
- 障害者なので体力的に働くのが無理
- 退職したいから
- 学校に通っているから
- 主人の年金で食べているから
- 高齢により仕事なし
- 高齢のため 81 歳
- 高齢のため働けない
- 年齢的に外で働く所が無い
- 年齢
- 専業主婦だから
- 学生だから
- 高齢だから
- 高齢だから
- 病気のため（リウマチ）
- 学生だから
- 病気療養中
- 20 年前に定年退職
- 何度か面接を受けたが年齢不問というもののやはり若い人が採用される。
- 腰痛のため
- 持病がある
- 年齢的に仕事は無理
- 高齢だから
- 年金暮らし
- 高齢でできる仕事がない。
- 血圧の薬を飲んでいるため(めまいがする)
- 年金生活
- 高齢で仕事はない。経済的には楽ではないが、これが自分の人生だと思っている。
- 子どもの面倒を安心してみてくれる所がないので。
- 老齢なので
- 高齢者(82 才)
- 自分の体が悪いから
- 高齢のため
- 年齢的に働き場が無いです
- 高齢と生活保護を受けています
- 毎日運動と野菜畑で楽しんでいる。4 ケ月で 80 歳になる。
- 老齢
- 23 年 2 月までパートをしていた。年齢と体力
- 70 歳共済年金受給者
- 年齢的にもう働くのは無理
- 高齢なので
- 自分が入院して今療養中
- 今のところ子育てを大切にしたいから
- 年齢的に職が見つからない
- まだ学生のため
- 老齢
- 高齢なのでできません。
- 80 才以上で病気
- 高齢により年金生活者だから
- 年金暮らし、親の介護。
- 右半身麻痺リハビリ中
- 仕事はしたいが年齢的に仕事がない。
- 年令的に体力が続かない。
- 仕事が減ってしまって声がかからない。
- 高齢のため

- 夫の介護のため
- 高齢で働けない。
- 高齢者のため
- 老人で体も弱い
- 学生だから、働く必要が無い。
- 年齢的に働く所が無い
- 学生だから
- 高齢のため、決まった仕事はしてないが留守番やできる家事は行っている
- 60 歳迄フルタイムで働いてきた。もう充分働いたから
- 年齢的に無理だから
- 年齢的なこと
- 仕事中に子どもが病気になった時、すぐに子どもを預けられる（見てもらえる）人が近くに居ない。
- 年金で生活している
- 年齢的に仕事がない
- 年齢的に自身 70 才目の前です。
- 高齢だから。(私)近く 82 歳、(妻)近く 89 歳
- 定年になったので
- 私は主人が他界して自分の母親 90 才、孫女 3 才の子どもをみています。
- 老齢のため(現在 81 才 10 ヵ月)
- 退職者
- 学生
- 定年退職
- 高齢で仕事は無理
- 身体的に疲れてきた。自由時間が欲しい。
- 就職活動をしているが、希望の仕事に進めないから。
- 働く年令ではない。
- 病気
- 高齢のため。
- 隅々まで掃除をするのが好きです。
- 高年齢
- 引っ越して来たばかりで、何かと忙しい。
- 大学に通っているため
- 大学生
- 定年につき仕事が無い
- 2011.7.1 より無職。2011.10.1 より働き始める予定。
- 入所
- 年齢的
- 前期高齢どうにか生活していけるから
- 年金生活です

問 8　その他の女性が仕事を持つことについて

- 個人の自由
- 本人が決めるとよい。
- 一つの選択肢を選ぶことは難しい。③が理想であるが専門職で立場が異なると思うから⑤を望む場合もある。
- 家庭の事情や個人の自由だと思う。
- 生きるため、働きます。
- 好きにすればよい。
- どちらでも良い。
- 家庭の実状に合わせて
- 産休がもらえる職場ならやめなくてもすむと思う。
- 男女問わず「○○した方が良い」という考えを持たない
- 一生はたらけるならそれに越したことは無い
- 子どもができたら、仕事をやめた方が良いと思うが、今の世の中では、再び仕事をすることが難しいのでは？
- 人それぞれ
- それぞれの立場で異なると思うので一概に言えない
- 時間的に余裕があれば結婚し子どもができ、子育てしながらでも仕事を持つことができると思う。是非そうしたいと思う。
- ケースバイケースによると思う
- 農業だったら仕事は続けられる
- 本人が生きていける範囲で自由にしたらいいと思う。男女問わず。
- その時々の状況や環境に左右されることもあるので決められないが仕事はしていた方が良

いと思う。
- 子どもの許可があってから仕事を持った。
- 一人一人夫婦の話し合いで決めてもいいと思う。
- 結婚や子育ては女性だけの問題じゃない。男性も有給や公休を積極的に使い女性も子育てしながらでも働きやすい環境を作るべきだと思います。
- 本人と配偶者の状況次第でかわると思う。
- 働ける条件のあう人、働く意欲のある人は働くべき。
- 子どもがいる間は時間短縮して働いた方が良い。
- 自由
- 人それぞれなので家庭にあったことをした方がいい。
- 家庭ごとの環境や本人の価値観にもよるので、一概に良いとも悪いとも言えない。
- その人に合った仕事を持てばよい（家庭を含め）
- 経済的に余裕があれば働く必要はないと思います。
- 人それぞれだと思います
- 仕事を持つ（続ける）かどうかは個人の自由である。
- 家にいるより外に出て働いた方がよい
- 一概には言えない。その人地震の考え方次第だと思う。
- 本人が決めること。環境により必要ならば働けばいい。
- 子どもを見てくださる方があるなら仕事をしたほうがよい。
- 家庭環境により仕事をすることもよいと思う。
- 女性の自由
- 一概には言えない。その時の状況によりかわると思う。
- ケースバイケース
- 子どもが最低でも３～４才になるまで子育てに専念した方がいい。子どもも可哀想であると共に子育ての苦しみ、喜びも体感した方が後々役立つと思う。
- ”方がよい”というのは押し付け。人それぞれの人生があると思う。上のどれも良いと思うし、その他の在り方もあるだろう。
- 環境(条件)が良いのなら、ずっとフルタイムで続けた方が良い。
- 個人の考え方に任せるので回答はありません。
- 個人の資質や生活状況を考えて仕事をする、しないを決めるべき
- 女性本人の意思によると思う
- ケースバイケースです。ひとくくりにはできかねます。
- 自分は子どもを持とうと思ってないので、他の人はそれぞれの考えで仕事を続けるなりやめるなりしたらいい。
- どれが良いかは個々によると思う
- 人それぞれでいいと思う
- ～がよいではなく、持っていて良い
- 本人の自由でよい
- 環境にもよる
- 本人の自由でよい
- 好きにしたらいいと思う
- 人によると思う
- 人それぞれに人生観が違うので決め付けるのはいかがな物か。
- その人にあった選択でよいと思う。
- 子どもができたら育休やフレックスを利用すれば良い
- 自営業は１～６あてはまらない
- 子どもが成人(働き始めるまで)になるまでパートでも何でも働く方が良い。
- ３と４の間４だが子育てが一段落したらまたフルタイムで。
- 持ちたければ持てば良いと思う。
- 仕事を続けるのが望ましいが、子どもが生まれてからの環境によって、臨機応変に対応すべきと思う。
- 可能な限り⑥

- 仕事をする、しない、仕事をする次期等、本人の意志次第と考えている。～の方が良い、悪いという考え方はしない。
- 家庭の経済状態や環境で色々な形があって良いと思う。
- 個人個人の問題。家族の理解が必要。
- 仕事をするしないは、人それぞれの事情で決めればいい。
- 個人の考えと、家庭の事情で判断。
- 個人の生き方に沿って、自由に選べれば、仕事をすべき。
- 子どもができても、辞めなくてもいいように、国、県など条例でサポートして欲しい。
- 本人の気持ちを尊重する。
- 男女関係なく、その家族に会った形で仕事をするべき。
- フルタイムで仕事ができる環境であれば、子どもがいても仕事を続ける方がよい
- 環境次第で仕事は続ける
- それぞれの考え方でよいと思う
- 各人の事情により選べる。
- 個人の希望により、どちらでも良いと思う。
- 子どもができたら協力してくれる人を見つけられたら仕事を続けてよい。
- 女性に限らず人はみな体を常に動かした方が良い。
- 女性でも１人で生活できるような資格免許をとり一生働けるようにする。
- 働きたい人は働けばいい

問 9　その他の女性が職場で能力を発揮するために重要なこと

- 本人の心掛け
- そもそも教育の段階で間違っている。女性も働くことが当たり前なんだという教育をしていれば女性も多くの人が働くと思う。そうすれば女性も資格や教育をしっかり勉強できて今まで男性しか取得できなかった資格なども取りやすくなる。
- 個々の問題
- 好きなことをすると良いと思う。
- 適性に合ったやりがいのある仕事を見つけるのを手助けする環境。
- 保育施設、病児保育等の徹底
- ケースバイケース
- 女性のことを認める職場の雰囲気
- 医師なので外科系より内科系の方がよい
- 体力面をカバーするため、何かを持つこと。
- 自分自身の努力と周囲の理解とサポート
- 家庭と(育児)仕事の両立は無理。両立は才能と育児関係に整いのある人のみ。
- 子どもを出産しても、一旦退職しても、戻れる職場。
- 女性の良い特性を活かしたシステムが必要。
- それぞれ違うと思う
- 男女とも意識改革の研修

問 14　その他の男性女性ともにさまざまな活動に積極的に参加するために重要なこと

- 気持ちの問題
- 賃金の安定
- 子育て支援などを充実させれば心に余裕ができて参加しやすいと思う。例えば地域活動に参加するともらえるクーポンや割引券など、これは介護などにも使えると思います。
- 私の勤務している会社の体質は、仕事優先しか考えておらず、民と官では、大きな差があるのが現実であり、この問 14 に関しては夢物語と思う。法的に民を規制できない限り、何も変わらず答える気にもなりません。22 世紀には１のようになればいいですね。
- 本当の意味での男女平等法的措置への施行
- 積極的な参加を認める世間の風潮
- 社会制度、会社内制度
- 地域活動に積極的に参加する必要はない。他人に迷惑をかけないという基本を忘れないこと。
- 女性の働く機会増加、賃金上昇
- まずは法的に整理しなければならない

問 18　その他のドメスティック・バイオレンスの相談窓口について

- ＤＶと無関係のため
- 広報紙
- 市や県であるのは知っている
- あまり利用してないので、すべては分からない。
- 弁護士
- 現実に無かったので詳しいことは知らなかった
- 場所は知らないが、あることは知っている。
- あることは知っているが具体的には知らない。
- あることは知っているが、どんな窓口があるかは知らない。
- 「あるだろう」という認識。
- あることは知っているが、きちんとした名称が不明。
- 多分１～６まで可能

問 19　その他の身近なドメスティック・バイオレンスについて

- 全くない
- 暴言
- 相談で無く報告的に聞かされる
- 外傷患者を治療して所見から判断した。
- 身近ではないが問い 17 の項目、カ）働きに行かせないにあてはまる話を聞いたことがある。

問 21　受けたドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった理由

- 両親の目の前で起きたので未然に防げたから。
- 50 年前位毎日暴力を受け別れた
- 恥ずかしいことと思います。第三者に知られたくない。
- 話すとラクになる
- 親なので問題にしたくなかったから
- 家庭内のことを他人に知られたくない
- たいした問題ではない
- 相談できる窓口は知らずに肉親、友達には心配掛けたくなかったから
- もし誰かに話すと、もっとひどくなることが分かるから。
- 他人には言いたくない。我慢した。
- 心配かけたくなかった（親、兄弟や友達に）
- 心配をかけたくないし、相談した所で解決（改善）されるとは思わなかった。
- 自分にも非があったと思ったから。
- ＤＶではないと思った。自分が悪いと言われる。
- あまり気にしなかった。
- いつも気持ちが１人であった。
- 言っても仕方ないと思う
- 自分で我慢すれば解決できると思うし、相手の信頼性を重視してあげたい。
- 日本語を使わないと適切な解答できない。
- 自分より子どものことを考えたから。
- 誰にも言わないが、自分で解決できるから。
- 介護が必要な実母が同居していたため、実母と私自身のため誰にも話せなかった。
- 「働きに行かせない」ことがＤＶだとは知らなかった。
- 相談すると誰かに話されてしまうと思うので相談員、相談所が信用できない。親兄弟には恥ずかしい。迷惑をかけるので言えない。
- 自信がなかった。
- ケースバイケースで処理できると思った。相手の認識が薄い。
- 家庭内の問題で解決。
- 恥ずかしくて打ち明けられなかった

問 22　その他のドメスティック・バイオレンスの相談先

- したことがない

問 23　その他のドメスティック・バイオレンスを相談し解決したか

- 離婚した
- 結婚前のこと。当時はすぐ誰にも相談できない。

問 24　ドメスティック・バイオレンスの問題が解決しなかった理由

- DV を振るったもの、受けた物も当事者でないとわからない事情があるため、他者には分かってもらえないと思う。お互いの意識を変えるしかないと思われる。
- 家族に言ったことに対して後がこわい。以前よりも大変なことになる。
- 原因のわからない病気や怪我（人命におよぶ大きなものでも）みな、虐待にもかかわらず認めようとせず、かかわりたくないのか避けてしまい、被害者である人を精神科にまわし、つまり面倒になることを避けようとして人としてより医者のみに生かんとする人たちがほとんどで残念です。死にそうになっても、あっちの病院、こっちの病院とたらい回し、本当に辛く死ぬと思ったこともありました。
- 繰り返し行われているため
- 言葉の暴力を受けることがありますが、本人の機嫌が良くなるとなくなる・・・の繰り返しです。
- 性格上
- 相談しても話しを聞いてくれるだけで、何をどうしていいのか解決のアドバイスをしてもらえなかった。子どもがいて助けて欲しいのに。結果、うつ病になってしまって通院し薬を服用していた。
- 親に相談したが「どちらも悪いところがあったのだろう」と言うだけで流されてしまった。
- 生来の性格によるものだと諦めの境地。
- 相手と喧嘩の雰囲気になりたくない
- 我慢できる程度のものだから
- 家庭内だけでの問題であったため。
- 配偶者が相手を傷つけていると気づくことが大切。自分の所有物だと思っているから。講演や広報で知らせる。
- 勇気がなかった。
- 配偶者の意識が結局は変わらない。

問 25　その他のドメスティック・バイオレンスを防ぐための重要な取り組み

- 第三者（被害者の友人）の知識を定着させる。怖いのは、本人が「気づいていない」場合だと思う。身近な友人に「それおかしいでしょ」と言われなきゃ。
- 人はどうでもよい。自分さえ無事でよい生活ができるならといった人がこの市民のすべてじゃないですか。本当に恥ずかしい。どこか置き忘れ欠けてしまったことも気づかずといった今の下野市ではないんじゃないかしら？
- ３と思うが、加害者をもっと重い罪にするべき。
- 相談しても変わらない。
- ドメスティック・バイオレンスを受けて、恥ずかしいことと思わせない社会に教育する。そういう大人に育てないように親を教育。
- 自分が受けていることに気づいてないことが多い。気づかせるように情報を充実させてはどうか。

問 30　その他の市の実施する男女共同参画の事業で参加してみたいもの

- 男女どちらも一緒に参加しないと意味が無いと思う。
- １～４全て良いが、高齢者のため参加する大変である。
- 企業等に出向いて行うほうが良いのでは？
- 小山市文化会館などで講演会等実施して欲しい
- 市が実施する場合、誰を対象にするのかを明確にすべきだと思います。情報誌やパネル展、広報誌は、あまり効果は感じられません。男女共同参画という言葉自体が一般にはなじみにくい行政言葉ですよね！行政からの一方的な情報提供には、住民はあまり関心を示しません。
- 老齢のため外出は好まない
- なぜ今、男女共同参画なのか？根本がわからない。

問 31　その他の市に相談したいと思うこと

- 子どもの就活
- 就労に関すること。
- 若い世代の女性に対する健康管理
- 夫が障がいをもっている。将来が不安→相談したい
- 余りにも恵まれた生活保護者、受給者がプライバシーの保護によって、優遇されているのはなぜか（男女共同参画社会とは無関係かもしれませんが）
- 偏見に左右されず真の正義というもので社会を正していって欲しい。（めちゃめちゃになってしまったところを）
- 環境対策と取組
- 近所が空き地になっていて、そこの雑草が家の庭先まで入り込み、どうにもならない。毎週そこに除草剤をまかないとだめです。空き地の持ち主にきちんと管理させるよう、法律で示して欲しいです。
- 下野市はＨＰがあまり充実していない。わかりづらい。３つの庁舎の分担がさっぱり分かりません。
- 空地に雑草がのばなし。地主に強く申すべき。
- 地域の活動
- 育児と仕事の両立について。
- 現在の教育現場における子どもたちの状況や環境等について知りたいと思う。(発育障害を持つ子どもたちの状況等)
- 農村の女性がもっと外に出る活動の機会を作って欲しい。家族経営協定を充実させ、皆が生き生き暮らせる社会を願う。
- 住宅周辺の環境
- ゴミを朝から深夜まで燃やしている。家庭か企業か分からないけど。ダイオキシンの臭いがすごくて、窓も開けられない。洗濯物も外には干せない。馬の糞の臭いもすごいが、改善して欲しい。鳥が森１丁目
- 町の美化、管理

問 32　その他の男女共同参画社会に向けて市で力を入れて欲しいこと

- 諏訪山公民館などを利用して家に閉じこもっている。高齢者が交流できるように。例えば喫茶店でも営えるよう協力して欲しい。
- 行政に期待することはない
- 老人に色々手紙がきますが、もう少し意味が分かるように書いて欲しい。
- 何もしなくていい。
- 女性を優遇しすぎないように注意。真の男女平等を研究せよ。
- 他にやる事業に予算を回したほうが良い。

資　料

アンケート調査票

あなたの声をお聞かせください

下野市男女共同参画プラン市民意識調査

ご協力のお願い

日頃より市政についてご理解とご協力をいただきありがとうございます。

下野市では、現在、「下野市男女共同参画プラン」（計画期間：平成20年度～平成27年度）に基づいて、男女の自立と共同参画社会の実現に向けた施策を推進しているところです。

この調査は、市民のみなさまの男女共同参画に対するご意見等をお伺いし、プランの進捗状況を把握するために実施するものです。

調査の対象者は、市内にお住まいの18 歳以上の方から無作為に2,000人（男性1,000人、女性1,000人）を抽出させていただいております。

調査結果はすべて統計的に処理いたしますので、お答えいただいたみなさまにご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成23年9月

下野市長　広 瀬 寿 雄

＊＊　ご記入にあたってのお願い　＊＊

○　あて名のご本人がお答えください。
（ご高齢などで、ご本人が記入できない場合は、介護者の方がご本人のご意見を代筆していただいても結構です。）

○ 住所・氏名の記入は必要ありません。

○ 回答は、あてはまる項目の番号に○を付けてください。
なお、「その他」を選んだ場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。

○　質問により、言葉・文章でご記入いただくものもありますので、各設問にお示しした
方法でご回答ください。

○　すべてご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、
平成23年9月20日(火)までにポストにご投函ください。

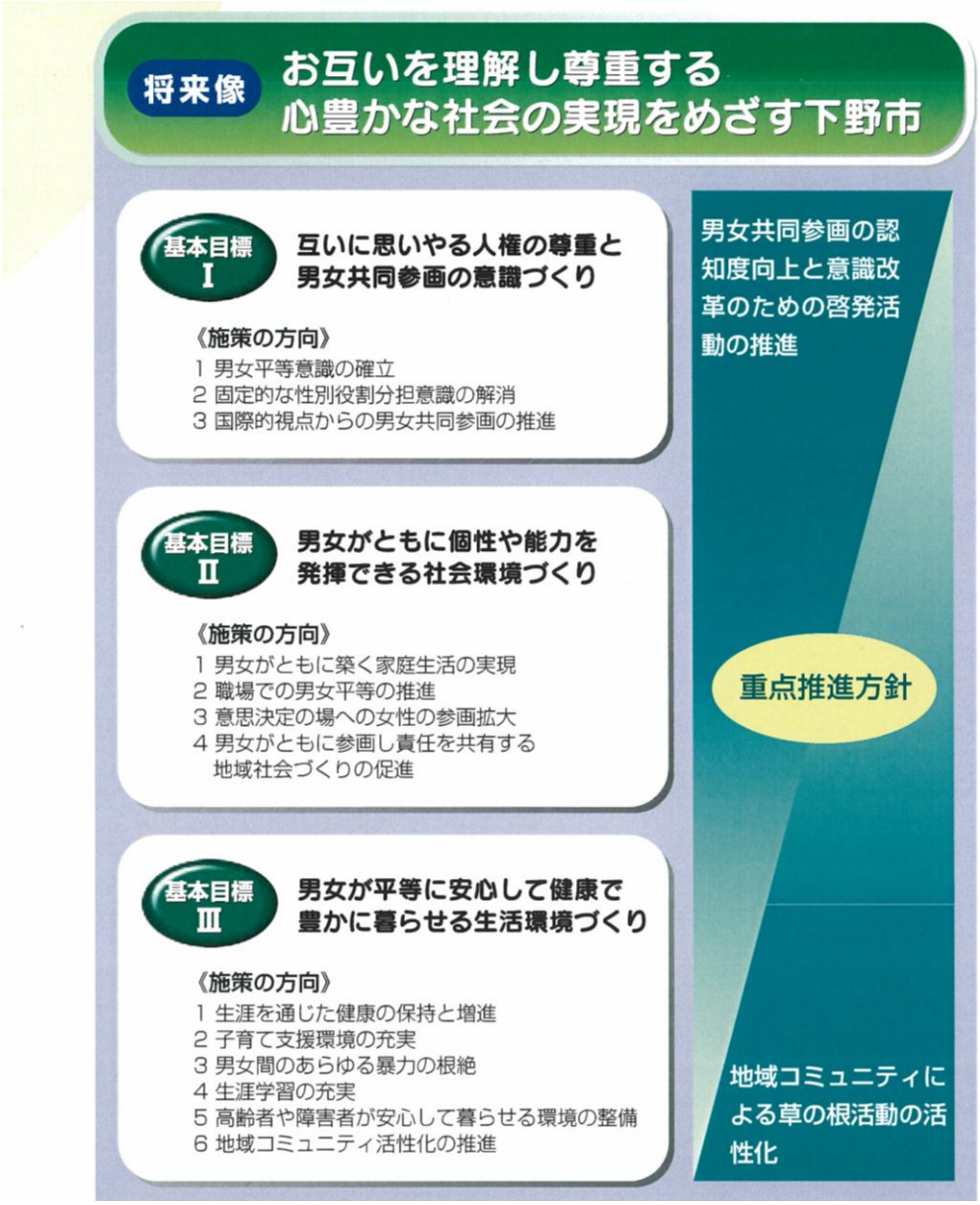
【調査についてのお問い合わせ先】
下野市 総合政策部 総合政策課 政策推進グループ
電話：0285-40-5550　FAX：0285-40-5572

■ 男女共同参画社会とは・・・？

「女性だから…、男性だから…」という理由だけで、自分がしたいことができなかったり、生き方が決めつけられたりすることはありませんか？

『男女共同参画社会』とは、男女が互いの能力や個性を認め合い理解し合いながら、喜びや責任を“わかちあう”ことで、幸せを実感できる社会のことです。

下野市では『下野市男女共同参画プラン～シェアリングしもつけ～』を策定し、将来像を達成するため、基本目標の下で、さまざまな施策を実施しています。



プランでは、市民のみなさん一人ひとりが意識を高める努力をし、さらに行動に移してみることを応援していきます。

あなた自身のことについておたずねします

問1　あなたの性別をお答えください。

1. 男性　　2. 女性

問2　あなたの年齢をお答えください。

1. 29歳以下　　2. 30歳代　　3. 40歳代
4. 50歳代　　5. 60歳代　　6. 70歳以上

問3　あなたは結婚していますか。

1. 結婚している　　2. 結婚していない
3. 結婚していたが離別・死別した

問4　あなたの家族構成についてお答えください。

1. ひとり暮らし（単身世帯）　　2. 夫婦だけ（1世代世帯）　　3. 親と子（2世代世帯）
4. 親と子と孫（3世代世帯）　　5. その他（　　）

問5　あなたは子どもがいらっしゃいますか。

1. 子どもがいる　　2. 子どもはいない

問6　あなたの職業をお答えください。

1. 勤め人（常勤）　　2. 自営業・家業　　3.　パート・アルバイト
4. 学生　　5. 専業主婦（夫）　　6. 無職
7. その他（　　）

仕事についておたずねします

問7　あなたは現在、何らかの仕事をしていますか。

※病気や出産、育児などで現在一時休業している場合も、仕事をしているものとしてお答えください。

1. 仕事をしている　　2. 仕事をしていない

↓ 問7-1a にお進みください。

↓ 問7-2にお進みください。

問7-1a　あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

1. 生計を維持するため
2. 家計の足しにするため
3. 借金の返済や将来に備えた貯蓄のため
4. 自分で自由に使えるお金を得るため
5. 生きがいを得るため
6. 人のネットワークを広げるため
7. 社会に貢献するため
8. 働くのが当然だから
9. 家業であるため
10. その他

具体的に

11. 特に理由はない

↓

4頁の「問7-1b」にお答えの上、
5頁の「問8」にお進みください。

問7-2　あなたが現在働いていないのは、どのような理由からですか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

1. 経済的に働く必要がないから
2. 家事の負担が大きいから
3. 育児の負担が大きいから
4. 親や病気の家族の世話をするため
5. 家にいるのが当然だから
6. 配偶者など家族が就労を望まないから
7. 希望の仕事が見つからないから
8. 社会に出たくないから
9. 時間的な余裕がないから
10. その他

具体的に

11. 特に理由はない

↓

5 頁の「問 8」にお進みください。

問７で「1. 仕事をしている」とお答えの方のみご回答ください。

問7-1b　あなたの職場では、男女の扱いが平等になっていると思いますか。
次の（ア）～（サ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

項　　目	1 女性の方が非常に優遇されている	2 どちらかと言えば女性の方が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかと言えば男性の方が優遇されている	5 男性の方が非常に優遇されている	6 どちらとも言えない
(ア) 募集や採用	1	2	3	4	5	6
(イ) 職務内容	1	2	3	4	5	6
(ウ) 賃金	1	2	3	4	5	6
(エ) 上司との関係	1	2	3	4	5	6
(オ) 人事考課・評価	1	2	3	4	5	6
(カ) 昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
(キ) 幹部職員への採用	1	2	3	4	5	6
(ク) 教育訓練・研修	1	2	3	4	5	6
(ケ) 福利厚生	1	2	3	4	5	6
(コ) 有給休暇の取得	1	2	3	4	5	6
(サ) 退職・解雇	1	2	3	4	5	6

ここからは、全員お答えください。

問8　一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどうお考えですか。
１つ選び、○を付けてください。

1. 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
2. 子どもができるまでは仕事を持つ方がよい
3. 子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
4. 子どもができたらパートなどに切り替える方がよい
5. 子どもができてもフルタイムで仕事を続ける方がよい
6. 女性は仕事を持たない方がよい
7. その他（具体的に　　）

問9　女性が職場で能力を発揮するためにどのようなことが最も重要だと思いますか。
１つ選び、○を付けてください。

1. 能力主義による人事管理
2. 女性の能力開発のための研修
3. 女性の部下を持つ上司に対する研修
4. 女性自らの技能・資格の取得
5. 男性の意識改革のための研修
6. 女性の意識改革のための研修
7. 仕事と家庭を両立させるための制度
8. 分からない
9. その他（具体的に　　）

生活全般についておたずねします

問10-1　あなたのご家庭では、以下にあげる日常生活は主にどなたの役割ですか。
次の（ア）～（セ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

項　　目	1 主に自分の役割	2 主に配偶者の役割	3 自分と配偶者で分担	4 主に自分と配偶者以外の家族（男性）の役割	5 主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割	6 家族全員で分担	7 家族以外の人	8 特に決まっていない	9 該当事項がない
(ア) 食事の準備	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(イ) 食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(ウ) 掃除	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(エ) 洗濯	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(オ) ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(カ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(キ) 高額な商品の購入	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(ク) 家計の管理	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(ケ) 預貯金などの管理	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(コ) 育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(サ) 子どもの教育方針（進学・習い事など）	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(シ) 家族の世話・介護	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(ス) 家具等の修理	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(セ) 地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問10-2　問10-1の（ア）～（セ）の項目のうち、「自分と配偶者で分担」または「家族全員で分担」が望ましいと思うものはどれですか。
最大５つまで選んで（　）の中の記号を記入してください。

→ [　] [　] [　] [　] [　]

問11　あなたは、子どもの育て方についてどのように思いますか。
あなたのお考えに最も近いものを１つ選び、○を付けてください。

※子どもがいらっしゃらない方、またすでに養育が終わられた方も、「子どもを育てるとしたら」としてお答えください。

1. 女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい
2. 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい
3. 男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい

問12　あなたは、子育てにおける父親と母親の役割の違いについてどうお考えですか。
１つ選び、○を付けてください。

1. 全く同じである
2. ほとんど変わらない
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば異なる
5. 全く異なる

問13　育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取ることについて、あなたはどうお考えですか。１つ選び、○を付けてください。

※現在取得する予定がない方も、将来取る必要が生じた場合としてお答えください。

1. 積極的に取りたい
2. どちらかと言うと取りたい
3. どちらとも言えない
4. 取りたいが、取れる環境にない
5. どちらかと言うと取りたくない
6. 取りたくない
7. 仕事をしていないので取る機会がない

問14　今後、男性も女性も共に、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことがもっとも重要だと思いますか。１つ選び、○を付けてください。

1. 労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す
2. 夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる
3. 男性が家事や育児等に関わることへの抵抗感をなくす
4. 男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り
5. 家族で参加できる、生活と仕事の両立を応援する講座
6. 家庭や地域での生活と仕事の両立の問題について相談できる窓口
7. その他（　　）
8. 特に必要なことはない

問15　あなたの現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。
１つ選び、○を付けてください。

1. 苦しい
2. やや苦しい
3. どちらとも言えない
4. ややゆとりがある
5. ゆとりがある

問16　あなたの現在の生活全般（家庭生活・仕事など）の満足感についてお聞かせください。
１つ選び、○を付けてください。

1. 大変満足
2. やや満足
3. ふつう
4. やや不満
5. 大変不満

男女の人権についておたずねします

問 17　あなたは次にあげる行為が、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力）にあたると知っていますか。
次の（ア）～（キ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

項　　目	1 DVだと知っている	2 DVだと知らなかった
(ｱ) 殴る、蹴る、物を投げつける	1	2
(ｲ) 殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す	1	2
(ｳ)「誰に食わせてもらっているんだ」などと言う	1	2
(ｴ) 避妊に協力しない	1	2
(ｵ) 生活費を渡さない	1	2
(ｶ) 働きに行かせない	1	2
(ｷ) 外出や電話を細かくチェックする	1	2

問18　あなたは、ドメスティック・バイオレンスについて、無料で相談できる窓口があることを知っていますか。
あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

1. とちぎ男女共同参画センター相談ルーム
2. あなたの相談室(栃木県警察本部)
3. 女性の人権ホットライン
4. 下野市健康福祉部児童福祉課(婦人相談・母子家庭等相談)
5. 下野市女性相談(DV)ホットライン
6. 民間の被害者支援団体(NPO法人)
7. その他(　　)
8. 知らない

問19　あなたは、問17 であげたようなドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。
あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

1. 暴力(身体的・精神的・性的・経済的等)を受けたことがある
2. 暴力(身体的・精神的・性的・経済的等)をふるったことがある
3. 身近に暴力(身体的・精神的・性的・経済的等)を受けた当事者がいる
4. 身近な人から相談を受けたことがある
5. テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
6. 見聞きしたことはなく、初めて知った
7. その他(　　)

問20　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。１つ選び、○を付けてください。

1. 相談した　→　問22～24にお進みください
2. 相談しなかった　→　問21にお進みください
3. ドメスティック・バイオレンスを受けたことがない　→　問25にお進みください

問21　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したりしなかった理由は何ですか。
下の記述欄にご自由にお書きください。

※問21をお答えの後は、問25へお進みください。

問22　あなたはドメスティック・バイオレンスについて、どこ（だれ）に相談しましたか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

1. とちぎ男女共同参画センター相談ルーム
2. あなたの相談室(栃木県警察本部)
3. 女性の人権ホットライン
4. 下野市健康福祉部児童福祉課（婦人相談・母子家庭等相談）
5. 下野市女性相談（DV）ホットライン
6. 民間の被害者支援団体（NPO法人）
7. 医師やカウンセラー
8. 家族や親せき
9. 友人・知人
10. その他（　　）

問23　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したことにより、その問題は解決しましたか。
１つ選び、○を付けてください。

1. 問題は解決した
2. 問題は解決しない
3. 現在も相談中（シェルター等に一時保護中等も含む）である
4. その他（　　）

問24　あなたは配偶者等から受けたドメスティック・バイオレンスの問題について、解決に至らなかった理由は何ですか。下の記述欄にご自由にお書きください。

問25　ドメスティック・バイオレンスを防ぐために、どのような取り組みがもっとも重要だと思いますか。１つ選び、○を付けてください。

1. 被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる
2. 家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる
3. 被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する
4. 加害者に対するカウンセリングやサポートを充実させる
5. 被害から逃れるための一時保護施設を設ける
6. 特に対応する必要はない
7. その他（　　）
8. 分からない

男女共同参画に対する意識についておたずねします

問26　あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えになりますか。１つ選び、○を付けてください。

1. 賛成である
2. どちらかと言えば賛成である
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば反対である
5. 反対である

問27　あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉や内容を知っていますか。次の（ア）～（コ）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

項　　目	1 よく知っている	2 多少は内容（中身）を知っている	3 名称（言葉）は聞いたことがある	4 全く知らない
(ｱ) 男女共同参画社会	1	2	3	4
(ｲ) 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
(ｳ) 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
(ｴ) 女子差別撤廃条約	1	2	3	4
(ｵ) 育児・介護休業法	1	2	3	4
(ｶ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3	4
(ｷ) ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
(ｸ) ジェンダー（社会的性別）	1	2	3	4
(ｹ) 子ども・子育てビジョン	1	2	3	4
(ｺ) エンパワーメント	1	2	3	4

問28　あなたは次にあげる項目で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
次の（ア）～（ク）の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

項　　目	1 女性の方が非常に優遇されている	2 どちらかと言えば女性の方が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかと言えば男性の方が優遇されている	5 男性の方が非常に優遇されている	6 どちらとも言えない
（ア）家庭生活	1	2	3	4	5	6
（イ）職場	1	2	3	4	5	6
（ウ）学校教育の場	1	2	3	4	5	6
（エ）政治の場	1	2	3	4	5	6
（オ）法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
（カ）社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
（キ）自治会活動など地域活動の場	1	2	3	4	5	6
（ク）社会全体	1	2	3	4	5	6

市(行政)に要望する方策についておたずねします

問29　市では男女共同参画社会の実現を目指すために、講演会の開催や情報紙の提供等を実施しています。次の(ア)～(エ)の項目について、それぞれ１つずつ選び、○を付けてください。

	①認知度		②利用等の状況	
(ア) 男女共同参画講演会 (年1回開催)	1.知っている	2.知らない	1.参加している 参加してみたい	2.参加したいと 思わない
(イ) 男女共同参画情報紙 シェアリング(年2回発行)	1.知っている	2.知らない	1.読んでいる 読んでみたい	2.読んでみたいと 思わない
(ウ) 男女共同参画週間パネル展 (年1回開催)	1.知っている	2.知らない	1.見ている 見てみたい	2.見たいと 思わない
(エ) 広報紙の掲載 (男女共同参画に関するコーナー)	1.知っている	2.知らない	1.読んでいる 読んでみたい	2.読んでみたいと 思わない

問30　市が実施する男女共同参画に関する事業で、あなたが参加してみたいと思うものはどれですか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

1. 男女共同参画に関する映画上映会
2. 教材等を用いた講習会(生き方、働き方、子育てについてなど)
3. 交流会(男女共同参画の考え方を学ぶための国際交流会など)
4. 団体・企業などの男女共同参画に関する事例・取組などの発表会
5. その他(具体的に　　)

注)問30の事業は、現在市では実施していません。

問31　あなたが市（行政）に相談したいと思うことを、あてはまるものを最大３つまで選び、○を付けてください。

1. 夫婦の問題に関すること
2. 子育てや幼児虐待に関すること
3. 子どもの教育に関すること
4. 障がいをもつ子どもに関すること
5. 介護に関すること
6. 家庭内暴力（DVを含む）に関すること
7. セクシュアル・ハラスメントに関すること
8. ストーカー行為に関すること
9. 家計に関すること
10. 税金や年金に関すること
11. 職場の人間関係・労働環境に関すること
12. その他（具体的に　　）
13. 特にない

問32　男女共同参画社会をつくるため、今後、市（行政）はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを最大３つまで選び、○を付けてください。

1. 市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める
2. 広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
3. 学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる
4. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる
5. ひとり親家庭に対する自立支援を徹底する
6. ドメスティック・バイオレンス等に関する相談窓口や保護機関を設置する
7. 職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる
8. 審議会など政策・方針決定過程に女性を積極的に登用する
9. リーダーの養成など女性の人材育成を推進する
10. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
11. その他（具体的に　　）

ご自由に記入してください

問33　男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

～ご協力ありがとうございました～

ご記入いただきました調査票は、平成２３年９月２０日（火）までに、同封の封筒に入れて切手を貼らずに投函してください。

下野市男女共同参画プラン市民意識調査
報告書

平成 24 年 2 月

発行　　下野市　総合政策部　総合政策課　政策推進グループ